



行動展開表現の日本語・中国語・韓国語・英語の対照研究

楊, 吟

(Degree)

博士 (文学)

(Date of Degree)

2013-09-25

(Date of Publication)

2014-09-01

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲第5920号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1005920>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



博 士 論 文

平成 25 年 7 月 10 日

行動展開表現の日本語・中国語・韓国語・英語の対照研究

神戸大学大学院人文学研究科博士課程

後期課程文化構造専攻

楊 吟

目次

第1章 本研究の立場.....	1
1. 研究の背景.....	1
2. 先行研究の概観.....	2
2.1.発話行為の先行研究.....	2
2.2.モダリティの先行研究.....	3
2.3.ポライトネスの先行研究.....	4
2.4.待遇表現の先行研究.....	5
2.5.行動展開表現の先行研究.....	5
3. 本稿の目的と研究方法.....	7
3.1.本稿の目的.....	7
3.2.研究方法.....	8
4. 本稿の構成.....	9
第2章 [依頼]表現の形式.....	10
1. はじめに.....	10
2. 先行研究.....	10
3. [依頼]表現の形式の全体像.....	11
3.1.[依頼]表現の形式バリエーション.....	11
3.2.平叙文の形式.....	13
3.3.命令文の形式.....	14
3.4.疑問文の形式.....	15
4. 考察.....	16
4.1.話し手の強制力の程度.....	16
4.2.話し手の強制力が強めな表現タイプ.....	18
4.3.話し手の強制力が弱めな表現タイプ.....	20
4.4.[依頼]における利益・恩恵について.....	22
5. 本章のまとめ.....	24
第3章 [勧め・助言]表現の形式.....	26
1. はじめに.....	26
2. 先行研究.....	26
3. [勧め・助言]表現の形式の全体像.....	27
3.1.[勧め・助言]表現の形式バリエーション.....	27

3.2.平叙文の形式.....	29
3.3.命令文の形式.....	31
3.4.疑問文の形式.....	32
4. 考察.....	33
4.1.話し手の強制力の程度.....	33
4.2.話し手の強制力が強めな表現タイプ.....	34
4.3.話し手の強制力が弱めな表現タイプ.....	39
5. 本章のまとめ.....	41
第4章 [誘い]表現の形式.....	43
1. はじめに.....	43
2. 先行研究.....	43
3. [誘い]表現の形式の全体像.....	44
3.1.[誘い]表現の形式バリエーション.....	44
3.2.平叙文の形式.....	45
3.3.命令文の形式.....	46
3.4.疑問文の形式.....	46
4. 考察.....	47
4.1.「グループ型」と「引き込み型」の[誘い]表現.....	47
4.2.意志の拡張か勧めの拡張か.....	49
4.3.典型的な[誘い]とそうでない表現.....	51
4.4.[誘い]が用いられる場合とそうでない場合.....	56
5. 本章のまとめ.....	57
第5章 [申し出]表現の形式.....	59
1. はじめに.....	59
2. 先行研究.....	59
3. [申し出]表現の形式の全体像.....	62
3.1.[申し出]表現の形式バリエーション.....	62
3.2.平叙文の形式.....	63
3.3.命令文の形式.....	64
3.4.疑問文の形式.....	64
4. 考察.....	65
4.1.決定権について.....	65
4.2.申し出場面の焦点化について.....	69
4.3.恩恵について.....	71

5. 本章のまとめ.....	73
第6章 行動展開表現の相互関係.....	75
1. はじめに.....	75
2. 各言語の表現形式のまとめ.....	75
3. 考察.....	79
3.1.平叙文・命令文・疑問文の使用.....	79
3.2.行動展開表現の形式の汎用性.....	79
3.3.形式から見る行動展開表現の連続性.....	81
3.3.1.[依頼]と[勧め・助言].....	82
3.3.2.[勧め・助言]と[誘い].....	83
3.3.3.[誘い]と[申し出].....	85
4. 本章のまとめ.....	88
第7章 おわりに.....	89
1. 本稿のまとめ.....	89
2. 今後の課題.....	92
用例出典.....	94
参考文献.....	95

第 1 章 本研究の立場

1. 研究の背景

日常コミュニケーションのうち、命令、依頼、勧め、誘い、申し出、許可などのような相手あるいは自分の何らかの行動を起こすための表現が相当の割合を占めている。このような表現は坂本ほか（1994）によって「行動展開表現」と呼ばれている。このような表現について、これまでさまざまな立場から数多くの研究が行われてきた。その中には、発話行為の成立条件や推論過程に注目する哲学的な立場や、行動の負担や人間関係に関わる配慮に注目する社会言語学的な立場や、表現意図と表現形式の關係に注目する語用論的な立場や、異なる言語における普遍性と個別性に注目する対照言語学的な立場や、学習者の習得や指導に注目する言語教育学的な立場などがある。これは、実に多大な関心が集まる研究分野の一つである。

それにも関わらず、筆者は行動展開表現についてまだ研究の余地があると考え。命令、依頼、勧め、誘い、申し出、許可など 1 つの表現意図を表すのに、よく複数の表現形式が用いられる。また、1 つの表現形式が複数の表現意図を表しうる場合もある。表現意図と表現形式のこのような多対多の關係を、表現意図から表現形式へと表現形式から表現意図への両方向から検討し、かつ、体系的に整理した研究はまだ多くはないようであり、そのような研究が必要だと感じられる。

また、グローバル化が進むなか、多言語の対照研究（contrastive study）の必要性がより高まっている。ある言語における表現形式がどのような特徴を持つかは、他言語と比べてはじめて明らかになることがある。これまでは、個別の言語の研究、あるいは 2 つの言語の対照研究がほとんどであるが、複数の言語と対照させることで、より多くの手がかりを得られるのではないかと考える。依頼表現については多言語の対照研究が見られるものの、その他の行動展開表現については多言語の対照研究はまだ少ない。それらの研究を充実させることが、ますます盛んになるであろう異文化交流や第二言語習得に役立つだろう。

このような従来の研究における空白を補うことが本稿の狙いである。そこで、本稿は、行動展開表現の代表的な [依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出]¹ 表現を中心に引き上げ、日本語・中国語・韓国語・英語の表現形式を対照させることで、それぞれの言語の特徴を検討する。

日本語・中国語・韓国語・英語を選んだ理由は、筆者がこの 4 つの言語をある程度理解

¹ 本稿では表現意図を [] で括って示す。以下同様。

しうる、ということがもちろん大きいですが、この 4 つの言語の行動展開表現の形式を比較すればどういう傾向が出るのだろうか、という疑問を持ったからでもある。文化的な要素や文構造的な要素が行動展開表現の使用に影響を与えるのではないかと予想するが、この意味で、この 4 つの言語は対照的で、研究対象としてふさわしいと考えられる。文化的要素に関して、日本語・中国語・韓国語は東洋の言語で、西洋の言語である英語とは対照的である。東洋の文化は控え目で謙虚だ、西洋の文化は率直だというイメージがあるが、そのように日本語・中国語・韓国語と英語の行動展開表現の間にそのような差が現れるだろうか。そして、文構造的な要素に関して、日本語と韓国語は語順や主語省略や敬語体系などの点で共通するところが多く、一方、中国語と英語は似た文構造を持っている。文化的な要素や文構造的な要素を重ねてみた際、日本語・中国語・韓国語・英語の行動展開表現はいつたいどういう実態を示すのか、本研究を通して解明したい。

2. 先行研究の概観

この節では、行動展開表現及び関連する諸分野の先行研究を概観する。なお、ここで言及するのは、行動展開表現の定義・分類・位置づけなどにかかわる研究である。個別な形式を扱う研究については、第 2 章以降の各章で必要に応じて触れることにする。

2.1. 発話行為の先行研究

命令や依頼のような表現は、最初哲学者である Austin(1962)によって「発語内行為(illocutionary act)」と呼ばれていた。「何かをいいつつ遂行される別の次元の行為」(山梨 1986 : 14) のことである。それに基づいて、後に Searle(1975)は、演述(assertives)、対動(directives)、自告(commissives)、宣言(declarations)、表出(expressives)²のように 5 分類した。

発話行為を個別に特徴づけるために、適切性条件(felicity conditions)が用いられている。たとえば、Searle (1969: 69)は依頼と助言の適切性条件をそれぞれ次の(1)と(2)のように提示している。

(1) Request

Propositional content: Future act A of H.

Preparatory: 1. H is able to do A. S believes H is able to do A.

2. It is not obvious to both S and H that H will do A in the normal course of events of his own accord.

Sincerity: S wants H to do A.

² この日本語の訳語は山岡 (2008) によるものである。

Essential: Counts as an attempt to get H to do A

(2) Advise

Propositional content: Future act A of H.

Preparatory: 1. S has some reason to believe A will benefit H.

2. It is not obvious to both S and H that H will do A in the normal course of events.

Sincerity: S believes A will benefit H.

Essential: Counts as an undertaking to the effect that A is in H's best interest.

適切性条件は間接発話行為の解釈にも用いられている。たとえば、(3)のような英語の形式が依頼を表しうるのは適切性条件を反映しているからであるという（山梨 1986）。

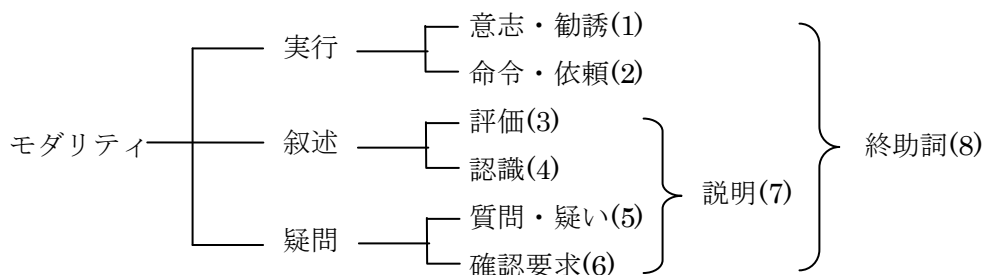
- (3) a. I want you to take out the garbage.
b. Can you take out the garbage?
c. Will you take out the garbage?
d. Would you be willing to take out the garbage?

発話行為理論の分類によると、本稿で扱う[依頼]、[勧め・助言]、[誘い]は対動(directives)のカテゴリーに属し、[申し出]は自告(commisives)のカテゴリーに属すると考えられる。発話行為理論は言語にかかわらず普遍的なものであるため、この意味では複数の言語の対照研究を行ううえで都合がいいとされており、実際、多くの対照研究に用いられている。本稿の対照の目的に合わないところがあるが、適切性条件の記述などは表現形式のタイプ分けに示唆を与えるものである。

2.2. モダリティの先行研究

日本語の場合、命令や依頼のような発話行為は、主に日本語のモダリティ研究の中で扱われてきている。寺村（1984）をはじめ、仁田（1991）、益岡（1991）などによる代表的なモダリティの分類が諸説あるが、その一例を挙げると、宮崎ほか（2002）では日本語のモダリティを次のように分類している。

(4) 宮崎ほか (2002 : 15)



このように、[依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出]³の表現形式は日本語のモダリティ研究ではよく実行のモダリティ形式として扱われている。たとえば、[依頼]を表すモダリティ形式として、日本語記述文法研究会 (2003) は次のようなものを挙げている。

(5) 「てくれ」「てください」

「てくれないか」「てくれるか」「てもらえないか」「てもらえるか」

「して」

「てほしい」「てもらいたい」

このような形式の表しうる機能や形式の使い分けなどについて詳しく検討しているところが、本研究にとって大変参考になっている。しかし、この捉え方はいわゆるモダリティ形式に偏っていることを問題点として指摘せざるを得ない。大きく異なる他言語の形式と対照する際に、モダリティという大枠があまりに限界があるように思われる。本稿は、[依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出]の機能を表しうる形式をもっと広く捉える立場をとる。たとえば、「よろしくお願いします」「お勧めします」のような形式でも[依頼]や「勧め・助言」の表現形式として扱う。

2.3. ポライトネスの先行研究

Brown & Levinson (1987) はポライトネスの普遍的な理論を打ち立てた。それによると、ポライトネスとは人間関係を円滑にするためのストラテジーであり、2種類のポライトネスがある。人のポジティブ・フェイス（個人から承認された望ましい自己像を維持することへの欲求）への配慮を「ポジティブ・ポライトネス(positive politeness)」といい、ネガティブ・フェイス（個人の領域を維持し行動の自由を保つことへの欲求）への配慮を「ネガティブ・ポライトネス(negative politeness)」という。

その後ポライトネス理論は各言語に応用され、言語使用に関連する現象において、ポラ

³ [勧め・助言]は「評価」のモダリティ形式が派生的に表しうる機能として、[申し出]は「意志」のモダリティ形式が派生的に表しうる機能として扱われている。

イトネスの観点からどのような配慮されているかを解釈する研究が盛んになった。また、その普遍性が言語を比較する際の共通の土台となり、多くの対照研究に用いられている。

本稿の分類などではポライトネス理論を積極的に用いることはとくにないが、実は、自分または相手が行動を起こしたりする行動展開表現の形式について語るなら必然的にポライトネスと関係することになる。相手への負担や相手との関係などによって相手へ配慮を配るということは、結果的に 1 つの表現意図を表すのに多様な表現形式が使われることをもたらしめているからである。本稿はこのようにポライトネス理論を背景に捉えている。

2.4. 待遇表現の先行研究

日本語の場合、対人的な配慮は待遇表現の研究で多く論じられている。日本語記述文法研究会（2009：227）によると、「待遇表現とは、同じ事態を述べるのに、対人関係や場面差などに配慮して使い分ける表現である」。話し手の待遇意図には、上向き待遇と中立・下向き待遇がある。敬語は上向き待遇の専用の表現である。日本語は敬語体系が発達している言語なので、待遇表現や敬語に関する研究は古代語から現代語まで、標準語から方言まで、幅広く入念に行われてきている。

対人的な配慮が必要になる行動を行う場面では、待遇表現の機能が重要になる。対人行動は、日本語記述文法研究会（2009）で次のように分類されている。

(6) 対人行動の類型

持ちかけ系	命令・禁止 依頼 勧め 助言・忠告 誘い 許可求め 申し出
応答系	承諾・許可 断り・許可
調整系	感謝 謝罪

これによると、本稿で取り上げる [依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出] はみな「持ちかけ系の対人行動」と位置付けられている。さまざま形式バリエーションは異なる待遇的意味を示しているように思われる。また、「実際の言語運用においては、…（中略）…待遇表現の相互乗り入れ（転用）も起きる」などの指摘からも示唆を得ている。

2.5. 行動展開表現の先行研究

待遇表現をより広く捉えたのは蒲谷ほか（2009）による「待遇コミュニケーション」である。「待遇コミュニケーションは、コミュニケーションをする主体（話し手・書き手・聞き手・読み手）が、コミュニケーションの場面（人間関係・場）を考えたり、配慮したりして行う、表現と理解のコミュニケーションのこと」である（蒲谷ほか 2009：76）。表現形式だけでなく、言語と非言語を含めた表現行為や理解行為のレベルで考えていて、単独

の表現、単独の行為だけでなく、相手とのやりとりや文章や談話（会話）全体で捉えている。

蒲谷ほか（2009）は坂本ほか（1994）を発展させた研究と見られるので、先に坂本ほか（1994）について述べる。坂本ほか（1994）では「自己表出表現」、「理解要請表現」と並べて、「表現内容を相手に伝えるだけではなく、それによって相手あるいは自分（またはその両者）が何らかの行動を起こし、その行動で表現内容が実現されることを「目的・意図」とする」表現を「行動展開表現」と呼んでいる。「行動（だれが行動するのか）、決定権（だれがその行動の決定権を持っているのか）、利益（その行動の結果、だれが利益・恩恵を受けるのか）」という3つの要素で、行動展開表現を次のように整理している。

(7) 坂本ほか（1994）による行動展開表現の分類

表現意図	行動	決定権	利益	典型的な表現
「忠告・助言」	A	A	A	シタハウガイイデスヨ
「勧誘」	AJ/A	A	AJ/A/J	シマセンカ・シマショウヨ
「依頼」	A	A	J	シテモラエマスカ・シテクレマスカ
「指示・命令」	A	J	J/A/O	シテクダサイ・シナサイ
「許可与え」	A	J	A	シテモイイデス
「申し出」	J	A	A	シマショウカ
「許可求め」	J	A	J	シテモイイデスカ
「確認」	J	A	J/A/O	シテモイイデスネ
「宣言」	J/AJ	J	J/A/O	シマス・サセテモライマス

(※Aは相手、Jは自分、AJは両者、Oはどちらでもない場合を示す。)

坂本ほか（1994）では「勧め」と「誘い」を一緒に扱い「勧誘」としているが、後に蒲谷ほか（2009）では分けるように変更している。

(8) 蒲谷ほか（2009）による行動展開表現の分類

表現意図	行動	決定権	利益・恩恵
「忠告・助言」	相手	相手	相手
「誘い」	自分・相手	相手	自分・相手
「勧め」	相手	相手	相手
「依頼」	相手	相手	自分
「指示・命令」	相手	自分	自分・相手・どちらにもない
「許可与え」	相手	自分	相手
「申し出」	自分	相手	相手

「許可求め」	自分	相手	自分
「確認」	自分	相手	自分・相手・どちらにもない
「宣言」	自分	自分	自分

坂本ほか（1994）、蒲谷ほか（2009）の行動展開表現の定義と分類基準は、言語を問わず普遍性を持っており、多言語の対照研究の理論的大枠として適用できると考える。また、行動展開表現の各表現意図と表現形式の関係について詳しく論じているところも本稿の関心と極めて近い。そして、待遇コミュニケーションの教育に生かすという彼らの研究の目的は、まだ先ながら筆者の最終の目的とも言える。

以上の理由から、本稿は行動展開表現を理論的大枠として用いる。蒲谷ほか（2009）の分類がより明確と思われるので、本稿は基本的にこの立場をとる。ただし、本稿では「行動、決定権、利益」において同じである「忠告・助言」と「勧め」を一緒に扱い、「勧め・助言」に統合する。

3.本稿の目的と研究方法

3.1.本稿の目的

2.5.節ですでに述べたように、坂本ほか（1994）、蒲谷ほか（2009）は「行動」「決定権」「利益」の3つの基準を用いて、行動展開表現を分類している。彼らの研究は日本語教育を意識しているが、言語にかかわらず普遍性があり、日本語・中国語・韓国語・英語の対照を行う際、表現形式の分類としてふさわしいと考える。したがって、本稿は、基本的に蒲谷ほか（2009）に示された行動展開表現という大枠のもとで、[依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出] 表現の日本語・中国語・韓国語・英語の形式について検討する。

本稿の一つ目の目的は、それぞれの表現意図を表すのにどのような表現形式が各言語で用いられるか、そして逆にそれらの表現形式はどのような表現意図を表しうるかを整理し、表現意図と表現形式の多対多な関係を明らかにすることである。二つ目の目的は、各言語における行動展開表現及びその相互関係を見ることによって、行動展開表現のとらえ方を見直し、新たな知見を提供することである。

蒲谷ほか（2009）は、[依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出] の構造を次のように提示している。

(9) 蒲谷ほか（2009）による〔依頼〕〔勧め・助言〕〔誘い〕〔申し出〕の構造

	行動	決定権	利益・恩恵
依頼	相手	相手	自分
勧め・助言	相手	相手	相手
誘い	自分と相手	相手	自分と相手
申し出	自分	相手	相手

本稿は、「行動」については、そのまま蒲谷ほか（2009）に従い、相手か自分か自分と相手の両方かというように分ける。「決定権」については、高梨（2011）の指摘を援用し、「決定権を聞き手と話し手のどちらにあるかの二者選択ではなく、よりどちらが強いかという程度のなもの」として捉えたい。したがって、〔依頼〕、〔勧め・助言〕、〔誘い〕、〔申し出〕表現は全体としてみな「聞き手の決定権が強い」カテゴリーであるとする。実は、具体的な表現形式によって「聞き手の決定権／話し手の強制力」の強弱の幅があるが、それについては、次章以降の考察で詳しく論じる。「利益・恩恵」については、(9)に示しているものは典型的な場合であって、たとえば、〔誘い〕では利益が相手に傾いている、あるいは自分に傾いている場合もあると考える。それについては、第4章で改めて検討する。

また、坂本ほか（1994）、蒲谷ほか（2009）の研究は表現意図から表現形式を見るという方向をとっているが、本稿はそれだけではなく、表現形式から表現意図及び相互関係を見るという方向を提案したい。第6章でそれについて論じる。

3.2. 研究方法

本稿は、具体的に、次の4つの課題に分けて考察を進める。

- ①〔依頼〕、〔勧め・助言〕、〔誘い〕、〔申し出〕の表現意図を表すために、日本語・中国語・韓国語・英語ではどのような表現形式が使われるか。
- ②日本語の現代小説にどのような〔依頼〕、〔勧め・助言〕、〔誘い〕、〔申し出〕の用例があるか。そして、それは中国語・英語・韓国語ではどのように訳されているか。
- ③日本語・中国語・韓国語・英語の〔依頼〕、〔勧め・助言〕、〔誘い〕、〔申し出〕の表現形式はどのような特徴を持っているか。
- ④形式の観点から、日本語・中国語・韓国語・英語の〔依頼〕、〔勧め・助言〕、〔誘い〕、〔申し出〕はどのような関連性を持っているか。

①の表現形式を整理する際、平叙文、命令文、疑問文の3つの文類型に分けてまとめる。いわゆるモダリティ形式にこだわらず、表現意図を表しうるかどうかという語用論的なとらえ方で表現形式をリストアップする。さらに、意味的に近いものを1つの表現タイプと

してまとめる。なお、表現意図を [] で括って示し、表現タイプを《》で括って示す。

②の小説の用例を調査する際、[依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出] の分類の基準に従って、まず用例出典に示した日本語原文の小説を読んで文脈を判断して、手動的に用例を抽出する。次に、その中国語・韓国語・英語の訳本の対応する箇所を抽出する。表現形式をタイプ分けするとき、語尾活用などの場合は基本形と同じタイプとみなす。

小説の用例とその対訳を用いるのは、さまざまな場面や人間関係の設定が現れうると同時に、その設定が 4 つの言語において統一されていることや、翻訳が公表されたもので正確性が信用できるといったメリットが考えられるからである。しかし、小説の用例に限界があることも認めざるをえない。日本語の原文の形式の影響を受けたり、または翻訳者のくせがあったり、意識によって意味が変わったりすることで⁴、中国語・英語・韓国語の用例は偏っている可能性も考えられるという問題点が残っている。このような限界を踏まえたうえで、本稿は小説とその対訳の用例調査をもとに考察を行っていく。

③の日本語・中国語・韓国語・英語の表現形式の特徴を考察する際、決定権や強制力や利益・恩恵などいろいろな観点から、形式バリエーションの比較と用例における使用頻度の比較に基づいて、日本語・中国語・韓国語・英語の違いを探る。

④の表現形式から表現意図を見る際、日本語・中国語・韓国語・英語の表現形式をタイプごとにまとめ、同一の表現タイプが複数の行動展開表現に使われるところに注目し、そこから行動展開表現の関係性について検討する。

4.本稿の構成

次章以降、表現意図から表現形式を見る（第 2 章～第 5 章）ことと、表現形式から表現意図を見る（第 6 章）ことの 2 つの方向から、行動展開表現の日本語・中国語・韓国語・英語における特徴を明らかにしたい。第 2 章～第 5 章では、それぞれ依頼、勧め・助言、誘い、申し出の意図を表すのに用いられる日本語・中国語・韓国語・英語の表現形式をまとめたうえで、表現式の言語ごとの特徴を論じる。第 6 章では、日本語・中国語・韓国語・英語の表現形式がどのような表現意図を表しうるかをまとめたうえで、表現形式の使用から各言語における行動展開表現の相互関係を論じる。第 7 章では、本稿のまとめ及び今後の課題について述べる。

⁴ 翻訳が省略された場合や原文とあまりに離れた場合、用例から外すようにしている。

第2章 [依頼] 表現の形式

1.はじめに

[依頼] 表現、すなわち、聞き手に何かの行為をお願いする表現は、行動展開表現のうち、もっとも研究されている表現の一つである。相手に負担をかける分、相手に配慮する必要があり、状況によってさまざまな形式が使われている。これまでの個別言語の研究や対照研究で明らかになったことを踏まえて、本章は、日本語・中国語・韓国語・英語の4つの言語における[依頼]表現の形式を比較し、それぞれの特徴の解明に新たな視点を与えたい。

2.先行研究

[依頼] 表現は、これまでさまざまなアプローチで研究されてきた。英語圏の発話行為理論やポライトネス理論の影響を受けた研究が多く見られる一方、日本語のモダリティ研究や待遇表現の研究など日本語の特徴を重視した研究にも有益な示唆が多い。すでに第1章で述べたように、坂本ほか(1994)、蒲谷ほか(2009)の行動展開表現の定義・分類は普遍性があり、多言語の対照研究にふさわしいと思われるので、本稿は、基本的に彼らの行動展開表現の定義に従って、日本語・中国語・韓国語・英語の対照研究を行っていく。

蒲谷ほか(2009)によると、[依頼] 表現は「行動=相手、決定権=相手、利益・恩恵=自分」という構造を持っていると述べている。

(1) 蒲谷ほか(2009) : [依頼] 表現の構造

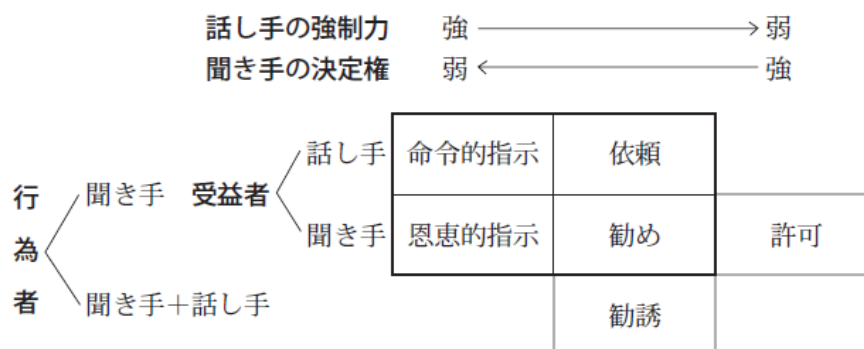
行動=相手
決定権=相手
利益・恩恵=自分

本稿は、「行動」と「利益・恩恵」に関しては、蒲谷ほか(2009)と同じ立場をとる。「決定権」に関しては、基本的に聞き手の決定権が優勢で、話し手の強制力が強くないが、実際使われる表現形式において、話し手の強制力に幅があると思われる。たとえば、次の(2)(3)のような[依頼]表現を比べると、話し手の強制力に違いがあることが分かるだろう。

- (2) 「……ちゃんと、部屋代入れます。」私はなんだか胸がつまって、必死で言った。「次住む所を見つけるまで、ここで眠らして下さい。」(博士：p.165)
- (3) 「大事な急ぎの仕事をしているところなんだ。一時間くらいで部屋を出るから、そのときまで待ってもらえないかな？ 今のところこの部屋の空調にはとくに問題もないみたいだし」(1Q84：p.67)

高梨（2011）は、行為要求表現の分類について「行為者」「利益」の2つを用いたところは蒲谷ほか（2009）と共通するが、決定権に関してはやや違う立場を述べている。「決定権を、聞き手と話し手のどちらにあるかの二者選択ではなく、よりどちらが強いかという程度のなものとして考える。行為を発動するかどうかについての聞き手の決定権は、話し手の強制力と相反する関係にあるが、強制力にはさまざまな程度がありうる。」と指摘し、「聞き手の決定権・話し手の強制力の強弱」を行為要求の分類に用いている。「依頼」は「命令的指示」より話し手の強制力が弱く、聞き手の決定権が強いというように位置付けている。

(4) 高梨（2011）：行為要求の分類



筆者は、「話し手の強制力・聞き手の決定権」という強弱の程度は、[依頼] という一つのカテゴリのなかでも、表現形式によってさまざまな程度がありうると思う。そのため、本稿では、[依頼] 表現のなかの各形式について「話し手の強制力の強弱」をさらに詳しく考察することにする。

3. [依頼] 表現の形式の全体像

3.1. [依頼] 表現の形式バリエーション

〔依頼〕表現の形式は、バリエーションが豊富で多くの先行研究によって取り上げられている。本稿は日本語・中国語・韓国語・英語それぞれの先行研究を踏まえて、まず、どのような形式があるのかという全体像を確認しておきたい。言語を問わず、〔依頼〕表現の形式にかかわる文の類型は平叙文、命令文、疑問文の 3 つである。そのため、本稿はまずこの 3 類型に分けて、日本語・中国語・韓国語・英語にある〔依頼〕表現の形式をリストアップし、意味的に近いものを 1 つのタイプとしてまとめる⁵。次の(5)のように一覧を示す。

なお、各形式にそれぞれ番号をつける。最初のアルファベットの大文字は言語（J は日本語、C は中国語、K は韓国語、E は英語）を表し、次の 2 桁数字はその言語における表現形式の通し番号を表し、最後の小文字のアルファベットは表現タイプを表す。

(5) 〔依頼〕表現の形式バリエーション

	日本語	中国語	韓国語	英語	表現タイプ
平叙文	J01a. よろしくお 願ひします J02a. してもらう	C01a. 麻烦你了 C02a. 麻烦你做	K01a. 잘 부탁합니다	×	a. 《依頼宣言》
	J03b. してもらい たい J04b. してほしい	C03b. 我想麻烦你做 C04b. 我希望你能 做	K02b. 해주시기 바랍니다	E01b. I want/ I'd like you to do	b. 《願望表出》
	J05c. してもらえ れば助かる／う れしい／ありが たい	×	K03c. 해주면 좋겠어요/감사하 겠습니다	E02c. I'd appreciate it if you could do	c. 《感情表出》
	J06d. してもらえ ればと思う	×	K04d. 해주셨으 면 합니다	E03d. I wonder if you could do	d. 《思考表出》
命令文	×	C05e. 你做	K05e. 해요/하세 요	E04e. Do	e. 《命令的要求》
	J07f. して／して ちょうだい J08f. してくれ J09f. してくださ い	C06f. 请做	K06f. 해주세요/해 주세요	E05f. Please do	f. 《依頼的要求》
	×	×	×	E06g. Please.	g. 《直接依頼》

⁵ 表現タイプを《》で括って示す。以下同様。

疑問文	J10h. できるか	C07h. 你能做吗? ／你能不能做?	K07h. 해줄 수 있어요?	E07h. Can/ Could you do? E08h. Would it be possible for you to do?	h. 《可能質問》
	J11i. してくれる か／してくれな いか	C08i. 你做好吗? C09i. 请做好吗?	K08i. 해주시겠 어요? K09i. 해줄래요?	E09i. Will you do?/ Would you please do? E10i. Do/ Would you mind doing?	i. 《意志質問》
	J12j. してもらえ るか／してもら えないか J13j. お願いでき るか J14j. してもらっ ていいか	C10j. 能麻烦你做 吗? C11j. 麻烦你做好 吗?	K10j. 부탁해도 될까요?	E11j. Can I ask you to do?	j. 《依頼可能 質問》

3.2. 平叙文の形式

平叙文には、「a.相手に頼むことを宣言する表現《依頼宣言》」、「b.行動の実現への願望を表す表現《願望表出》」、「c.行動の実現による嬉しさや感謝などを表す表現《感情表出》」、「d.行動の実現の可能性を考える表現《思考表出》」が用いられる。

以下、左側に形式の基本形を示し⁶、右側に例文を挙げる。なお、中国語・韓国語の下に直訳をつける。

a. 《依頼宣言》

J01a. よろしくお願いします

これからよろしくお願いします。

J02a. してもらおう

これ、ちょっと貸してもらおうね。

C01a. 麻烦你了

今后麻烦你了。

C02a. 麻烦你做

麻烦你给我杯水。

⁶ 韓国語では、聞き手によって6つの待遇法（上称、中称、等称、下称、略待丁寧形、略待普通形）を使い分けているが、本稿では、慣用的な言い方以外、略待丁寧形「아/어요」の形で基本形を示す。略待丁寧形は、待遇区分の違いを省略しながらも相手を一定の距離をおいて遇する言葉遣いである。韓国語の待遇法について、詳しくは梅田（1991）を参照したい。

K01a. 잘 부탁드립니다
よろしく お願いします

앞으로 잘 부탁드립니다.
これからよろしくお願いします。

b. 《願望表出》

J03b. してもらいたい

ぜひ来ていただきたいのですが。

J04b. してほしい

信じてほしい。

C03b. 我想 麻烦 你 做
私 したい 頼む あなた する

我想 麻烦 您 帮 我 写 一封 推荐信。
私 したい 頼む あなた 手伝う 私 書く 一通 推薦状

C04b. 我希望 你 能 做
私 望む あなた できる する

我希望 你 能 来。
私 望む あなた できる 来る

K02b. 해주시기 바랍니다
してくださるよう 望みます

3 페이지를 참조 해주시기 바랍니다.
3 ページを 参考して くださるよう 望みます

E01b. I want/ I'd like you to do

I want you to see my parents.

c. 《感情表出》

J05c. してもらえれば助かる/うれしい/ありがたい

教えていただければ助かりますが。

K03c. 해주면 좋겠어요/감사하겠습니다
してくだされば いいです/感謝します

가르쳐 주시면 감사하겠습니다.
教えて くだされば 感謝いたします

E02c. I'd appreciate it if you could do

I'd appreciate it very much if you could write a recommendation letter for me.

d. 《思考表出》

J06d. してもらえればと思う

ご協力いただければと思います。

K04d. 해주셨으면 합니다
してくだされば 思います

가르쳐 주셨으면 합니다.
教えて くだされば 思います

E03d. I wonder if you could do

I wonder if you could help me with my homework.

3.3. 命令文の形式

命令文には、「e.相手に命令するような行為要求の表現《命令的要求》」、「f.相手にお願いするような行為要求の表現《依頼的要求》」、「g.相手に直接頼むときに用いる表現《直接依頼》」が用いられる。

e. 《命令的要求》

C05e. 你 做
あなた しなさい

帮 我 拍 张 照 吧。
手伝いなさい 私 撮る 一枚 写真 ね

K05e. 해요/하세요

しなさい

잠시만 기다리세요

少し 待ちなさい

E04e. Do

Wait a minute.

f. 《依頼的要求》

J07f. して/してちょうだい

ちょっと聞いて。

J08f. してくれ

信じてくれ。

J09f. してください

ちょっと待ってください。

C06f. 请 做

请 等一下。

どうぞ してください

どうぞ 待ってください

K06f. 해줘요/ 해주세요

명동까지 가 주세요.

してくれ/してください

明洞まで 行ってください

E05f. Please do

Please take me to the station.

g. 《直接依頼》

E06g. Please

(ほしいかと聞かれて) Yes, please.

3.4. 疑問文の形式

疑問文には、「h.相手に行動を実行できるかどうかをたずねる表現《可能質問》」、「i. 相手に行動実行の意志をたずねる表現《意志質問》」、「j.依頼することが可能かどうかを相手にたずねる表現《依頼可能質問》」が用いられる。

h. 《可能質問》

J10h. できるか

今、出てこられるか。

C07h. 你 能 做 吗? / 你 能不能做?

你 能 借 我 一百块钱 吗?

あなた できる か/あなた できるかどうか

あなた できる 貸す 私 百円 か

K07h. 해 줄 수 있어요?

100 엔을 빌려 줄 수 있어요?

してくれることができますか

100 円を 貸してくれることができますか

E07h. Can/ Could you do?

Could you lend me 100 yen?

E08h. Would it be possible for you to do?

Would it be possible for you to check this paper for me?

i. 《意志質問》

J11i. してくれるか/してくれないか

ここで待っててくれますか。

C08i. 你 做 好吗?

你 在这儿 等 我 一会儿 好吗?

あなた しなさい いいか

あなた で ここ 待って下さい 私 しばらく いいか

C09i.

请	做	好吗?
---	---	-----

どうぞ してください いいか

K08i.

해주시겠어요?

していただけますか

K09i.

해줄래요?

してくれませんか

E09i.

Will you do?/ Would you please do?

E10i.

Do/ Would you mind doing?

请 告诉 我 你的 名字 好吗?

どうぞ 教えてください 私 あなたの 名前 いいか

이름을 가르쳐 주시겠습니까?

名前を 教えてくださいませんか

맛있는 곳을 좀 추천해줄래요?

おいしい ところを ちょっと 勧めてくださいか

Would you please wait here for a moment?

Do you mind telling me your name?

j. 《依頼可能質問》

J12j.

してもらえるか/してもらえないか

一度検討していただけますか。

J13j.

お願いできるか

ご住所とお名前をお願いできますか。

J14j.

してもらっていいか

もう一度言ってもらっていいですか。

C10j.

能 麻烦 你 做 吗?

能 麻烦 你 帮 我 修改 一下 吗?

できる 頼む あなた する か

できる 頼む あなた 助ける 私 チェック ちょっと か

C11j.

麻烦 你 做 好吗?

麻烦 你 再 说 一遍 好吗?

頼む あなた する いいか

頼む あなた また 言う 一回 いいか

K10j.

부탁해도 될까요?

다시 한번 부탁해도 될까요?

お願いしても いいでしょうか

もう 一度 お願いしても いいでしょうか

E11j.

Can I ask you to do?

Can I ask you to come later?

4. 考察

4.1. 話し手の強制力の程度

[依頼] 表現は、[命令] に比べて話し手の決定権はるかに弱く、聞き手側に決定権があるのが基本である。しかし、[依頼] という一つのカテゴリのなかでも、表現形式によって、話し手の強制力が強く聞き手の決定権が弱いようなものから、話し手の強制力が弱く聞き手の決定権が強いものまで存在すると考える。

話し手の強制力の強弱という観点から見れば、3.1節の(5)に示した形式バリエーションのうち、平叙文類の a. 《依頼宣言》タイプと、命令文類のタイプ (e. 《命令的要求》、f. 《依頼的要求》、g. 《直接依頼》) は話し手の強制力が強めな表現タイプだと思われる。一方、平叙文類の b. 《願望表出》、c. 《感情表出》、d. 《思考表出》タイプと、疑問文類のタイプ (h. 《可能質問》、i. 《意志質問》、j. 《依頼可能質問》) は話し手の強制力が弱めな表現タイプだと思われる。まとめると、次の(6)になる。なお、その表現タイプの数はそれぞれ次の(7)のようになっている。

(6) 話し手の強制力の強弱による表現タイプの分類

話し手の強制力が強めな表現タイプ	話し手の強制力が弱めな表現タイプ
a. 《依頼宣言》(英×)	b. 《願望表出》
e. 《命令的要求》(日×)	c. 《感情表出》(中×)
f. 《依頼的要求》	d. 《思考表出》(中×)
g. 《直接依頼》(日×、中×、韓×)	h. 《可能質問》
	i. 《意志質問》
	j. 《依頼可能質問》

(7) 話し手の強制力が強めな表現タイプと弱めな表現タイプの比較

	日本語	中国語	韓国語	英語
話し手の強制力が強めな表現タイプ	5	4	3	3
話し手の強制力が弱めな表現タイプ	9	7	7	8

[依頼] の形式バリエーションを見る限り、日本語・英語が中国語・韓国語より話し手の強制力が弱めな表現タイプを多く持っているようである。果して実際では、それぞれの言語においてどの表現タイプの形式が多く使われるのか。日本語の現代小説とその中国語・韓国語・英語訳から用例を調べた結果、次の(8)のとおりであった。

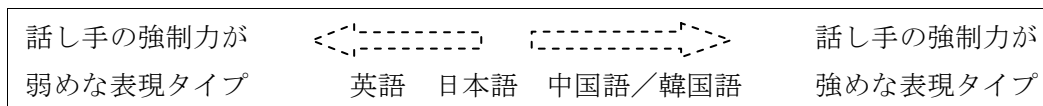
(8) 日本語の用例とその中国語・韓国語・英語訳の表現タイプ別用例数

表現タイプ		日本語	中国語	韓国語	英語
話し手の強制力が強めなタイプ	a. 《依頼宣言》	4	3	2	×
	e. 《命令的要求》	×	19	20	14
	f. 《依頼的要求》	22	7	6	3
	g. 《直接依頼》	×	×	×	0
	合計	26	29	28	17
話し手の強制力が弱めなタイプ	b. 《願望表出》	7	2	0	7
	c. 《感情表出》	0	×	1	2
	d. 《思考表出》	0	×	×	2
	h. 《可能質問》	2	8	5	2
	i. 《意志質問》	0	1	1	2
	j. 《依頼可能質問》	7	1	0	1
合計	16	12	7	16	
			その他 1	その他 7	その他 9

話し手の強制力が強めな表現タイプの使用数では、日本語・中国語・韓国語が英語より多い。話し手の強制力が弱めな表現タイプの使用数では、日本語・英語が中国語・韓国語より多い。

4つの言語を比べて、英語は、強めな表現タイプの使用が比較的少ないことと、弱めな表現タイプの使用が比較的多いことを踏まえて、4つの言語のなかで、もっとも話し手の強制力が弱めな表現タイプが好まれる言語ではないかと思われる。中国語と韓国語は、強めな表現タイプの使用が比較的多いことと、弱めな表現タイプの使用が比較的少ないことから、話し手の強制力が強めな表現タイプが好まれる言語ではないかと思われる。日本語はその中間に位置するようである。このことを仮説として立ておいて、次節以降で用例を挙げながら検討したい。仮説を次の(9)のように示す。

(9) 仮説



4.2.話し手の強制力が強めな表現タイプ

前節では、表現タイプの全体の使用傾向について述べたが、この節では、話し手の強制力が強めな表現タイプについて詳しく見る。

用例の詳細を見るために、まず日本語の用例の原文とその訳の表現タイプを、次の(10)のように整理する。なお、下線は以下の考察で言及するところを示している。

(10) 日本語原文とその訳の表現タイプ

日本語	中国語	韓国語	英語
《依頼宣言》 4	《依頼宣言》 2 《依頼的要求》 1 《願望表出》 1	《依頼宣言》 2 その他 2 ⁷	《依頼的要求》 2 <u>《願望表出》 1</u> <u>《感情表出》 1</u>
《依頼的要求》 22	《命令的要求》 14 《依頼的要求》 5 《依頼宣言》 1 《可能質問》 1 その他 1	《命令的要求》 15 《依頼的要求》 5 その他 2	《命令的要求》 12 <u>《願望表出》 3</u> <u>《感情表出》 1</u> 《依頼的要求》 1 その他 5 ⁸

⁷ 韓：意志宣言 1、肯定評価 1

⁸ 中：義務 1、韓：意志宣言 1、肯定評価 1、英：意志宣言 2、許可可能 1、義務 1、意見質問 1

《願望表出》 7	《命令的要求》 5 《依頼的要求》 1 《願望表出》 1	《命令的要求》 4 《依頼的要求》 1 《感情表出》 1 その他 1	《願望表出》 2 《命令的要求》 2 その他 3 ⁹
《可能質問》 2	《可能質問》 2	《可能質問》 1 《意志質問》 1	《可能質問》 2
《依頼可能質問》 7	《可能質問》 5 《依頼可能質問》 1 《意志質問》 1	《可能質問》 4 《命令的要求》 1 その他 2	《思考表出》 2 《意志質問》 2 《願望表出》 1 《依頼可能質問》 1 その他 1 ¹⁰

今回の日本語の原文の用例に、話し手の強制力が強めな表現タイプでは、《依頼宣言》と《依頼的要求》タイプが現れた。話し手の強制力が弱めな表現タイプでは、《願望表出》《可能質問》《依頼可能質問》タイプが現れた。

(10)を見て分かるように、日本語の話し手の強制力が強めな表現タイプが、中国語・韓国語・英語でも強めな表現タイプで訳されている場合が多いが、英語訳はとくに弱めな表現タイプ（《願望表出》《感情表出》）も多く見られた。例えば、(11)は日本語の《依頼的要求》タイプが英語で《願望表出》で訳されている。(12)は日本語の《依頼的要求》タイプが英語で《感情表出》で訳されている。

(11) 「明日の夕方は空いてるか?」

予備校の講義は朝早く始まって、午後の四時に終わる。幸か不幸か、そのあとは何も予定は入っていない。「空いてますよ」と天吾は言った。

「夕方の六時に、新宿の中村屋に行ってくれ。俺の名前で奥の方のわりに静かなテーブルを予約しておく。うちの会社のつけがきくから、なんでも好きなものを飲み食いしていい。そして二人でじっくりと話し合ってくれ」(1Q84 : p.79) ¹¹

⁹ 韓：意志表明 1、英：意志宣言 1、許可求め 1、許可可能 1、意見質問 1

¹⁰ 韓：許可求め 1、思考表出 1、英：許可求め 1

¹¹ (11)の中国語訳、韓国語訳は《命令的要求》タイプになっている。

(前略) “傍晚 六点, 你 到 新宿 的 中村屋, 我会以我的名义订一张靠里
夕方 6時 あなた 行きなさい 新宿 の 中村屋
一些的安静的桌子。尽管拣喜欢的东西吃喝好了, 记在我们公司的帐上就行。你们两个人好好谈谈。” (p.50)

(前略) “저녁 여섯시에 신주쿠 나카무라야로 가봐. 내 이름으로 안쪽에
夕方 6時に 新宿 中村屋へ 行ってみなさい
조용한 테이블을 예약해둘게. 우리 회사로 청구될 거니까 뭐든 좋을 대로 먹고 마셔도 돼. 그리고 둘이서 찬찬히 얘기를 좀 해보라고.” (p.92)

“Are you free tomorrow evening?” His classes started in the morning and ended at four. Fortunately (or unfortunately) he had nothing after that. “I’m free,” he said.

“Good. I want you to go to the Nakamura Café in Shinjuku at six o’clock. I’ll reserve a table for you in the back where it’s quiet. It’ll be in my name and on the company’s tab, so eat and drink as much as you like. The two of you can have a nice, long talk.” (p.41)

(12) 「……ちゃんと、部屋代入れます。」私はなんだか胸がつまって、必死で言った。「次住む所を見つけるまで、ここで眠らせて下さい。」(キッチン：p.29)¹²

“...Naturally, I'll pay rent and everything," I said, desperately moved. My chest was full to bursting. "But yes, till I find another place to live, I'd really appreciate your putting me up." (p.19)

日本語の原文では《依頼的要求》タイプという話し手の強制力が強めな表現タイプが使われているにもかかわらず、英語訳では《願望表出》や《感情表出》のような話し手の強制力が弱めな表現タイプが用いられている。このことから、英語は日本語より弱めな表現タイプがよく使われると言えよう。

4.3.話し手の強制力が弱めな表現タイプ

一方、(10)に示しているように、日本語の話し手の強制力が弱めな表現タイプが、中国語・韓国語・英語で同じく弱めな表現タイプで訳されている場合も多いが、中国語訳と韓国語訳はとくに強めな表現タイプ(《命令的要求》《依頼的要求》)も多く見られた。例えば、(13)は日本語の《願望表出》タイプが中国語・韓国語で《命令的要求》で訳されており、(14)は日本語の《願望表出》タイプが中国語で《依頼的要求》で、韓国語で《命令的要求》で訳されている用例である。

¹² (12)中国語・韓国語訳は《依頼的要求》タイプとなっている。

“……房租，我一定会交的。”我心头翻涌起一股热流，激动地说，

“请 让 我 暂时 睡 在这里，直到找到新的住处。” (p.25)

どうぞ させる 私 とりあえず 寝る に ここ

"...방세는 내겠어요"

나도 모르게 목이 메어, 온 힘으로 말했다.

"살 집을 찾을 때까지, 여기있게 _____ 해주세요" (p.28)

ここにるように してください

(13) 「そんな事分かってるわよ。誰のためにママが苦労していると思ってるの？野球の本ばかり読んでないで、ちょっとは一緒に 考えてほしいんだけど」(博士：p.83)¹³

“这我自己也知道，也不想想妈妈这么辛苦是为了谁。别老看棒球书了，偶尔 也 帮着 一起 想想 嘛。”(p.60)
たまにも 手伝いなさい 一緒に 考える よ

"그런 건 엄마도 다 알아. 하지만 누구 때문에 엄마가 이 고생하는 건데? 야구 책만 보지 말고 너도 좀 생각해봐."(p.76)
あなたも 少し 考えてみなさい

(14) 「なんだ、そんなの簡単、簡単。すぐ出来る。じゃあ、博士に宿題を出させてあげる代わりに、僕の頼みも聞いてほしい。ラジオを修理してほしいんだ」(博士：p.60)¹⁴

“什么嘛，这个简单、简单。马上就能算出来。那么，博士，既然我同意你出作业了，我也希望你答应我一个请求，请你把收音机修好。”(p.43)

“에게, 간단하네요. 금방 풀 수 있어요. 박사님도 숙제 냈으니까 제 부탁도 들어줘요. 라디오 좀 고쳐놓으세요.”(p.56)

日本語の原文では《願望表出》タイプという話し手の強制力が弱めな表現タイプが使われているにもかかわらず、中国語訳と韓国語訳では《命令的要求》や《依頼的要求》のような話し手の強制力が強めな表現タイプが用いられている。また、(8)に示しているように、話し手の強制力が強めな表現タイプの使用用例数の合計でも中国語・韓国語は日本語より多かった。これらのことから、中国語・韓国語は日本語より強めな表現タイプがよく使われると言えよう。

以上の考察をもって、(9)の仮説が正しいであることを確かめた。話し手の強制力について、結論を次の(15)のようにまとめる。

(15) [依頼] 表現は全体的に聞き手の決定権が優勢で、話し手の強制力が強くない。しかしその中でも、比較的話し手の強制力が強い表現タイプが使われる場合と比較的弱い

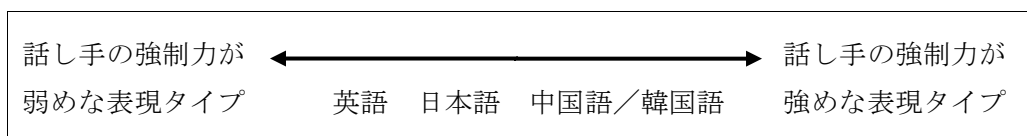
¹³ (13)の英語訳はその他(許可可能)となっている。

"I know! But whose problem is this anyway? Maybe you could stop reading your baseball books for a minute and help me." (p.53)

¹⁴ (14)の英語訳は《願望表出》タイプとなっている。

"Okay, I'll let you give me homework if you'll do something for me. I want you to get the radio fixed." (p.38)

表現タイプが使われる場合がある。英語では話し手の強制力が弱めな表現タイプを多く使うが、中国語・韓国語では話し手の強制力が強めな形式を多く使う¹⁵。日本語はその間に位置する。



4.4. [依頼]における利益・恩恵について

[依頼]は利益・恩恵が自分にあるため、日本語では「～てくれる」「～てもらう」という自分が恩恵を受ける授受表現を使って利益・恩恵を言語化することができる。韓国語のそれにあたる表現は「아/어 주다」を用いる。中国語と英語では「请」と「please」という丁寧を表す形式を使ってお願いのニュアンスを明確にすることができ、利益・恩恵を表すことにつながる。

形式バリエーションのうち、日本語と韓国語で授受表現が含まれるのは次のようなものである。

(16) 日本語と韓国語の授受表現が含まれる形式

日本語	韓国語
J02a.してもらう	K02b.해주시기 바랍니다
J03b.してもらいたい	K03c.해주면 좋겠어요/감사합니다
J05c.してもらえれば助かる／うれしい／ありがたい	K05f.해줘요/해주세요
J06d.してもらえればと思う	K06h.해줄 수 있어요?
J08f.してくれ	K07i.해주시겠어요?
J09f.してください	K08i.해줄래요?
J11i.してくれるか／してくれないか	
J12j.してもらえるか／してもらえないか	
J14j.もらっていいか	

中国語と英語で丁寧な形式が含まれるのは次のようなものである。

¹⁵ 用例数に限りがあって、韓国語と中国語の間にはっきりとした差が出なかった。

(17) 中国語と英語の丁寧な形式が含まれる形式

中国語	英語
C06f. 请做	E05f. Please do
C09i. 请做好吗?	E06g. Please.
	E09i. Would you please do? ¹⁶

これらの利益・恩恵を表す形式を比べると、明らかに日本語が韓国語・英語・中国語より多くの形式を持つことが分かる。日本語の「依頼」表現に授受表現が含まれる形式が多いということが日本語の大きな特徴であると言えよう。

実際の用例で、日本語が中国語・韓国語・英語でどう訳されているのだろうか。どの言語でも利益・恩恵を表す形式が用いられる《依頼的要求》タイプの用例を見てみたい。(10)に示したように、日本語の《依頼的要求》タイプが中国語・韓国語・英語で同じ《依頼的要求》で訳されているのは少なく、半分以上は《依頼的要求》ではなく《命令的要求》に訳されている。次の(18)は中国語・韓国語・英語で《依頼的要求》タイプで訳されている。0は中国語・韓国語・英語で《命令的要求》タイプで訳されている。

(18) 「フェールボールにはくれぐれもご注意ください」¹⁷

場内アナウンスが流れた。(博士：p.151)

“各位 观众, 请 大家 千万千万 要 注意 界外球。”

皆さま 観客 どうぞ 皆さま くれぐれも 必要だ 注意する フェールボール
球場广播里说道。(p.109)

"과울 볼에는 _____ 늘 조심 해주십시오."

フェールボールに 常に 気をつけてください
그때 장내 방송이 올렸다. (p.136)

"Please watch out for foul balls," the stadium announcer reminded us. (p.95)

「(前略) ……今からすぐにでも『空気さなぎ』の改稿にとりかかってくれ。時間はない。書き直した原稿をなるべく早く、応募原稿の山の中に戻さなくちゃならない。オリジナルと取り替えるんだよ。十日あれば書き上げられるか？」(1Q84：p.101)

¹⁶ 「Can/ Could you do?」のタイプも「please」を含む場合があるだろうが。ここでは以上の3つでとどめておく。

¹⁷ 「お～ください」のこの用法を「懇願」と呼んでいる研究もある(宮崎ほか2002)。

“……你 马上就 动手 改写 《空气蛹》，我们没有时间了。

あなた すぐに 始めなさい 書き直す 『空気さなぎ』

改写完毕的原稿，还必须尽早送到堆积如山的应征稿里，把原来的稿子换下来。十天内，你能写好吗？” (p.65)

“……지금부터 당장이라도 「공기 번데기」 리라이팅 작업에 뛰어들라고.

今から すぐでも 『空気さなぎ』 書き直す 作業に 飛び込みなさい

시간이 없어. 새 원고를 되도록 빨리, 응모작들 더미 속에 다시 갖다줘야해. 원본과 바꿔치기하는 거야. 열흘이면 할 수 있을까?”(p.118)

“……Start rewriting the manuscript right away. We don't have any time to lose. I've got to return the rewritten manuscript to the pile of entries as soon as possible, switch it for the original. Can you do the job in ten days?” (p.52)

韓国語・中国語・英語では日本語ほど利益・恩恵を表す形式を使わない傾向がうかがえる。前田・山田 (2011 : 96) は「～てください」と「해주세요」のズレについてこう述べている。「たとえば「質問してください」の場合、韓国語では질문 하세요が適切で、질문해주세요とは言いません。実際に自分に利益があるときのみ해주세요「してください」を用い、それ以外は하세요「しなさい」を用います。」日本語と比べて、韓国語・中国語・英語では《命令的要求》タイプの表現形式でも〔依頼〕の表現意図を表しうるということが大きな特徴だと言えよう。

5.本章のまとめ

本章では、行動展開表現の一つである〔依頼〕表現を取り上げ、日本語・中国語・韓国語・英語の表現形式のバリエーションをまとめたうえで、話し手の強制力の強弱と利益・恩恵の角度から、比較考察を行った。

〔依頼〕の表現意図を表しうる表現形式は、《依頼宣言》、《願望表出》、《感情表出》、《思考表出》、《命令的要求》、《依頼的要求》、《直接依頼》、《可能質問》、《意志質問》、《依頼可能質問》という表現タイプに分けられる。

〔依頼〕表現は全体として話し手の強制力が弱く、聞き手の決定権が強いが、実際使われる表現形式は話し手の強制力の強弱の程度がさまざまある。《依頼宣言》、《命令的要求》、《依頼的要求》、《直接依頼》を話し手の強制力が強めな表現タイプとし、そのほかを話し手の強制力が弱めな表現タイプとすることができる。日本語の小説の用例とその中国語・韓国語・英語訳を比べると、英語では話し手の強制力が弱めな表現タイプが多く使われるのに対して、中国語と韓国語話し手の強制力が強めな表現タイプが多く使われ、日本語は

その中間に位置するという傾向が分かった。

〔依頼〕の利益・恩恵が自分にあるので、自分が利益・恩恵を受けることを表す表現形式が使われる場合がある。ほかの言語と比べて、日本語は授受表現が含まれる表現形式を多用するということが大きな特徴である。一方、中国語・韓国語・英語は日本語ほど自分が利益・恩恵を受けることを表す表現形式が使われない。《命令的要求》タイプのような自分が利益・恩恵を受けることを表さない表現形式でも〔依頼〕の表現意図を表しうる、ということが特徴的である。

第3章 [勧め・助言] 表現の形式

1.はじめに

話し手が聞き手に有益な物や行動を勧めたりするときに使う表現は、代表的行動展開表現の一つであり、「忠告・助言」(坂本ほか(1994))、あるいは「アドバイス(勧め)」(蒲谷ほか(2009))と呼ばれたりしている。本稿では、その名称を「勧め・助言」と統合し、[勧め・助言]表現の形式について、日本語・中国語・韓国語・英語の対照を行っていきたい。

2.先行研究

蒲谷ほか(2009)によると、[勧め・助言]は「行動＝相手、決定権＝相手、利益・恩恵＝相手」という構造を持っている。

(1) 蒲谷ほか(2009) : [勧め・助言] の構造

行動＝相手
決定権＝相手
利益・恩恵＝相手

本稿は、「行動」と「利益・恩恵」に関しては、蒲谷ほか(2009)と同じ立場をとる。「決定権」に関しては検討の余地があると思われる。勧めるとき、話し手が聞き手に有益な物や行動を選択肢として与えるので、話し手の強制力があまり強くなくて、行動するかどうかの決定権は基本的に聞き手に譲っている。しかし、実際使われる表現形式において、話し手の強制力に幅があると思われる。たとえば、次の(2)(3)のような例を比べれば、話し手の強制力に違いがあることが分かるだろう。

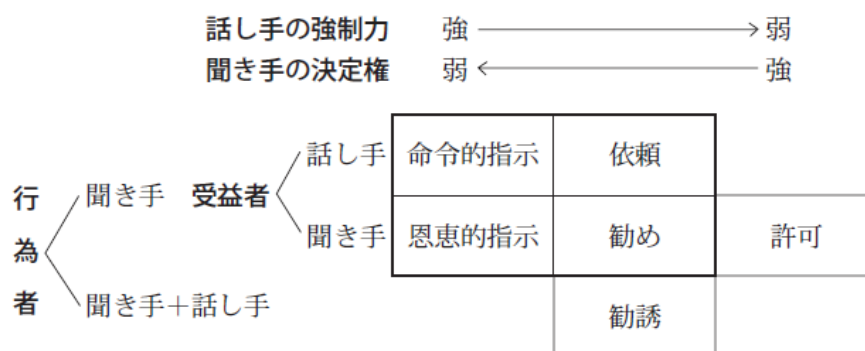
(2) 「ちゃんと、考えなさいね。」彼は笑い、
「はい、心がけます。」私は答えた。(キッチン：p.37)

(3) 「日本語は、うまくない、といったけど、英語は得意だからね、教えてもらうといい。」

だけど、日本の生活に馴染んでいないから、いろいろ教えてあげてください。アメリカの生活の話も、聞いてごらん。面白いから。じゃ、いいね」(トット：p.245)

高梨(2011)は、「決定権を、聞き手と話し手のどちらにあるかの二者選択ではなく、よりどちらが強いかという程度的なものとして考える。行為を発動するかどうかについての聞き手の決定権は、話し手の強制力と相反する関係にあるが、強制力にはさまざまな程度がありうる。」と指摘し、「聞き手の決定権・話し手の強制力の強弱」を行為要求の分類に用いている。高梨(2011)によると、「勧め」は「恩恵的指示」より話し手の強制力が弱く、聞き手の決定権が強いというように位置づけられている。

(4) 高梨(2011)：行為要求の分類



筆者は、「話し手の強制力・聞き手の決定権」という強弱の程度は、[勧め・助言]という一つのカテゴリーのなかでも、表現形式によってさまざまな程度がありうると考えられる。そのため、本稿では、[勧め・助言]表現のなかの各形式について「話し手の強制力の強弱」をさらに詳しく考察することにする。

3. [勧め・助言] 表現の形式の全体像

3.1. [勧め・助言] 表現の形式バリエーション

まず、日本語・中国語・韓国語・英語において、どのような[勧め・助言]表現の形式があるかを確認しておこう。言語を問わず、[勧め・助言]表現の形式にかかわる文の類型は平叙文、命令文、疑問文の3つである。そのため、本稿はまずこの3類型に分けて、日本語・中国語・英語・韓国語にある[勧め・助言]表現の形式をリストアップし、意味的に近いものを1つのタイプとしてまとめる。次の(5)のように一覧を示す。

なお、各形式にそれぞれ番号をつける。最初のアルファベットの大文字は言語(Jは日本語、Cは中国語、Eは英語、Kは韓国語)を表し、次の2桁数字はその言語における表現

形式の通し番号を表し、最後の小文字のアルファベットは表現タイプを表す。

(5) [勧め・助言] 表現の形式バリエーション

	日本語	中国語	韓国語	英語	表現タイプ
平 叙 文	J01a. お勧め ます／お勧め です	C01a. 我建议/ 推荐你做	K01a. 추천합니다 /권해 드립니다	E01a. I would recommend/ suggest you do E02a. My advice would be	a. 《勧め宣言》
	×	C02b. 我要是你 的话，我就做	×	E03b. If I were you/ If you ask me, I would do	b. 《仮定》
	J02c. したほうが いい	C03c. 你最好做 C04c. 你还是做 好	K02c. 하는게 좋아요 K03c. 하는 편이 좋아요	E04c. You had better do	c. 《比較評価》
	J03d. すると／ すれば／したら いい	C05d. 你做好了	K04d. 하면 좋아요/하면 돼요	E05d. It would be a good idea to do	d. 《肯定評価》
	J04e. して (も) いい	C06e. 你可以做	×	E06e. You could do	e. 《許可》
	J05f. するべきだ J06f. しないとい けない／しなけ ればならない	C07f. 你要 / 应 该/得/必须做	K05f. 해야 해요/ 해야 돼요 K06f. 하지 않으면 안 돼요	E07f. You should/ must/ have to/ have got to/ ought to / need to do	f. 《義務》
	J07g. しましょ う	×	K07g. 하자/합시다	E08g. Let's do	g. 《意志表明》
命 令 文	J08h.しろ J09h.しなさい J10h. お～くだ さい	C08h. 你做	K08h. 해라 K09h. 해요/하세 요	E09h. Do	h. 《命令的要 求》
	J11i. して J12i. してくだ さい	C09i. 请做	K10i. 해주세요/해주 세요	E10i. Please do	i. 《依頼的要 求》
	J13j. どうぞ	×	×	×	j. 《直接勧め》

疑問文	J14k. するか／ しないか	C10k. 你做吗？ /你做不做？	K11k. 할래요?/안 할래요?/하지 않을래요?	E11k. Will you do/ Won't you do?	k. 《行為質問》
	×	C11l. 你要做吗/ 你要不要做？	×	E12l. Would you like to do/ Do you want to do?	l. 《願望質問》
	J15m. どう／い かが J16m. したら／ すれば J17m. したらど う／してはどう	C12m. 怎 么 样？ C13m. 你做怎 么样？	K12m. 어때요? K13m. 하는게 어때요?	E13m. How about? E14m. How about doing? E15m. Why don't you do?	m. 《意見質 問》

3.2. 平叙文の表現形式

平叙文には、「a.相手に勧めることを宣言する表現《勧め宣言》」、「b.自分が相手と仮定した場合にとる行動を述べる表現《仮定》」、「c.相手の行動が比較的によいと評価する表現《比較評価》」、「d.相手の行動を肯定的に評価する表現《肯定評価》」、「e.相手の行動が可能と認める表現《許可》」、「f.相手に行動の義務があると伝える表現《義務》」、「g.行動の意志を相手に向けて述べる表現《意志表明》」が用いられる。

以下、左側に形式の基本形を示し、右側に例文を挙げる。なお、中国語・韓国語の下に直訳をつける。

a. 《勧め宣言》

J01a. お勧めします／お勧めです

この本がお勧めです。

C01a. 我 建议/推荐 你 做
私 勧める あなた する

我 推荐 你 看 这本书。
私 勧める あなた 読む この 本

K01a. 추천합니다/권해 드립니다
推薦します/お勧めします

이 책을 추천합니다.
この 本を 推薦します

E01a. I would recommend/ suggest you do

I would suggest you read this book.

E02a. My advice would be

b. 《仮定》

C02b. 我 要是 你 的话, 我 就 做
私 もし あなた ならば 私 する

我 要是 你 的话, 我 就 选 这 间。
私 もし あなた ならば 私 選ぶ この 部屋

E03b. If I were you/ If you ask me, I would do

If I were you, I would choose this room.

c. 《比較評価》

J02c. したほうがいい

先生に聞いたほうがいい。

C03c. 你 最好 做
あなた 一番いい する

你 最好 问 一下 老师。
あなた 一番いい 聞く ちょっと 先生

C04c. 你 还是 做 好
あなた やはり する いい

你 还是 问 一下 老师 好。
あなた やはり 聞く ちょっと 先生 いい

K02c. 하는게 좋아요
する こと いい

선생님에게 물어 보는게 좋아요.
先生に 質問する こと いいです

K03c. 하는 편이 좋아요
する ほうが いい

선생님에게 묻는 편이 좋아요.
先生に 聞く ほうが いいです

E04c. You had better do

You had better ask the professor.

d. 《肯定評価》

J03d. すると/すれば/したらいい

毎日運動するといい。

C05d. 你 做 好了
あなた する いい

你 每天 运动 好了。
あなた 毎日 運動 いい

K04d. 하면 좋아요/ 돼요
すれば いい

매일 운동하면 좋아요.
毎日 運動すれば いいです

E05d. It would be a good idea to do

It would be a good idea if you do exercise every day.

e. 《許可》

J04e. して (も) いい

このままでいいよ。

C06e. 你 可以 做
あなた できる する

你 可以 问 一下 老师。
あなた できる 聞く ちょっと 先生

E06e. You could do

You could ask the professor.

f. 《義務》

J05f. するべきだ

この映画は見るべきだ。

J06f. しないといけない/しなければならない

もっと食べないと。

C07f. 你 要/ 应该/ 得/ 必须 做
あなた 必要/ べき/ 必要/ 必須だ する

你 要 多 吃 点。
あなた 必要 たくさん 食べる ちょっと

K05f. 해야 해요/해야 돼요 しなければいけない	책을 많이 읽어야 해요. 本をたくさん読まなければいけません
K06f. 하지 않으면 안 돼요 しなければいけない	책을 많이 읽지 않으면 안 돼요. 本をたくさん読まなければいけません
E07f. You should/ must/ have to/ have got to/ ought to / need to do	You should watch this movie.

g. 《意志表明》

J07g. しましろう	今度気をつけましよう。
K07g. 하자/ 합시다 しよう/しましろう	(子供に) 갈아 입자. 着替えよう
E08g. Let's do¹⁸	(子供に) Let's get changed.

3.3. 命令文の表現形式

命令文には、「h.相手に命令するような行為要求の表現《命令的要求》」、「i.相手にお願いするような行為要求の表現《依頼的要求》」、「j.相手に直接勧めるときに用いる表現《直接勧め》」が用いられる。

h. 《命令的要求》

J08h. しろ	しっかり生きろよ。
J09h. しなさい	ちゃんと考えなさいね。
J10h. お〜ください	どうぞ、お座りください。
C08h. 你 做 あなた しなさい	你 坐 吧。 あなた 座りなさい ね
K08h. 해라 しろ	더 먹어라. もっと 食べろ
K09h. 해요/하세요 しなさい	여기 앉아. ここ 座りなさい
E09h. Do	Just feel free to eat as much as you like.

i. 《依頼的要求》

J11i. して	考えてみてね。
J12i. してください	触ってみてください。

¹⁸ 「Let's do」は形式的に命令文ではあるが、ここではほかの言語と対照しやすいように、便宜上、意味合いに従い《意志表明》タイプに入れることにする。

C09i. 请 做	请 用 茶。
どうぞ してください	どうぞ 使ってください お茶
K10i. 해줘요/ 해주세요	믿고 맡겨주세요.
してくれ/してください	信じて 任せてください
E10i. Please do	Please help yourself.

j. 《直接勧め》

J13j. どうぞ	(お茶を出して) どうぞ。
-----------	---------------

3.4. 疑問文の表現形式

疑問文には、「k.相手の今後の行動をたずねる表現《行為質問》」、「l.相手の願望をたずねる表現《願望質問》」、「m.提案に対して相手の意見をたずねる表現《意見質問》」が用いられる。

k. 《行為質問》

J14k. するか/しないか	もう一度考え直さないか。
C10k. 你 做 吗? / 你 做不做?	你 尝尝看?
あなた する か/あなた するかしないか	あなた 食べてみる
K11k. 할래요? / 안 할래요? / 하지 않을래요?	커피 마실래요?
しますか/しない しますか/しませんか	コーヒー 飲みますか
E11k. Will you do/ Won't you do?	Won't you think it over just once more?

l. 《願望質問》

C11l. 你 要 做 吗? / 你 要不要做?	你 要 吃 蛋糕 吗?
あなた たい する か/あなた したいか	あなた したい 食べる ケーキ か
E12l. Would you like to do/ Do you want to do?	Do you want to have some cupcakes?

m. 《意見質問》

J15m. どう/いかが	お茶でもどうですか。
J16m. したら/すれば	学校の近くに引っ越したら?
J17m. したらどう/してはどう	もう一度考えてみてはどう?
C12m. 怎么样?	这本书 怎么样?
どう	この 本 どう
C13m. 你 做 怎么样?	你 住 这儿 怎么样?

あなた する どう
 K12m. 어때요?
 どう
 K13m. 하는게 어때요?
 する こと どう
 E13m. How about?
 E14m. How about doing?
 E15m. Why don't you do?

あなた 泊まる ここ どう
 이 책은 어때요?
 この 本は どうですか
 학교 근처에 이사하면 어떨까요?
 学校 近くに 引っ越せば どうでしょうか
 How about this book?
 How about moving somewhere closer to your school?
 Why not move somewhere closer to your school?

4. 考察

4.1.話し手の強制力の程度

話し手の強制力の強弱という観点から見れば、表現形式にはさまざまな程度がある。強く勧める場合とそうでない場合によって用いられる表現は異なる。日本語から考えれば、一般的に、平叙文類の f. 《義務》、g. 《意志表明》タイプと、命令文類のタイプ (h. 《命令的要求》、i. 《依頼的要求》、l. 《直接勧め》) は話し手の強制力が強めな表現タイプだと思われる。一方、平叙文類の a. 《勧め宣言》、c. 《比較評価》、d. 《肯定評価》、e. 《許可》タイプと、疑問文類のタイプ (k. 《行為質問》、n. 《意見質問》) は話し手の強制力が弱めな表現タイプだと思われる。まとめると、次の(6)になる。

(6) 日本語の表現形式における話し手の強制力の強弱程度

話し手の強制力が強めな表現タイプ	話し手の強制力が弱めな表現タイプ
f. 《義務》	a. 《勧め宣言》
g. 《意志表明》(中×)	(b. 《仮定》)(日×、韓×)
h. 《命令的要求》	c. 《比較評価》
i. 《依頼的要求》	d. 《肯定評価》
j. 《直接勧め》(中×、韓×、英×)	e. 《許可》(韓×)
	k. 《行為質問》
	(l. 《願望質問》)(日×、韓×)
	m. 《意見質問》

(※b.と l.は日本語の表現形式にないため、括弧に入れた)

3.1の(5)に示した形式バリエーションを見る限り、日本語の方が中国語・韓国語・英語より話し手の強制力が強めな表現タイプを多く持っているように見える。果して実際でも日

本語では話し手の強制力が強めなタイプの形式が多く使われているのか。あるいは、それぞれの言語ではどのタイプの形式が多く使われるのか。日本語の現代小説とその中国語・韓国語・英語訳から用例を調べた結果、次のとおりであった。

(7) 日本語の用例とその中国語・韓国語・英語訳の表現タイプ別用例数

表現タイプ		日本語	中国語	韓国語	英語
話し手の強制力が強めなタイプ	f. 《義務》	3	6	5	5
	g. 《意志表明》	2	×	1	3
	h. 《命令的要求》	11	21	29	23
	i. 《依頼的要求》	15	8	3	5
	j. 《直接勧め》	2	×	×	×
	合計	33	35	38	36
話し手の強制力が弱めなタイプ	a. 《勧め宣言》	0	0	0	0
	b. 《仮定》	×	0	×	1
	c. 《比較評価》	2	1	3	1
	d. 《肯定評価》	3	0	4	0
	e. 《許可》	2	2	×	2
	k. 《行為質問》	3	2	2	0
	l. 《願望質問》	×	2	×	3
	m. 《意見質問》	5	4	0	1
	合計	15	11	9	8
			その他 2	その他 1	その他 4

各言語とも全体的に話し手の強制力が強めな表現タイプの用例数が多い。しかし、形式バリエーションの数と違って、実際の用例を見ると、話し手の強制力が強めな表現タイプでは韓国語・英語・中国語が日本語よりも多い結果になっていることが分かった。また、話し手の強制力が弱めな表現タイプの使用は日本語が中国語・韓国語・英語より多い。このことから、韓国語・英語・中国語は日本語より話し手の強制力が強めな表現タイプが好まれるのではないかと考えられる。これを仮説として、次の(8)のように提示しておく。次節以降で用例を挙げながら検討したい。

(8) 仮説

話し手の強制力が弱めな表現タイプ	<-----	----->	話し手の強制力が強めな表現タイプ
	日本語	中国語／英語／韓国語	

4.2.話し手の強制力が強めな表現タイプ

この節では、話し手の強制力が強めな表現タイプについて詳しく見る。用例の詳細を見るために、まず日本語の用例の原文とその訳の表現タイプを、次の(9)のように整理する。なお、下線は以下の考察で言及するところを示している。

(9) 日本語原文とその訳の表現タイプ

日本語	中国語	韓国語	英語
《義務》3	《義務》2 《命令的要求》1	《義務》3	《義務》1 《命令的要求》1 《意志表明》1
《意志表明》2	《命令的要求》2	《意志表明》1 《義務》1	《意志表明》2
<u>《命令的要求》11</u>	<u>《命令的要求》6</u> 《義務》3 <u>《依頼的要求》1</u> 《許可》1	<u>《命令的要求》9</u> 《比較評価》1 《肯定評価》1	<u>《命令的要求》9</u> 《比較評価》1 《義務》1
<u>《依頼的要求》15</u>	<u>《命令的要求》7</u> <u>《依頼的要求》5</u> 《行為質問》1 《意見質問》1 その他1	<u>《命令的要求》10</u> <u>《依頼的要求》3</u> 《肯定評価》1 その他1	<u>《命令的要求》7</u> <u>《依頼的要求》4</u> 《許可》1 《願望質問》1 その他 2 ¹⁹
《直接行動》2	《依頼的要求》2	《命令的要求》2	《命令的要求》1 《依頼的要求》1
《比較評価》2	《比較評価》1 <u>《義務》1</u>	《比較評価》1 <u>《義務》1</u>	<u>《義務》1</u> その他 1 ²⁰
《肯定評価》3	《許可》1 《意見質問》1 <u>《命令的要求》1</u>	《肯定評価》2 《比較評価》1	《許可》1 <u>《命令的要求》1</u> その他 1 ²¹
《許可》2	<u>《命令的要求》2</u>	<u>《命令的要求》2</u>	<u>《命令的要求》1</u> <u>《義務》1</u>
《行為質問》3	《意見質問》1 《願望質問》1	《行為質問》2 <u>《命令的要求》1</u>	《願望質問》1 <u>《命令的要求》1</u>

¹⁹ 中：願望表出1、韓：許可1、英：願望表出1、意向質問1

²⁰ 英：願望表出1

²¹ 英：感想1

	その他 1 ²²		《義務》 1
《意見質問》 5	《命令的要求》 2 《意見質問》 1 《願望質問》 1 《行為質問》 1	《命令的要求》 5	《命令的要求》 2 《意見質問》 1 《願望質問》 1 《仮定》 1

話し手の強制力が強めな表現タイプの場合、日本語では《依頼的要求》タイプが一番多いが、中国語・韓国語・英語で同じ《依頼的要求》で訳されているのは少なく、半分ほどは《依頼的要求》ではなく《命令的要求》に訳されている。次の(10)では韓国語訳が²³、(11)では中国語・英語訳が《依頼的要求》タイプになっている²⁴。

(10) 「ケガした猫や、犬がいたら、僕のところへ持ってきてね。なおして、あげるから」
(トット：p.285)

"다친 고양이나 개가 있으면 저한테로 데려와 주세요. 제가 치료해줄
けがした 猫か 犬が いれば 私に 連れてきてください
테니까요."

(11) 「あっ、どうも失礼」彼は座布団を手にし、彼女のほうに差し出した。「どうぞ、使ってください」(容疑者：p.41)

“不好意思，”他拿起坐垫，递给靖子，“请用，别客气。” (p.28)
どうぞ使ってください しない 遠慮

²² 中：可能質問 1

²³ 中国語・英語では以下のように《命令的要求》に訳されている。

“如果有受伤的猫和狗，就拿到我这里来吧。
もしいる けがした 猫 と 犬 すぐに 持ちなさい まで 私 ここ 来る ね
我会把它们治好的。” (p.241)

"If you find any injured cats or dogs," he said, "bring them to me and I'll fix them up." (p.186)

²⁴ 韓国語では以下のように《命令的要求》に訳されている。

"아, 미안해요." 그는 방석을 집어 들어 그녀 쪽으로 밀어주었다.
"자, 여기 앉으세요." (p.50)
さあ ここ 座ってください

"Er, sorry about that." He picked up the cushion and offered it to her. "Please, use this." (p.33)

「持ってきてね／대려와 주세요」「どうぞ、使ってください／请用／Please, use this」のように、《依頼的要求》タイプには丁寧・恩恵的な要素が含まれている。日本語・韓国語では自分が恩恵を受けることを表す形式が、中国語・英語では命令文を和らげる（「请/Please」）形式が用いられている。

次に、これら《依頼的要求》が《依頼的要求》に訳されている用例を、《依頼的要求》が《命令的要求》タイプに訳されている用例と比べたい。次の(12)(13)は日本語の《依頼的要求》が中国語・韓国語・英語で《命令的要求》タイプに訳されている。

(12) 「ちょうどいいわ。引っ越し祝いあげる。」そして、くるくる紙に包まれたもうひとつの包みを差し出した。広げると、バナナの絵が描いてあるきれいなグラスが出てきた。

「それで、ジュースを飲んでね。」 えり子さんが言った。(キッチン：p.45)

“正好，有礼物给你，庆祝乔迁之喜的。”说着，她又把另一个被纸严严实实包裹着的東西递过来，我打开一看，是一个绘制了香蕉图案的精美的玻璃杯。

“拿 这个 喝 果汁。” 惠理子告诉我。(p.41)

持ちなさい これ 飲む ジュース

마침 잘됐네. 이사 축하 선물 줘야지" 그리고 종이로 둘둘 만 꾸러미를 내밀었다. 펼쳐보니 바나나 그림이 그려진 예쁜 유리컵이었다.

"이걸로 주스 마셔요" 에리코 씨가 말했다. (p.44)

これで ジュース 飲みなさい

"This is perfect. I have a moving-in gift for her." Then she produced another package, this one wrapped round and round with paper. When I opened it, I saw that it was a pretty glass decorated with a banana motif.

"Be sure to drink lots of juice, okay?" said Eriko. (p.31)

(13) 「母親は今、店をちょっと抜けてくるそうだから、よかったら家の中でも見せて。案内しようか？どこで判断するタイプ？」(キッチン：p.14)

“我妈说她一会儿就会抽空从店里回来，你 先 随便 看看。要我做向导吗？

あなた まず 気軽に 見なさい

你喜欢从哪儿做判断？” (p.11)

"어머니는 지금, 가게에서 잠깐 빠져나오겠다고 하니까, 집 안이라도 둘러봐요.

家 中でも 見まわしなさい

안내할까요? 뭐로 판단하는 타입이죠?" (p.14)

"My mother says she'll get away from work soon. Take a look around if you'd like. Should I give you the tour? Or pick a room, then I'll know what kind of person you are," (p.9)

(12)(13) 「飲んでね」「よかったら～見てて」のように、日本語は自分に利益をもたらすような依頼の形式を使って相手に勧めている。それに対して、中国語・韓国語・英語訳では動詞の基本形だけが用いられていて、「请」「해 주다」「please」といった《依頼的要求》タイプに加えられる丁寧・恩恵的な要素が見られず、命令的要求と同じ形式で相手に勧めている。

日本語でも丁寧・恩恵的な要素が含まれない《命令的要求》タイプを用いて勧める場合がある。この場合は、たいてい中国語・韓国語・英語訳で《命令的要求》のタイプで訳されている。例えば、次の(14)(15)がその例である。

(14) 「ジュースを買うのならば、あの嬢さんからにしなさい」 (博士： p.141)

“要买果汁的话，跟 那个 姑娘 买。” (p.102)

に あの お嬢さん 買いなさい

“저기 저 아가씨한테 사.” (p.128)

あそこ あの お嬢さんに 買いなさい

"Get it from that girl over there." He pointed to a young woman who was climbing the other aisle. (p.89)

(15) 「いいです。ここは私がやります。あなたはお嬢さんを手伝ってやりなさい」 (容疑者： p.47)

“不用了，这边我来处理，你 去 帮 美里。” (p.32)

あなた 行きなさい 手伝う 美里

"아, 그만 됐습니다. 여긴 내가 할 테니. 따님을 도와주도록 하세요." (p.57)
娘さんを 手伝てあげるように 下さい

"Actually, never mind. I'll do this. You go help your daughter." (p.38)

《依頼的要求》と《命令的要求》タイプの使い分け、つまり丁寧・恩恵的な要素を使用するかしないかは言語によって差が現れた。それぞれの文脈を比べてみると、(10)は生徒の送別会での発言で、(11)は隣人に座布団を勧める場面である。(12)はお母さんが息子の友人にプレゼントをする場面で、(13)は友人に家の見学を勧める場面である。(14)は家政婦に助言する場面で、(15)は隣人に助言する場面である。日本語では(10)(11)(12)(13)において《依頼的要求》タイプが使われ、(14)(15)において《命令的要求》タイプが使われている。一方、中国語・韓国語・英語訳では(10)(11) (の一部) (12)(13)(14)(15)がほとんど《命令的要求》タイプになっている。《命令的要求》が《依頼的要求》より話し手の強制力が強いとするなら、中国語・韓国語・英語は、日本語より話し手の強制力が強めな表現タイプが好まれると言えよう。

話し手の強制力が強めな表現タイプの日本語の用例とその訳の違い、特に《命令的要求》タイプと《依頼的要求》タイプの比較から、「韓国語・英語・中国語は日本語より話し手の強制力が強めな表現タイプが好まれる」という(8)の仮説が正しいことを確かめた。

4.3.話し手の強制力が弱めな表現タイプ

4.2.の(9)を見て分かるように、日本語に話し手の強制力が弱めな表現タイプ(《比較評価》、《肯定評価》、《許可》、《行為質問》、《意見質問》)が 15 例あったが、韓国語では 9 例[60%]、英語では 8 例[53%]、中国語では 6 例[40%]が話し手の強制力が強めな表現タイプ(《命令的要求》、《義務》)に訳されている。

(16) 日本語の話し手の強制力が弱めな表現タイプの用例の訳

話し手の強制力が 弱めな表現タイプ	(日) 15 例	→	(韓) 9 例[60%]	話し手の強制力が 強めな表現タイプ
			(英) 8 例[53%]	
			(中) 6 例[40%]	

(17)は日本語の《比較評価》タイプが、中国語・韓国語・英語で《義務》に訳されている例である。

(17) 「でもその前に、まず死体を移しましょう。この部屋は一刻も早く掃除をしたほうがいい。 犯行の痕跡が山のように残っているでしょうから」(容疑者：p.40)

“还是先移走尸体。这间屋子要 尽快 打扫，因为一定留有堆积如山的犯罪痕迹。” (p.27)
この部屋 必要だ できるだけ早く 掃除する

"그 전에 일단 시체를 옮기도록 하지요. 이 방은 빨리 청소를 해야 합니다.
この部屋は 早く 掃除を しなければならない
범행 흔적이 사방에 널려 있을 테니까요." (p.49)

"No, actually," Ishigami cut her off, "before that, let's move the body. We should clean up this room as quickly as possible. I'm sure there are mountains of evidence here as it is now." (p.32)

(18)は日本語の《許可》タイプが、中国語・韓国語・英語で《命令的要求》に訳されている例である。

(18) 「明日の朝はぼくいないから、あるものはなんでも使っていいよ。」(キッチン：p.22)

“明天早上我不在，家里的东西随便用 啊。” (p.18)
家 なか の もの 気軽に 使いなさいね

"내일 아침에는 나 없으니까, 있는 것 아무거나 쓰요" (p.23)
ある もの なんでも 使いなさい

"I'll be out of here early in the morning, so just help yourself to whatever you want." (p.15)

(19)は日本語の《意見質問》タイプが、中国語で《意見質問》、韓国語・英語で《命令的要求》に訳されている例である。

(19) 「話は、ちょっとお休みして、おやつにしたら?」(トット：p.61)

“先 歇 一会儿 再说 吧，吃 点儿 点心 怎么样?”
とりあえず 休憩する しばらく また 話しなさいね 食べる 少し おやつ どう
(p.48)

"얘기는 좀 있다 하고 간식이나 먹거라." (p.59)

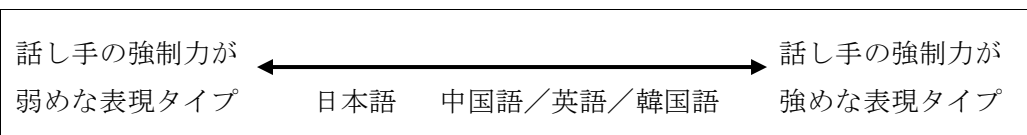
話は 少し あとで して おやつでも 食べろ

"That's enough, dear. Stop talking and have your afternoon snack." (p.40)

(17)(18)(19)の日本語はいずれも強制力が弱めな表現タイプであるにもかかわらず、韓国語・英語・中国語では強制力が強めな表現タイプに訳されている。すでに 4.2 で述べたように、話し手の強制力が強めな表現タイプの用例では、韓国語・英語・中国語は日本語より強めな表現タイプを多用する傾向がある。話し手の強制力が弱めな表現タイプの用例でもやはり韓国語・英語・中国語は強めな表現タイプを多用していることから、あらためて「韓国語・英語・中国語は日本語より話し手の強制力が強めな表現タイプが好まれる」という(8)の仮説が正しいであることを確かめることができる。

以上の考察をまとめると、次の(20)の結論になる。

- (20) [勧め・助言] 表現は全体的に聞き手の決定権が優勢で、話し手の強制力が強くない。しかしその中でも、比較的話し手の強制力が強い表現タイプが使われる場合と比較的弱い表現タイプが使われる場合がある。日本語では話し手の強制力が弱めな表現タイプを多く使うが、韓国語・英語・中国語では話し手の強制力が強めな表現タイプを多く使う²⁵。



5.本章のまとめ

本章では、行動展開表現の一つである [勧め・助言] 表現を取り上げ、日本語・中国語・英語・韓国語の形式バリエーションをまとめたうえで、話し手の強制力の強弱の観点から、各言語においてどのような表現タイプがよく使われるかを考察した。

[勧め・助言] 表現には、平叙文、命令文、疑問文にわたって多様な形式が用いられている。その形式は《勧め宣言》、《假定》、《比較評価》、《肯定評価》、《許可》、《義務》、《意志表明》、《命令的要求》、《依頼的要求》、《直接勧め》、《行為質問》、《願望質問》、《意見質問》という表現タイプに分けられる。

これらの表現タイプのうち、《義務》、《意志表明》、《命令的要求》、《依頼的要求》、《直接

²⁵ 用例数に限りがあつて、韓国語と英語と中国語の間にはっきりとした差が出なかった。

勧め》を話し手の強制力が強めな表現タイプとし、そのほかを話し手の強制力が弱めな表現タイプとすることができる。形式のバリエーションから見ると、日本語においては話し手の強制力が強めな表現タイプが多い。それにもかかわらず、日本語の小説における用例とその訳を比べると、実際には、日本語では話し手の強制力が弱めな表現タイプが比較的多く使われているのに対し、韓国語・英語・中国語は話し手の強制力が強めな表現タイプが比較的多く使われているという結果を得た。

しかし、この結果は日本語の表現タイプの強弱に基づいて考えているので、中国語・韓国語・英語の基準では表現タイプの強弱が実は日本語と一致しないかもしれないことを認めざるをえない。4.2.で述べたように、中国語・韓国語・英語では動詞の基本形による《命令的要求》タイプが広く使われている。これは、裏を返せば、中国語・韓国語・英語における《命令的要求》タイプは日本語ほど強制力が強くないことを意味しているように思われる。もう一例を挙げると、英語の「You'd better do」は命令に近いほどの強い表現とされているが、これも日本語の「したほうがいい」と食い違うところであろう。強制力の強弱について、もっと母語話者評価などを行って考察を深める必要があると考えられる。

また、本稿では表現タイプで対照を行っているので、次のような強制力を和らげる要素は考慮に入れなかった。たとえば、日本語と韓国語の形式に「てみる」「해보다」といった試行を表す補助動詞が含まれる場合がある。「食べてみてください」「行ってごらん」「やってみましょう」と言うとき、話し手は本格的な行動より一歩手前の行動を試すように勧められているので、「てみる」が含まれない形式より強制力が弱いと言える。このように、表現タイプでは強めなタイプでも「てみる」を含むことによって強制力がかなり和らげられる場合がある。そして、敬語や終助詞の使用によって強制力が和らげられることもあるだろう。

これらの問題は〔勧め・助言〕表現の実態を明らかにするために考えるべきだと思われるが、今後の課題としたい。

第4章 [誘い] 表現の形式

1.はじめに

話し手とともに行為を行うように聞き手に働きかけることを目的とする表現は、「勧誘表現」もしくは「誘い表現」と呼ばれる。このうち、「勧誘」という名称は、聞き手だけが行動する「勧め」の場合と話し手と聞き手がともに行動する場合の両方を含めて指すことがあるが、本章では話し手と聞き手がともに行動する場合のみを取り上げるので、区別するために「誘い」表現と呼ぶ。

2.先行研究

蒲谷ほか（2009）によると、「誘い」表現は相手と自分の両者が行動し、決定権が相手にあり、両方に利益がある表現である。

(1) 「誘い」表現の構造

行動＝自分と相手 決定権＝相手 利益・恩恵＝自分と相手

しかし、次の(2)のような例において、決定権は相手にあるとは考えにくいのであろう。

- (2) 「いいかい。何人かでグループを作って、まず、先生たちが持って来たレンガを使って、カマドを作ろう。それから、手分けして、川でお米を洗って、火にかけたら、あとは豚汁だ。さあ、始めようか！」（トット：p.212）

この例は、先生が生徒に作業の手順を説明しているものであるが、決定権がもっぱら自分にあると思われる。

また、利益に関しても必ずしも「自分と相手」とは限らず、例えば、次の(3)においては、利益が自分に傾いて、(4)においては、利益が相手に傾いていると思われる。

(3) 「正解だ」

「やった。じゃあ、今からラジオを電気屋さんに持って行って、直してもらおうよ」

(博士：p.75)

(4) 「ママが間違っていました。たとえ一瞬でも博士を信用しなかったのは、人として恥ずかしいことでした。謝ります。反省します。」… (中略)

「うん、分かった。仲直りしよう。でも僕は怪我をした日のことを、絶対に忘れないからね」(博士：p.125)

(2)～(4)のような「誘い」表現は(1)に定義されている典型的な「誘い」表現とは性質が若干違うことが分かるであろう。本稿では、このような表現も含めて「誘い」表現と考える。そのうえで、日本語・中国語・韓国語・英語の「誘い」表現の形式を対照することによって、各言語における「誘い」表現の性質を検討したい。

3. 「誘い」表現の形式の全体像

3.1. 「誘い」表現の形式バリエーション

まず、日本語・中国語・韓国語・英語において、どのような「誘い」表現の形式があるかを確認しておこう。日本語の「誘い」表現の形式には、「誘い」を主として表す専用の形式が存在しない。意志表現や行為要求表現の形式が派生的に「誘い」の機能を果たしている。中国語・英語においても専用の形式がない。韓国語においては、「하자/합시다」はとくに勧誘文といい、「誘い」専用の形式と言える。

専用的・派生的に「誘い」の機能を果たしている形式は、言語を問わず、平叙文、命令文、疑問文のいずれかに属する。そのため、本稿はこの3類型に分けて、日本語・中国語・英語・韓国語にある「誘い」表現の形式をリストアップし、意味的に近いものを1つのタイプとしてまとめる。次の(5)のように一覧を示す。

なお、各形式にそれぞれ番号をつける。最初のアルファベットの大文字は言語(Jは日本語、Cは中国語、Eは英語、Kは韓国語)を表し、次の2桁数字はその言語における表現形式の通し番号を表し、最後の小文字のアルファベットは表現タイプを表す。

(5) 「誘い」表現の形式バリエーション

	日本語	中国語	韓国語	英語	表現タイプ
平叙文	J01a. しよう	C01a. 我们做吧	K01a. 하자/합시다 K02a. 해요	×	a. 《意志表明》
命令文	×	C02b. 让我们做 C03b. 你一起做吧	×	E01b. Let's do	b. 《命令的要求》
疑問文	J02c. しようか	C04c. 我们做好吗?	K03c. 할까?	E02c. Shall we do?	c. 《意志確認質問》
	J03d. しないか	C05d. 你一起做吗?	K04d. 할래? /하지 않을래?/ 안 할래?	E03d. Will you do/Won't you do (with me)?	d. 《行為質問》
	×	C06e. 你要不要一起做?	×	E04e. Would you like to do (with me)?	e. 《願望質問》
	J04f. 一緒にどう/いかが	C07f. 一起做怎么样?	K05f. 하는게 어때?	E05f. How about doing? E06f. Why not do?	f. 《意見質問》

3.2. 平叙文の表現形式

平叙文では「a. 相手を含めての我々の意志を表明する表現《意志表明》」が用いられる。

以下、左側に形式の基本形を示し、右側に例文を挙げる。なお、中国語・韓国語の下に直訳をつける。

a. 《意志表明》

J01a. しよう

ラーメンを食べに行こう。

C01a. 我们 做 吧

我们 去 吃 拉面 吧。

私たち しよう ね

私たち 行こう 食べる ラーメン ね

K01a. 하자/합시다

들어갑시다.

しよう/しましろう

入りましよう

K02a. 해요²⁶⁾

한잔 해요.

²⁶⁾ 本稿では、「하자/합시다」「해요」の前にくる人称を区別せずに、「하자/합시다」「해요」を平叙文の形式として扱うが、実際、動作主が聞き手の場合、命令文として捉えることも

しましょう

一杯 しましょう

3.3. 命令文の表現形式

命令文では、「b.相手を含めての我々の行動を命令するような表現《命令的要求》」が用いられる。

b. 《命令的要求》²⁷

C02b. 让 我们 做

させる 私たち する

让 我们 一起 努力。

させる 私たち 一緒に 努力する

C03b. 你 一起 做 吧

あなた 一緒に しよう ね

你 一起 回家 吧。

あなた 一緒に 帰ろう ね

E01b. Let's do

Let's go.

3.4. 疑問文の表現形式

疑問文には、「c.相手に我々の意志を確認する表現《意志確認質問》」、「d.相手の今後の行動をたずねる表現《行為質問》」、「e.相手の願望をたずねる表現《願望質問》」、「f.提案に対して相手の意見をたずねる表現《意見質問》」が用いられる。

c. 《意志確認質問》

J02c. しようか

そろそろ帰ろうか。

C04c. 我们 做 好吗?

私たち する いいか

我们 去 看 电影 好吗?

私たち 行く 見る 映画 いいか

K03c. 할까?

しようか

같이 저녁을 먹을까요?

一緒に 夕飯を 食べましょうか

E02c. Shall we do?

Shall we dance?

d. 《行為質問》

J03d. しないか

映画を見に行かない?

C05d. 你 一起 做 吗?

あなた 一緒に する か

我想 去 看 电影, 你 一起 去 吗?

私 したい 行く 見る 映画 あなた 一緒に 行く か

できる。韓国語は命令と勧誘の形式が共通な場合があり、その違いがあいまいである。詳しくは生越（1995）を参照したい。

²⁷ 「让我们做」「Let's do」は意味的に〈誘い〉として慣用化しているが、本稿はあくまで形式に従って分類しているので、《命令的要求》タイプだと考える。

K04d. 할래?/ 하지 않을래?/ 안 할래?

するか/しないか /しないか

같이 쇼핑 안 갈래?

一緒に 買い物 行かない

E03d. Will you do/Won't you do (with me)?

Will you go shopping with me?

e. 《願望質問》

C06e. 你 要不要 一起 做?

あなた したいか 一緒に する

我想去买东西, 你 要不要 一起去?

私 したい 行く 買い物 する あたな したいか 一緒に 行く

E04e. Would you like to do (with me)?

Would you like to go shopping with me?

f. 《意見質問》

J04f. 一緒にどう/いかが

バーベキューをやるんだけど、一緒にどう?

C07f. 一起 做 怎么样?

一起去 看 电影 怎么样?

一緒に する いかが

一緒に 行く 見る 映画 いかが

K05f. 하는게 어때?

する こと どう

같이 영화를 보는게 어때?

映画を 見る こと どう

E05f. How about doing?

How about having dinner together?

E06f. Why not do?

Why don't we go and get a drink?

4. 考察

4.1. 「グループ型」と「引き込み型」の「誘い」表現

安達 (1995) は、「しよう」「しようか」「しないか」を勧誘文の形式として挙げた上で、勧誘文には「グループ型」と「引き込み型」の 2 つのタイプがあると指摘している。日本語記述文法研究会 (2003) でもこの分け方を認め、次のように定義している。「グループ型」とは、「話し手と聞き手が 1 つのグループとして共同して行う行為の実行を聞き手に提案することによって、聞き手をその行為に誘うものである」。一方、「引き込み型」とは、「話し手が実行している、あるいは実行しようとしている行為に聞き手を引き込もうとするものである」。例えば、次の(6)はグループ型で、(7)は引き込み型だと提示している。

(6) A 「夏休み、どこに行く？」

B 「海に行こうよ」

(7) A 「あ、もう帰るの？」

B 「うん。君も帰ろう」

(日本語記述文法研究会 2003 : 63)

これは言いかえれば、グループ型は話し手と聞き手を含む「我々」といった一・二人称を、引き込み型は「あなたも」といった二人称を動作主にとることができるということである。安達（1995）がすでに考察しているように、日本語の「しよう」「しないか」はグループ型と引き込み型の両方に使われるが、「しようか」は引き込み型には使われない。

この分類に従って、本稿で挙げている日本語・中国語・韓国語・英語の〔誘い〕表現の形式について考えたい。(5)に示したバリエーションをグループ型と引き込み型によって、次の(8)のように分けられる。

(8) 「グループ型」と「引き込み型」の形式

	日本語	中国語	韓国語	英語
グループ型	J01a. しよう J02c. しようか J03d. しないか J04f. 一緒にどう／ いかが	C01a. 我们做吧 C02b. 让我们做 C04c. 我们做好吗？ C07f. 一起做怎么样？	K01a. 하자/합시다 K02a. 해요 K03c. 할까? K04d. 할래? /하지 않을래?/ 안 할래? K05f. 하는게 어때?	E01b. Let's do E02c. Shall we do? E05f. How about doing? E06f. Why not do?
引き込み型	J01a. しよう J03d. しないか J04f. 一緒にどう／ いかが	C03b. 你一起做吧 C05d. 你一起做吗？ C06e. 你要不要一起做？ C07f. 一起做怎么样？	K01a. 하자/합시다 K02a. 해요 K03c. 할까? K04d. 할래? /하지 않을래?/ 안 할래? K05f. 하는게 어때?	E03d. Will you do/Won't you do (with me)? E04e. Would you like to do (with me)? E05f. How about doing? E06f. Why not do?
両用の タイプ	a. 《意志表明》 b. 《命令的要求》 d. 《行為質問》 f. 《意見質問》	b. 《命令的要求》 f. 《意見質問》	a. 《意志表明》 b. 《命令的要求》 c. 《意志確認質問》 d. 《行為質問》 f. 《意見質問》	f. 《意見質問》

日本語は、c. 《意志確認質問》タイプの形式（「J02c. しようか」）がグループ型にしか使われないが、ほかのタイプの形式はグループ型と引き込み型のいずれにも使われる。中国語は、グループ型は a. 《意志表明》、b. 《命令的要求》、c. 《意志確認質問》、f. 《意見質問》のうち、一・二人称「我们」を含む形式によって表され、引き込み型は b. 《命令的要求》、

d. 《行為質問》、e. 《願望質問》、f. 《意見質問》タイプのうち、二人称「你」を含む形式によって表される。韓国語は、すべてのタイプの形式がグループ型と引き込み型の両方に使われる。韓国語のc. 《意志確認質問》タイプの形式（「K03c. 할까?」）が引き込み型にも使われる点は日本語と違うのである。英語は、グループ型に b. 《命令的要求》、c. 《意志確認質問》、f. 《意見質問》タイプに使われ、引き込み型に d. 《行為質問》、e. 《願望質問》、f. 《意見質問》タイプが使われる。つまり、f. 《意見質問》タイプのみが両方に使われる。

一つのタイプ形式がグループ型にも引き込み型にも使えるところから見れば、韓国語の[誘い]表現の形式は日本語・中国語・英語より汎用的であると言えよう。逆に、英語の[誘い]表現の形式はグループ型か引き込み型によって一番使い分けていると言えよう。これは、英語では人称詞が省略されにくいこと、韓国語や日本語では人称詞が省略されやすいこととも関係していると思われる²⁸。

4.2. 意志の拡張か勧めの拡張か

姫野（1998）は、「しよう」「しようか」「しないか」を勧誘表現として取り上げたうえで、「しよう」「しようか」は意志表現からの拡張であり、「しないか」は勧め表現からの拡張であると考察している。

この考え方に従えば、本稿で挙げている日本語・中国語・韓国語・英語の[誘い]表現の形式バリエーションを意志表現から拡張したものと勧め表現から拡張したものによって、次の(9)のように分けられる。

(9) 意志の拡張か勧めの拡張かによる表現タイプの分類

意志表現から拡張した表現タイプ	勧め表現から拡張した表現タイプ
a. 《意志表明》	d. 《行為質問》
b. 《命令的要求》	e. 《願望質問》
c. 《意志確認質問》	f. 《意見質問》

平叙文類の《意志表明》と命令文類の《命令的要求》は文の種類が異なるが、英語の《命令的要求》（「Let's do」）は[誘い]として慣用化した表現で、命令の意味合いが薄く、問いかけてもないので、意味的には《意志表明》に近いということは考慮すべきである。

それに、疑問文類うち、《意志確認質問》タイプは《行為質問》《願望質問》《意見質問》と性質が違って、《意志表明》と同系列のもので意志の拡張であると思われる。これは日本語・中国語・韓国語・英語のどれにおいても言える。

一方、《行為質問》《願望質問》《意見質問》は勧めの拡張であると考え。「しようか」（本稿でいえば《意志確認質問》）は意志の拡張、「しないか」（《行為質問》）は勧めの拡張であ

²⁸ 中国語は日本語や韓国語ほど人称詞を省略しないが、文脈によって省略する場合もある。

ると言える根拠として、姫野（1998）はガ格人称制限、イントネーション疑問、選択疑問・疑問詞疑問の可否、「よかったら」との共起などを挙げている。また、日本語記述文法研究会（2003）は、「しないか」は、あくまで聞き手がその行為を実現させるかどうかを質問することで勧誘の解釈を得るものであり、話し手の行為は発話状況において含意されていればいい」と述べて、「しようか」と区別させている。中国語・韓国語・英語の《意志確認質問》タイプの形式も意志表現の疑問化に由来している。上のテストが一部同様に当てはまることや、[勧め・助言]に使われないことから、中国語・韓国語・英語の《意志確認質問》も意志の拡張であると考えられる。

ただし、姫野（1998）、日本語記述文法研究会（2003）は「しよう」「しようか」「しないか」だけを取り上げており、本稿で挙げている《願望質問》《意見質問》タイプについては言及していない。しかし、[誘い]における《行為質問》《願望質問》《意見質問》タイプは、いずれも[勧め・助言]の表現としても使われるので²⁹、やはりこれらのタイプは同系列のもので勧めから拡張したものであると考えられる。

実際、[誘い]表現がどのように使われているのか、日本語の現代小説とその中国語・韓国語・英語訳を用いて調べた。安達（1995）、日本語記述文法研究会（2003）の分類によって、グループ型と引き込み型の[誘い]表現があるが、今回日本語の現代小説から収集した用例にはグループ型しかなかった。以下で、その用例とその中国語・韓国語・英語訳について見てみよう。

(10) 日本語の用例とその中国語・韓国語・英語訳のタイプ別用例数

表現タイプ		日本語	中国語	韓国語	英語
意志から拡張した表現タイプ	a. 《意志表明》	25	25	22	×
	b. 《命令的要求》	×	0	×	16
	c. 《意志確認質問》	4	2	4	1
	合計	29	27	26	17
勧めから拡張した表現タイプ	《行為質問》	1	0	1	0
	《願望質問》	×	0	×	1
	《意見質問》	0	1	0	2
	合計	1	1	1	3
	その他		2	3	10 ³⁰

上の(10)に示した結果から次のようなことが分かった。

(11) a. 日本語・中国語・韓国語では《意志表明》のタイプがもっとも多く使われているが、

²⁹ [勧め・助言]表現の形式については、第3章を参照のこと。

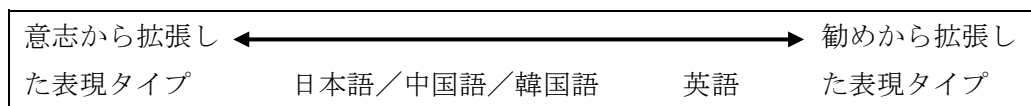
³⁰ 中：義務1、未来推量1、韓：肯定評価1、義務1、命令的要求1、英：義務4、意志宣言4、許可可能1、願望表出1

英語では《命令的要求》のタイプが一番多い。《命令的要求》を《意志表明》と同系列に考えれば、英語のこのタイプの使用が日本語・中国語・韓国語よりずっと少ないことにむしろ注目すべきであろう。

b. 疑問文類の用例が全体的に少ないが、英語のほうがやや多い。日本語・韓国語では《意志確認質問》《行為質問》タイプが用いられたのに対して、中国語では《意志確認質問》《意見質問》、英語では《意志確認質問》《願望質問》《意見質問》が用いられた。

この結果から、日本語・中国語・韓国語では意志から拡張した表現タイプが比較的多く使われ³¹、英語では勧めから拡張した表現タイプが比較的多く使われることが分かる。これを図で表すと、次の(12)のようになる。

(12) 意志と勧めから拡張した形式の使用



4.3. 典型的な「誘い」表現とそうでない表現

「誘い」表現は典型的には、「行動＝自分と相手、決定権＝相手、利益・恩恵＝自分と相手」という構造を持っている。例えば、(13)のように話し手が友達を誘って一緒に井戸を見に行く場合や、(14)のように話し手が友人に休憩を提案する場合は、そのような典型的な「誘い」表現と言えよう。

(13) サッコちゃんが、「流れ星の井戸を見にいかない?」といったので、もちろん、トットちゃんは、「うん」といって、サッコちゃんの後について走った。(トット：p.58)

朔子说：“我们去 看 有 流星 的 井 吧!”小豆豆嗯了一声，就跟在
私たち 行こう 見る ある 流れ星 の 井戸 ね
朔子的身后跑过去了。(p.45)

"별뿔별이 떨어지는 우물, 보러가지 않을래?"삿코가 말했다. "응!" 토토는 좋아라고
流れ星が 落ちる 井戸 見に行かない
대답한 후 삿코 뒤를 따라 뛰어갔다. (p.56)

³¹ 用例数に限りがあつて、日本語・中国語・韓国語の間にははっきりした差は認められなかった。

"Want to see the shooting-star well?" asked Sakko-chan, and naturally Totto-chan agreed and ran after her. (p.38)

(13)の日本語は《行為質問》タイプであるが、中国語では《意志表明》、韓国語では《行為質問》、英語では《願望質問》で訳されている。

(14)「少し休んで、お茶にしましょう。」と私は言った。がらんとしているので声がよく響いた。広く、とても広く感じた。

「うん。」と雄一が顔を上げた。(キッチン：p.52)

“休息 一会儿，喝 点 茶 吧。”我对他说。房间空荡荡的，声音听起来
休憩 しばらく 飲もう ちょっと お茶 ね
格外响亮，给人无限空旷之感。

“好。”雄一抬起头。(p.48)

"좀 쉬면서, 차라도 마시자" 내가 말했다, 텅 비어서 목소리가 울렸다.
ちょっと 休憩しながら お茶でも 飲もう
넓었다, 아주 넓게 느껴졌다.

"그래" 유이치가 얼굴을 들며 대꾸했다. (p.51)

"Take a break, let's have some tea," I said. My voice echoed loudly in the empty apartment. It felt large, very large.

"Sure." Yuichi looked up. (p.36)

(14)の日本語は《意志表明》タイプで、中国語・韓国語でも《意志表明》で、英語では《命令的要求》で訳されている。

一方、「行動＝自分と相手、決定権＝相手、利益・恩恵＝自分と相手」という典型的な[誘い]表現の構造を持たない[誘い]の用例も見られる。例えば、次の(15)は決定権が相手ではなく、むしろ話し手の側にあると感ぜられる例である。

(15)「いいかい。何人かでグループを作って、まず、先生たちが持って来たレンガを使って、カマドを作ろう。それから、手分けして、川でお米を洗って、火にかけたら、あとは豚汁だ。さあ、始めようか！」(トット：p.212)

“准备好了吗？几个人分成一个小组，先用 老师们 带来的 砖头 搭

まず 使う 先生たち 持ってきた レンガ 作ろう
几个 炉灶, 然后大家分头行动, 在溪水里淘米, 在火上煮熟以后, 再开始做肉汤。
いくつか カマド
好, 下面开始行动!” (p.176)

"어디 보자, 우선 몇 사람씩 조를 짜서 가져온 벽돌로 아궁이를 만들자꾸나.
まず 数人ずつ 組み込んで 持って来た レンガで カマドを 作ろう
그런 다음에 일거리를 분담해서, 개물에서 쌀을 씻어 불에 올려 놓고 그 다음에
찌개를 끓이자. 그럼 시작해 볼까!" (p.200)

"Now then," said the headmaster, "first of all, let's divide into groups and make stoves with the bricks the teachers have brought. Then some of you can wash the rice in the stream and put it on to cook. After that, we'll start making the pork soup. Now then, shall we get started?" (p.139)

この例は先生が生徒にこれからの作業について説明している場面で、日本語は《意志表明》タイプが使われ、中国語・韓国語でも《意志表明》で訳され、英語では《命令的要求》で訳されている。話し手の先生は一方的に「カマドを作ろう」という誘いを生徒に伝えているだけである。生徒がそれを受け入れないこともほとんど想定されないため、「カマドを作ろう」と言った後、先生が生徒に意志を確認したり意見を聞いたりもせず、そのまま話を続けた。「?カマドを作らないか」と言い換えにくいことから、この例は決定権が話し手にあると確かめられる。

庵ほか(2000)で挙げられている(16)の例も(15)と似たものだと考えられる。

(16) (教室で先生が) さあ、授業を {○始めましょう/○始めましょうか/?始めませんか}。
(庵ほか 2000 : 152)

庵ほか(2000)は、こういった例を「その行為をすることがあらかじめ約束されている場合や、習慣になっている場合」と捉えている。決定権が話し手にあるような[誘い]を、本稿では、「習慣的誘い」と呼ぶことにする。

また、典型的に[誘い]表現は自分と相手の両方に利益があるが、実際に利益が相手に傾いている、あるいは自分に傾いている場合が見られる。次の(17)は利益が相手に傾いている例である。

(17) 「正解だ」
「やった。じゃあ、今からラジオを電気屋さんに持って行って、直してもらおうよ」

(博士 : p.75)

“正确。”

“太棒了！那么 我们 现在 就 去 把 收音机 拿到 维修店去修吧。”

では 私たち 今 すぐに行こう を ラジオ 持つ へ 電気屋 直す ね

(p.54)

"잘했어. 정답이다."

"와우. 그럼 지금 당장 수리점에 가서 라디오 고쳐요." (p.69)

では 今 すぐ 電気屋へ 行って ラジオ 直しましょう

"Indeed it is!"

"Good! Then let's go get the radio fixed." (p.48)

(17)において、日本語では《意志表明》タイプが使われ、中国語・韓国語では《意志表明》、英語では《命令的要求》で訳されている。話し手は聞き手と問題を解けたらラジオを修理に行くように約束をしていたため、「今から…直してもらおうよ」とその約束の実行を聞き手に促している。この場合は、話し手と聞き手の両方に利益があるというより、話し手のほうがその行為の実行を強く望んでいて、聞き手に実行の決断を促しているものであるように思われる。このように自分の側の利益が中心になっている [誘い] 表現を、本稿で「懇願的誘い」と呼ぶことにする。

作例だが、次の(18)(19)も「懇願的誘い」だと言えよう。

(18) 「もう疲れたから、今日はこのへんにしましょう。」

(19) 「結婚しよう。」

次の(20)(21)は利益が相手に傾いている例である。

(20) 「ママが間違っていました。たとえ一瞬でも博士を信用しなかったのは、人として恥ずかしいことでした。謝ります。反省します。」… (中略)

「うん、分かった。仲直りしよう。でも僕は怪我をした日のことを、絶対に忘れないからね」 (博士 : p.125)

“对不起！” 我在他面前端正地坐好，低头道歉，“是妈妈不对。哪怕有一个瞬间不信任博士，是人就应该感到羞愧。妈妈跟你道歉。妈妈会反省。”

“嗯，知道了。我们 和好 吧。不过我是绝对不会忘记受伤那天的事情的。”

私たち 仲直りしよう ね

(p.90)

"엄마가 잘못했어. 잠시나마 박사님을 믿지 못한 건. 부끄러운 일이었어. 반성하고 있어. 사과할게."

"응, 알았어. 화해해. 하지만 내가 다친 날의 일은 절대 잊지 못 할 거야." (p.114)

仲直りしよう

"I'm sorry," I said. "It was wrong of me to doubt the Professor, even for a moment. I'm sorry and I apologize."

"All right, I accept. But I'll never forget what happened." And at that, we shook hands. (p.80)

(20)において、日本語では《意志表明》の形式が使われ、中国語・韓国語でも《意志表明》で訳され、英語ではただの意志表現で訳されている。話し手の息子が母の謝罪を受け入れると決意したときに、「仲直りしよう」という〔誘い〕を母に持ちかけた。この場合、〔誘い〕の行為は話し手が自分で考案したものというより、聞き手のしようとする行為を了承する意味合いが強く、利益が聞き手に傾いていると思われる。

(21) みんなは、口々に先生にいった。「ねえ、今日の一時間目は、図書室にしよう!!」

「そうかい」と、校長先生は、みんなが興奮しているのを見て、ちょっと、うれしそうに笑ってから、いった。「じゃ、そうしようじゃないか」(トット：p.188)

大家七嘴八舌地对先生说：“哎，今天的第一节课，就上图书课吧。”

“是吗？”校长先生看到大家兴奋的样子，高兴地笑了，说：“既然大家都这么说，
なら みんな こう 言う

那就这么办吧。” (p.158)

では こう しよう ね

"선생님, 오늘 첫 시간은 도서실에서 수업해요!" (p.178)

교장선생님은 아이들의 흥분된 모습을 보며 기분 좋게 웃었다. "그럼, 그렇게 할까."

では こう しようか

"Let's make the first class today a library class!" cried the children, unanimously.

"Is that what you'd like to do?" said the headmaster, smiling happily to see them so excited. "All right, then, why not?" (p.123)

(21)において、日本語では《意志表明》タイプが使われ³²、中国語・韓国語でも《意志表明》で訳され、英語では《意見質問》で訳されている。生徒たちが「一時間目は図書室にしよう」と提案したあとに、校長先生がそれを了承する意味で「そうしようじゃないか」と提案に応じた。この場合もやはり利益が聞き手に傾いていると思われる。このような利益が聞き手に傾いている〔誘い〕表現を、本稿で「懇願的誘い」と呼ぶことにする。

以上、典型的でない〔誘い〕表現として、「習慣的誘い」、「懇願的誘い」、「了承的誘い」が存在することを確認した。これらの用例において、日本語の表現タイプはみな《意志表明》で、中国語・韓国語でもみな《意志表明》、英語では「懇願的誘い」の2例(20)(21)を除けば《命令的要求》で訳されている。形式の表現タイプから見れば、典型的でない〔誘い〕表現は典型的のとそれほど変わらないのである。

4.4. 〔誘い〕が用いられる場合とそうでない場合

〔誘い〕表現の形式の使える範囲は言語によって違うようである。ある言語では〔誘い〕の形式を使ってもいい場合であっても、ほかの言語では〔誘い〕の形式を使ってはいけないような場合がある。

日本語の「ましょう」「ましょうか」「ませんか」の使い分けについて、庵ほか(2000)は、「その行為をするかどうかについての聞き手の意向を尊重する表現にしたい場合には「～ませんか」が適当」であるが、次のような場合は「～ませんか」でも丁寧さに欠けてしまうことがある、と指摘している。

(22) 先生、明日のパーティー、先生もいらっしゃいませんか。(庵ほか 2000 : 153)

先生を自分と対等に扱っているような感じがするからである。そうした印象を避けるために、依頼の形をとることがよくある。

(23) 先生、明日のパーティー、先生も来てくださいませんか。(庵ほか 2000 : 153)

つまり、日本語では、同等または目下の相手には〔誘い〕の形式を使っても構わないが、目上の人に使っては失礼になる場合がある³³。

梅田(1991)によると、韓国語でも目上の人に対して使用制限がある。韓国語では、「읍시다」

³² 「ようではないか」の意味について、友松ほか(2010)では「「いっしょにしよう」と強く誘いかけたり提案したりする言い方」と書いてあるので、《意志表明》タイプとして扱う。

³³ 「明日のパーティー、先生も一緒にいかがですか」のような《意見質問》のタイプは、先生を自分と対等に扱っているような感じがあまりしないが。

(しましう)は「目上の人に対してこれを直接使うのは丁寧ではない。相手の意志を尋ねる言い方(가실까요?, 가지겠어요? など)や強めの終止語尾を使った言い方(가지지요)などで表すのがよい」という。しかし、本稿の表現タイプで言いかえれば、《意思確認質問》(가실까요? (行かれますでしょうか) や 《行為質問》(가지겠어요? (行かれますか)) や 《意志表明》(가지지요 (行かれますでしょう)) が使えるというところから、韓国語における目上の人に対する[誘い]形式の使用制限は、日本語と比べて少ないことが伺える。

中国語や英語は目上か同等・目下かによって、日本語や韓国語ほど表現形式を使い分けていない。[誘い]の場合、次のような場合は目上でも同等・目下でも同じタイプの形式が使える。

- (24) a. 「明日のパーティー、?先生もいらっしゃいませんか」
b. 「明天的宴会，老师您也一起参加吗？」
c. 「내일 파티, 선생님도 안 가실래요?」
d. 「Professor, would you like to come and join the party tomorrow?」

- (25) 先生：「明日の3時頃はどうですか」
学生：a. 「大丈夫です。?3時に会いましょう。」
b. 「没问题。3点见吧。」
c. 「괜찮아요. ?3 시에 만납시다。」
d. 「No problem. Let's meet at 3p.m.」

また、例えば、会議などの司会者が「では、ただいまから、会議を始めたいと思います」、あるいは「では、会議を始めさせていただきます」のように、[誘い]表現を用いず、願望表現あるいは依頼表現を用いて会議を始めることが少なくないが、これは英語では、「Now, let's get our meeting started.」のように[誘い]表現を使う。

第3章で述べたように、日本語の[誘い]形式「しよう」は[勧め・助言]表現としてよく使われているが、それは中国語・韓国語・英語と大きく異なる。

- (26) 今度気をつけましょう。
(27) 毎日丁寧にお手入れをしましょう。

また、李(1990)によると、「授業時間に本を忘れてきて友達に見せてもらいたい」ときに、韓国語では[誘い]表現(「같이 보자」(一緒に見よう))を使うことができるという。日本語では[誘い]は使えず、[依頼]を使うのである。

こういった使用制限や使用場面の違いは、言語学習者の誤用を引き起こしやすいところでもあるので興味深いところである。

5.本章のまとめ

本章では、行動展開表現の一つである「誘い」表現を取り上げ、日本語・中国語・英語・韓国語における表現形式のバリエーションをまとめた。そして、それぞれの形式が「グループ型」あるいは「引き込み型」の「誘い」に使われるかどうか、各言語でよく使われるのは意志から拡張した形式か勧めから拡張した形式か、を考察した。また、典型的な「誘い」表現とそうでない表現、「誘い」表現が用いられる場合とそうでない場合があることを確認した。

同じ形式が「グループ型」の「誘い」にも「引き込み型」の「誘い」に使われることがあるが、日本語・中国語・韓国語・英語のうち、韓国語の表現形式はもっとも汎用的であり、英語の表現形式が一番使い分けている。

「誘い」表現の形式は《意志表明》、《命令的要求》、《意志確認質問》、《行為質問》、《願望質問》、《意見質問》というタイプに分けられるが、《意志表明》、《命令的要求》、《意志確認質問》は意志表現から拡張した形式で、《行為質問》、《願望質問》、《意見質問》は勧め表現から拡張した形式であると考えられる。日本語の小説における用例とその中国語・韓国語・英語訳を比べると、日本語・中国語・韓国語では意志から拡張した形式が比較的多く使われるのに対して、英語では勧めから拡張した形式が比較的多く使われる。

典型的な「誘い」表現は、自分と相手が一緒に行動し、利益が両方にあって、行動の決定権が相手にあるような場合であると考えられるが、それ以外に、「習慣的誘い」、「懇願的誘い」、「懇願的誘い」表現も存在する。

「誘い」表現が避けられる場合というのは、日本語では目上の人を誘う場合や司会者が会議を始めるときの慣用表現などが挙げられる。

第5章 [申し出] 表現の形式

1.はじめに

相手のために援助を行うことを自分から申し出るときに使う表現は「申し出表現」と呼ばれている。日本語では、たとえば「お手伝いしますよ」「家まで送みましょうか」などが挙げられる。この日本語の[申し出]表現はどのような特徴を持っているのだろうか。また、それは他の言語の[申し出]表現とどのように違っているのだろうか。本章は日本語・中国語・韓国語・英語の[申し出]表現の形式と現代小説における用例を対照することによって、各言語の[申し出]表現の特徴を見つけ出すことを目指す。

2.先行研究

蒲谷ほか(2009)によれば、申し出表現は、「行動は自分、決定権は相手、利益も相手」という基本構造を持っている。

(1) 蒲谷ほか(2009):[申し出]の構造

行動＝自分 決定権＝相手 利益・恩恵＝相手

本稿は、「行動」と「利益・恩恵」に関しては、蒲谷ほか(2009)と同じ立場をとる。しかし、決定権は常に相手が持っているのだろうか。たとえば、相手の意見を確認せずに積極的に「お手伝いします」のように申し出の場合、その決定権はほぼ自分が持っていると言えよう。決定権について、あらためて検討する必要があるように思われる。

[申し出]表現の形式について坂本ほか(1994)は、「シマショウカ」のみを「典型的な表現」としている³⁴。しかし、それでは不十分で、4つの言語の対照を行う際、ほかのバリエーションも考えるべきだと思われる。

³⁴ 坂本ほか(1994)は、典型的に別の表現意図を担う表現を利用した場合、「あたかも表現」と呼んでいる。たとえば、表現意図が「指示・命令」であるが、「依頼」の典型的表現を使ってより丁寧な表現に変えようとする場合は、「あたかも依頼」と言う。

[申し出] 表現の対照を行った先行研究として、吉成（2008）の日英対照研究が挙げられる。吉成（2008）は、[申し出] 表現の形式バリエーションを多く扱っている。日英の母語話者にペンの貸与を申し出る場面の言語産出テストを実施し、その実験で得られた日本語と英語の [申し出] 表現とその使用割合の比較を次の(2)にまとめている。

(2) 吉成（2008）による「ペン貸与」場面の [申し出] 表現の日英比較

	日本語		英語	
表現形式	例	%	例	%
《申し出》 Telling Offer	貸すよ	3.4	I'll lend you my pen.	0.0
Asking Offer	貸そうか？	10.0	Shall I lend you my pen?	0.0
《行為質問》 Asking H's act	使う？	37.5	*Will you use my pen?	0.0
《依頼》 Request	使って	22.5	Please use this pen.	1.5
《直接行動》 With direct act	はい、ペン	13.3	Here you go.	22.4
《命令》 Order	使い	5.1	Take this pen.	10.4
《所持宣言》 Telling possession	ペン、持ってるよ	4.9	I have an extra pen.	6.0
《要望質問》 Asking H's need	ペン、いる？	2.2	Do you need a pen?	23.9
《提案》 Suggestion	使ったら？	1.0	#Why don't you use this?	0.0
《許可与え》 Permission	使っていいよ	0.5	You can use this pen.	7.5
《願望質問》 Asking H's want	#使いたい？	0.0	Do you want to use this?	28.4
		100		100

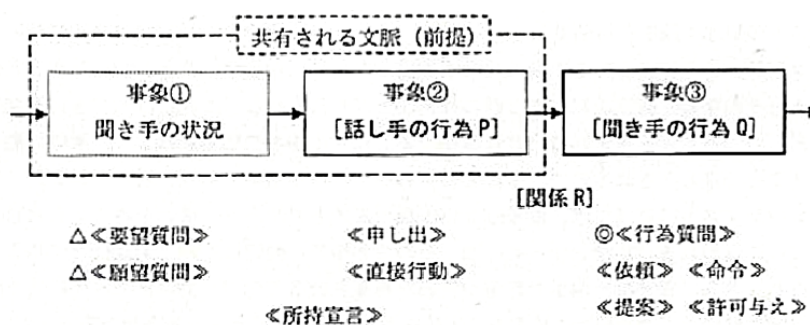
吉成（2008）は、[申し出] 場面が 3つの事象の連鎖から成っていると考えている。たとえば、「ペンの貸与」の場合、次のような事象が連鎖している。聞き手はペンを使いたいという欲求を持っている（事象①[聞き手の状況]）。それを察知した話し手がペンの貸与を申し出る（事象②[話し手の行為]）。それによって、聞き手はペンを使うことができる（事象③[聞き手の行為]）。この 3つの事象に現れる表現形式を [申し出] 表現として扱っているのである。また、各表現形式の典型的な意味に基づいて、日英の表現形式を《申し出》《行為質問》《依頼》《直接行動》《命令》《所持宣言》《要望質問》《提案》《許可与え》《願望質

問》のようにタイプ分けしている。

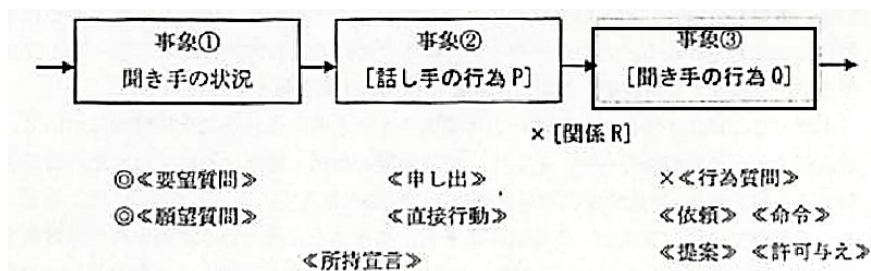
しかし、吉成（2008）の捉えている〔申し出〕表現には、本稿の立場で言えば〔勧め・助言〕表現（行動＝相手、決定権＝相手、利益＝相手）に属するものが含まれていると思われる。《行為質問》、《依頼》、《命令》、《提案》、《許可与え》、《願望質問》における行動者が相手なので、それらは〔申し出〕ではなく、〔勧め・助言〕表現だと考える。《申し出》、《直接行動》、《所持宣言》、《要望質問》を〔申し出〕表現だと考えるが、本稿では、4つの言語を対照するために、次の4点を変更したい。①《申し出》の形式を平叙文において《意志表明》、疑問文において《意志確認質問》に分ける。②《直接行動》を《直接申し出》のように名前を変える。③《所持宣言》という名称では貸与の場面に限定されてしまうため、代わりに《能力主張》タイプを立てる。④《許可依頼》と《要求願望質問》を加える。

言語の間の差異について、吉成（2008）は、実験調査によって、日本語では《行為質問》の使用が多いのに対し、英語では《願望質問》《要望質問》が多いという結果を得ている。申し出場面の事象連鎖のうち、どの事象に焦点をあてて言語化するのかに関して、日本語は事象①〔聞き手の状況〕と事象②〔話し手の行為P〕は共有される前提となっていて、先に気を回して事象③〔聞き手の行為Q〕に焦点をあてて《行為質問》と言語化できると述べている。一方、英語は共有される前提は存在しないため、前提を必要とする《行為質問》は用いられず、事象①〔聞き手の状況〕に焦点をあてて《願望質問》や《要望質問》と言語化するのであると述べている。以上のことは、(3)のようにまとめられている。

(3) 吉成（2008）をもとに筆者まとめ：〔申し出〕場面の焦点化の日英比較
日本語における〔申し出〕場面の焦点化



英語における〔申し出〕場面の焦点化



吉成（2008）は、ペンの貸与の1場面を用いて、《行為質問》と《願望質問》《要望質問》タイプの日本語と英語の使用の違いについて説明しているが、ほかの場面やほかのタイプの違いについては、まだ考察の余地があるように思われる。日本語と英語に加えて、中国語・韓国語も並べて比べるとどうなるのかなど、さらなる検討が必要であろう。

3. [申し出] 表現の形式の全体像

3.1. [申し出] 表現の形式バリエーション

言語を問わず、[申し出] 表現の形式にかかわる文の類型は平叙文、命令文、疑問文の3つである。そのため、本稿はまずこの3類型に分けて、日本語・中国語・韓国語・英語にある[申し出] 表現の形式をリストアップし、意味的に近いものを1つのタイプとしてまとめる。次の(4)のように一覧を示す。

なお、各形式にそれぞれ番号をつける。最初のアルファベットの大文字は言語（Jは日本語、Cは中国語、Kは韓国語、Eは英語）を表し、次の2桁数字はその言語における表現形式の通し番号を表し、最後の小文字のアルファベットは表現タイプを表す。

(4) [申し出] 表現の形式バリエーション

	日本語	中国語	韓国語	英語	表現タイプ
平叙文	J01a.する J02a.してあげる J03a.しよう J04a.してあげよう	C01a.我做 C02a.我给你做	K01a.할게요 K02a.해줄게요	E01a.I'll do	a. 《意志表明》
	J05b.できる J06b.してあげられる	C03b.我可以做 C04b.我可以给你做	K03b.할 수 있어요 K04b.해 줄 수 있어요	E02b.I can do	b. 《能力主張》
命令文	J07c.さしてください	C05c.让我做	K05c.하게 해주세요	E03c.Let me do	c. 《許可依頼》
	J08d.はい。/どうぞ。	C06d.给。	K06d.자./여기 있어요.	E04d.Here you go./ Here you are.	d. 《直接申し出》
疑問	J09e.いるか	C07e.你要吗? /你要不要?	K07e.필요해요?	E05e.Would you like?/ Do you need?	e. 《要望質問》

文	J10f. しようか J11f. してあげようか	C08f. 我做，好吗？ C09f. 我给你做，好吗？	K08f. 할까요? K09f. 해줄까요?	E06f. Shall I do?	f. 《意志確認質問》
	×	C10g. 你要我做吗？/ 你要不要我做？	×	E07g. Would you like me to do?/ Do you want me to do?	g. 《要求願望質問》

3.2. 平叙文の表現形式

平叙文には、「a. 援助する意志を表す表現《意志表明》」、「b. 援助できる能力を主張する表現《能力主張》」が用いられる。

以下、左側に形式の基本形を示し、右側に例文を挙げる。なお、中国語・韓国語の下に直訳をつける。

a. 《意志表明》

J01a. する

傘貸すよ。

J02a. してあげる

傘貸してあげるよ。

J03a. しよう

傘を貸しましょう。

J04a. してあげよう

傘を貸してあげましょう。

C01a. 我做

我借你伞。

私する

私貸すあなた傘

C02a. 我给你做

我给你拿。

私てあげるする

私てあげる持つ

K01a. 할게요

제가 좀 거들게요.

します

私が ちょっと 手伝いますよ

K02a. 해줄게요

제가 도와 드릴게요.

してあげます

私が 手伝う てさしあげます

E01a. I'll do

I'll drive you home.

b. 《能力主張》

J05b. できる

傘貸せるよ。

J06b. してあげられる

傘貸してあげられる。

C03b. 我可以做

我可以借你伞。

私できるする

私できる貸すあなた傘

C04b. 我可以给你做

我可以给你拿。

私 できる てあげる する	私 できる てあげる 持つ
K03b. 할 수 있어요	우산 빌릴 수 있어.
することができます	傘 貸すことができる
K04b. 해 줄 수 있어요	우산 빌려 줄 수 있어.
してあげることができます	傘 貸す てあげることができる
E02b. I can do	I can lend you an umbrella if you need it.

3.3. 命令文の表現形式

命令文には、「c.相手に自分の援助行動を許可するように頼む表現《許可依頼》」、「d.直接援助行動をするときに伴う表現《直接行動》」が用いられる。

c. 《許可依頼》

J07c. <u>させてください</u>	手伝わせて下さい。
C05c. <u>让我 我做</u>	让我 帮你 吧。
させなさい わたし する	させる 私 手伝う あなた ね
K05c. <u>하게 해주세요</u>	제가 돕게 해주세요.
させてください	私が 手伝うように してください
E03c. <u>Let me do</u>	Let me hold that for you.

d. 《直接申し出》

J08d. <u>はい。／どうぞ。</u>	はい。
C06d. <u>给。</u>	给。
あげる	あげる
K06d. <u>자./여기 있어요.</u>	자.
さあ／ここ あります	さあ
E04d. <u>Here you go./ Here you are.</u>	Here you go.

3.4. 疑問文の表現形式

疑問文には、「e.相手にものが必要かどうかをたずねる表現《要望質問》」、「f.自分の援助する意志を述べて相手に確認する表現《意志確認質問》」、「g.相手の自分への願望をたずねる表現《要求願望質問》」が用いられる。

e. 《要望質問》

J09e. <u>いるか</u>	傘いる？
------------------	------

C07e. 你 要 吗? / 你 要不要? ³⁵	你 要 伞 吗?
あなた ほしい か / あなた ほしいかどうか	あなた いる 傘 か
K07e. 필요해요?	우산 필요해요?
いりますか	傘 いりますか
E05e. Would you like? / Do you need?³⁶	Do you need an umbrella?

f. 《意志確認質問》

J10f. しょうか	傘貸しましょうか。
J11f. してあげようか	傘貸してあげましょうか。
C08f. 我做, 好吗?	我 帮 你 拿, 好吗?
私 する いいか	私 手伝う あなた 持つ いいか
C09f. 我给你 做, 好吗?	我 给你 拿, 好吗?
私 てあげる する いいか	私 てあげる 持つ いいか
K10h. 할까요?	안내 할까요?
しましょうか	案内 しょうか
K11h. 해줄까요?	도와 드릴까요?
してあげましょうか	手伝ってさしあげましょうか
E08h. Shall I do?	Shall I lend you my umbrella?

g. 《要求願望質問》

C10g. 你 要 我 做吗? / 你要不要我做?	要不要 我 帮 你 拿?
あなた してほしい 私 する か	いるかどうか 私 手伝う あなた 持つ
E07g. Would you like me to do? / Do you want me to do?	Would you like me to show you around?

4. 考察

4.1. 決定権について

蒲谷ほか(2009)では、[申し出]の「決定権」は相手にあるとしているが、本研究では相手の場合と自分の場合の両方があると考え。《意志表明》、《能力主張》、《直接申し出》タイプは、一方的に自分の意志や行動を述べるので、決定権が自分側にあると考える。それに対して、《許可依頼》、《要望質問》、《意志確認質問》、《要求願望質問》タイプは、相手に許可を依頼したり、相手の要望や意志を尋ねたりすることで決定権を相手にゆだねてい

³⁵ 中国語の疑問文「V吗?」と「V不V」の2系列に意味の違いはほとんどない。

³⁶ 「Would you ~」と「Do you ~」の系列は前者のほうが丁寧とされている。

るので、決定権が相手側にあると考える。まとめると、次の(5)のようになる。

(5) 決定権による表現タイプの分類

決定権が自分側にある表現タイプ	決定権が相手側にある表現タイプ
a. 《意志表明》	c. 《許可依頼》
b. 《能力主張》	e. 《要望質問》
d. 《直接申し出》	f. 《意志確認質問》
	g. 《要求願望質問》(日×、韓×)

(4)に示した形式バリエーションの表現タイプを比較すると、次の(6)のとおりであった。

(6) 決定権の比較

	日本語	中国語	韓国語	英語
決定権が自分側にある表現タイプ	7	5	5	3
決定権が相手側にある表現タイプ	4	5	4	4

[申し出] 表現の形式バリエーションを見る限り、日本語・中国語・韓国語・英語のうち、日本語と韓国語は決定権が自分にある表現タイプの数が比較的多く、英語は決定権が相手にある表現タイプの数が比較的多いようであった。

果たして、実際に各言語でどのような表現タイプもよく使われるのだろうか。日本語の現代小説から抽出した用例とその中国語・韓国語・英語訳を調べて、次のような結果が分かった。

(7) 日本語原文とその訳の表現タイプ

日本語	中国語	韓国語	英語
自 《意志表明》 13	自 《意志表明》 10 相 《意志確認質問》 1 その他 ³⁷ 2	自 《意志表明》 12 相 《意志確認質問》 1	自 《意志表明》 13
自 《能力主張》 1	自 《能力主張》 1	自 《能力主張》 1	自 《能力主張》 1
相 《許可依頼》 1	相 《許可依頼》 1	自 《意志表明》 1	相 《許可依頼》 1
相 《意志確認質問》 7	自 《意志表明》 4 相 《要求願望質問》 2 相 《意志確認質問》 1	相 《意志確認質問》 6 その他 1	相 《要望質問》 3 相 《要求願望質問》 2 相 《意志確認質問》 1 その他 1

³⁷ 中：命令的要求 2、韓：肯定評価、英：義務

(※自は決定権が自分側にある表現タイプを示し、相は相手側にある表現タイプを示す。)

この結果から、まず、どの言語でも、決定権が自分側にある表現タイプの使用が相手側にある表現タイプより多いことが分かった。中国語の場合が特に多い。

次に、日本語の用例数が多いタイプについて詳しく見ていきたい。日本語の用例に一番多いのは《意志表明》タイプであるが、その中国語・韓国語・英語訳でも大体《意志表明》で訳されている。例えば、次の(8)は日本語の《意志表明》が中国語・韓国語・英語訳で同じく《意志表明》で訳されている例である。

(8) 「私がケーキ屋さんまで走って、もらってきましたよ」(博士：p.262)

“我 跑 到 蛋糕店 去 拿回来 吧。” (p.196)

私 走る まで ケーキ屋 行く もらってくる ね

"내가 빵가게에 뛰어가서 받아올게요." (p.241)

私が パン屋へ 走って行って もらってきます

"I'll run back to the bakery and get them," (p.168)

日本語の用例に次に多いのは《意志確認質問》タイプであるが、韓国語でもほとんど《意志確認質問》で訳されている。しかし、中国語訳は《意志表明》タイプを多用する傾向がある。例えば、(9)(10)は日本語の《意志確認質問》タイプが中国語で《意志表明》で訳されている用例である。

(9) 私は立ち上がって、「なにか作りましょうか。」と言った。(キッチン：p.25)³⁸

我 站起来, 说: “我 来 做 吧。” (p.21)

私 来る 作る ね

(10) 「果物でもお切りしましょうか」(博士：p.211)³⁹

³⁸ (9)の韓国語訳は《意志確認質問》となっている。

"제가 만들까요?" (p.24)

私が 作ろうか

(9)の英語訳は《要求願望質問》となっている。

I stood up. "Would you like me to make something?" (p.17)

³⁹ (10)の韓国語訳は《意志確認質問》となっている。

“我 给 您 切 点 水果 吧。” (p.157)

私 ために あなた 切る 少し 果物 ね

日本語の原文では決定権が相手側にある表現タイプを使っているにもかかわらず、中国語では決定権が自分側にある表現タイプを使っている用例が多かったことから、中国語は日本語と比べて、自分が決定権を持つような表現タイプを好むのだと言えよう。

英語の場合、日本語の《意志確認質問》タイプが英語で《要望質問》と訳されている用例が多かった。例えば、次の(11)(12)がその例である。

(11) 「リンゴジュースでも持ってきましょうか?」 (博士 : p.158) ⁴⁰

“Would you like some apple juice?” (p.101)

(12) 「送ろうか?」

増尾の言葉に佳乃は嬉しそうに頷いた。(悪人 : p.264) ⁴¹

“Want a ride?”

Yoshino nodded happily. (p.144)

日本語の原文は、自分の意志を相手に確認することで決定権を相手に委ねているのに対し、英語訳は相手の要望を聞くことで決定権を相手に委ねている。

“과일이라도 꺾을까요?” (p.194)

果物でも 切りましょうか

(10)の英語訳は《要望質問》となっている。

“Would you like some fruit?” (p.137)

⁴⁰ (11)の中国語・韓国語訳は《意志確認質問》となっている。

“我 给 您 端 一杯 苹果汁 过来 好吗?” (p.116)

私 ために あなた 持つ 一杯 リンゴジュース 来る いいか

“사과주스 드릴까요?” (p.144)

リンゴジュース 差し上げましょうか

⁴¹ (12)の中国語訳は《要求願望質問》となっている。

“要 我 送 你 吗?” 听到増尾的话, 佳乃高兴地点头。(p.161)

したい 私 送る あなた か

(12)の韓国語訳は《意志確認質問》となっている。

“바래다줄까?” 마스오의 말에 요시도는 기쁜 듯 고개를 끄덕였다. (p.237)

送ってあげようか

また、先の(9)の例の英語訳は《要求願望質問》タイプで、相手の自分への願望をたずねることで決定権を相手に委ねている。

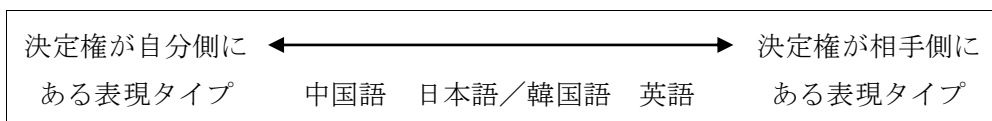
(13) (=9) 私は立ち上がって、「なにか作りましょうか。」と言った。(キッチン：p.25)

I stood up. "Would you like me to make something?" (p.17)

さきほど [申し出] 表現の形式バリエーションの比較では、英語は決定権が相手側にある表現タイプが比較的多いと述べたが、実際の用例も多いことは、あらためて英語は決定権が相手側にある表現タイプを好むことを示している。

以上の [申し出] 表現の決定権に関する考察は(14)のようにまとめることができる。

(14) [申し出] 表現には、決定権が自分側にある表現タイプも相手側にある表現タイプも使われている。中国語は決定権が自分側にある表現タイプを比較的多く使うが、英語は決定権が相手側にある表現タイプを比較的多く使う。日本語と韓国語には大きな差がない。



4.2.申し出場面の焦点化について

吉成 (2008) は、2 節の(3)のように事象連鎖における申し出場面の焦点化についてまとめている。吉成 (2008) において事象③[聞き手の行為]があるが、本稿ではそのような聞き手の行為を [申し出] 表現と考えないので、事象①[聞き手の状況]と事象②[話し手の行為]だけについて見ることにする。

(4)に示した [申し出] 表現の形式バリエーションの表現タイプを整理すると、次の(15)のようになる。

(15) [申し出] 場面の焦点化による表現タイプの分類

事象①[聞き手の状況]	→	事象②[話し手の行為]
《要望質問》		《意志表明》
《要求願望質問》(日×、韓×)		《能力主張》
		《直接申し出》
		《許可依頼》
		《意志確認質問》

[申し出] 表現の形式バリエーションを見ると、日本語と韓国語には事象②[話し手の行為]が焦点化される表現タイプが比較的多く、中国語と英語には事象①[聞き手の状況]が焦点化される表現タイプが比較的多いことが分かる。

実際の用例については、4.1 節の(7)に示したとおりである。日本語の用例に事象①が焦点化される表現タイプが見られず、すべて事象②が焦点化される表現タイプである。その訳は同じく事象②が焦点化される表現タイプ以外、事象①が焦点化される表現タイプになっていることもある。それを次の(16)のように示す。なお、それ以外の用例は同じく事象②に訳されているため、ここでは特に取り上げない。

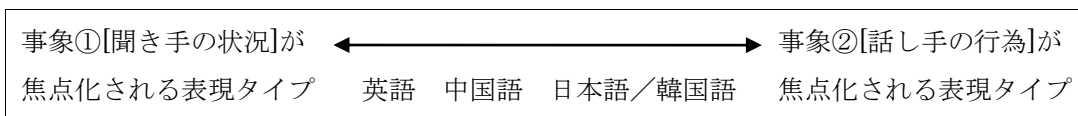
(16) 日本語の用例とその訳の [申し出] 場面の焦点化

事象①[聞き手の状況]	→	事象②[話し手の行為]
		(日 13) 《意志表明》
(中 2) 《要求願望質問》		(日 1) 《能力主張》
(英 3) 《要望質問》		(日 1) 《許可依頼》
(英 2) 《要求願望質問》	←	(日 7) 《意志確認質問》

形式バリエーションのうち、日本語と韓国語は事象②が焦点化される表現タイプが比較的多いが、実際の用例でも、日本語と韓国語は事象②が焦点化される表現タイプを多用することが分かった。一方、形式バリエーションにおいて、中国語と英語はともに事象①が焦点化される表現タイプが比較的多いが、実際の用例では、中国語と英語は事象②が焦点化される表現タイプも用いるが、事象①が焦点化される表現タイプも多く使われている。とくに、英語は中国語より事象①の表現タイプが顕著に現れた。

[申し出] 場面の焦点化に関する以上の考察をまとめると、次の(17)になる。

(17) [申し出] 場面の焦点化の観点から言えば、事象①[聞き手の状況]が焦点化される表現タイプと、事象②[話し手の行為]が焦点化される表現タイプがある。日本語と韓国語は話し手の行為が焦点化される表現タイプが多く使われる。英語は聞き手の状況が焦点化される表現タイプが多く使われる。中国語は大きな差がない。



4.3. 恩恵について

[申し出] は基本的に利益が相手にある行為であるため、その利益を表す形式として、日本語と中国語と韓国語は自分から相手に恩恵を与える恩恵形式を使うことができる。すなわち、日本語では「てあげる」、中国語では「给」⁴²、韓国語では「아/어주다」を用いる⁴³。

[申し出] 表現の形式バリエーションのなかで、《意志表明》《能力主張》《意志確認質問》表現タイプは恩恵の有る形式と無い形式を 2 通りずつ持っている。それらの表現タイプの形式を整理すると、次の(18)になる。

(18) 自分から相手に恩恵を与える恩恵形式

	恩恵	日本語	中国語	韓国語
《意志表明》	有	J04b. してあげる J06b. してあげよう	C04b. 我给你做	K04b. 해줄게
	無	J03b. する J05b. しよう	C03b. 我做	K03b. 할게
《能力主張》	有	J02a. してあげられる	C02a. 我可以给你做	K02a. 해 줄 수 있어
	無	J01a. できる	C01a. 我可以做	K01a. 할 수 있어
《意志確認質問》	有	J13h. してあげようか	C11h. 我给你做, 好吗?	K11h. 해줄까
	無	J12h. しようか	C12h. 我做, 好吗?	K10h. J 할까

しかし、実際の用例を見てみると、必ず日本語の恩恵有りの形式が中国語・韓国語の恩恵有りの形式に、日本語の恩恵無しの形式が中国語・韓国語の恩恵無しの形式にというふうに訳されているわけではない。恩恵形式の有無に関して、日本語とその対訳がずれている用例には、例えば、次の(19)と(20)(21)の例がある。

⁴² 中国語の「给」の用法として、受け手、受益者、受損者、受身、使役、処置などを表す用法がある。

⁴³ 英語には「てあげる」「给」「아/어주다」のような補助動詞による恩恵形式がない。それ以外の恩恵表現については、ここでは取り上げない。

(19) 「みかげちゃん、もう抜けていいよ。先生には急な旅行で買い物があるからってうまく言っといてあげるよ。」(キッチン：p.98)

“美影，你先走吧。我们会跟老师说你要去购物，
私たち つもりに 先生 言う あなた したい 行く 買い物
为 突然的旅行做准备，帮你瞒过去。” (p.96)
のために 突然の 旅行 する 準備 手伝う あなた ごまかす

"미카게, 그만 가도 괜찮아. 선생님한테는 갑자기 여행을 하게 돼서
先生には 突然 旅行を することに なる
물건 사러 나갔다고 할 테니까" (p.95)
物 買いに 出たと するつもりだから

“Mikage, it's okay to go out. We'll tell Sensei you had to do some last-minute shopping for the trip.” (p.71)

(19)の例において、日本語では「言っといてあげる」のように恩恵有りの形式を使っているが、中国語の対訳は「说（言う）」、韓国語の対訳は「할 테니까（するつもりだから）」のように恩恵無しの形式を使っている。この例のように、日本語は援助を申し出ることは相手に恩恵を与えることなので、気を使わない相手なら恩恵形式を使う。それに対して、中国語と韓国語は行為自体がさほど恩恵を与えるようなことでなければ、恩恵形式を使わない傾向がうかがえる。

(20) 「痛いんだったら、お医者さんにもらった薬を飲まなきゃ。お水持ってくるね」
(博士：p.114)

“痛的话就把医生给的药吃了。妈妈去给你拿水来。” (p.83)
ママ 行く のために あなた 持つ 水 来る

"아프면, 병원에서 받은 약 먹어야지. 물 가져올게." (p.104)
水 持ってくる

"If it hurts, take the medicine the doctor gave us. I'll get you some water." (p.73)

(21) 「この雨じゃ、自転車、無理やろ？車で送ってくよ」(悪人：p.218)

“雨下得这么大，没办法骑脚踏车吧？坐 我们 的 车 回去 吧。” (p.133)

乗る 私たち の 車 帰る ね

"이렇게 비가 오면 자전거는 힘들겠지? 차로 데려다줄게" (p.197)

車で 送ってあげる

"You can't go home on a bike in this rain. We'll give you a ride." (p.119)

(20)、(21)の例では日本語の原文は恩恵無しの形式を使っている。それに対して、(20)の中国語の対訳では「妈妈去给你拿水来（ママが水を持ってきてあげる）」のように恩恵有りの形式を使っている。(21)の韓国語の対訳では「차로 데려다줄게（車で送ってあげる）」のように恩恵有りの形式を使っている。これらの例から見て、日本語では恩恵を表さないところでも、中国語と韓国語は行為自体が恩恵を与えることであれば、恩恵の形式を使う傾向があることがうかがえる。日本語では「てあげる」の形式を使わないのは、庵ほか（2001）が指摘しているように、「てあげる」が恩着せがましい印象を与えるという理由が考えられる。

[申し出] 表現における恩恵の形式に関する考察をまとめると、(22)になる。

(22) [申し出] の行為は利益が相手にあるため、自分から相手に恩恵を与える形式「てあげる」「給」「아/어주다」を使う場合がある。中国語と韓国語は行為自体が恩恵を与えることであるかどうかによって、恩恵形式の有り無しを使い分ける傾向がある⁴⁴。一方、日本語は行為自体が与える恩恵の有無よりも、相手との人間関係を優先し、「てあげる」の使用を避ける場合がある。

5.本章のまとめ

本章は、行動展開表現の一つである [申し出] 表現を取り上げ、日本語・中国語・英語・韓国語の形式のバリエーションをまとめたうえで、決定権、焦点化、恩恵などの観点から比較考察を行った。

[申し出] の表現意図を表しうる表現形式は、《意志表明》、《能力主張》、《許可依頼》、《直接申し出》、《要望質問》、《意志確認質問》、《要求願望質問》という表現タイプに分けられる。

⁴⁴ 恩恵だけで使い分けしているわけではないように思われる。たとえば、中国語では後ろに来る動詞によって「给」が文法の制限上使えなかったり、「帮/替/为（ために）」などが語彙的に恩恵の対象を表したりする場合がある。韓国語では「아/어주다」の尊敬形の「아/어드리다（さしあげる）」は丁重語「～いたす」の意味合いで使われる場合がある。さらなる検討が必要である。

[申し出] 表現は全体として、聞き手の決定権が強いが、実際使われる表現形式は決定権が自分側にある表現タイプと決定権が相手側にある表現タイプがある。日本語の小説における用例とその中国語・韓国語・英語訳を比べると、中国語では決定権が自分側にある表現タイプを比較的多く使い、英語では決定権が相手側にある表現タイプを比較的多く使うが、日本語と韓国語には大きな差がないという結果が分かった。

[申し出] 表現の焦点化の観点から、聞き手の状況が焦点化される表現タイプと話し手の行為が焦点化される表現タイプがある。英語では聞き手の状況が焦点化される表現タイプが多く使われ、日本語と韓国語では話し手の行為が焦点化される表現タイプが多く使われるが、中国語では大きな差がないという傾向が見られた。

[申し出] は利益が相手にあるので、日本語・中国語・韓国語では自分から相手に恩恵を与えることを表す表現形式が使われる場合がある。中国語と韓国語は行為自体が恩恵を与えることであるかどうかによって、恩恵形式の有り無しを使い分ける傾向があるが、日本語の場合、行為自体より相手との人間関係が優先されるようである。

第 6 章 行動展開表現の相互関係

1.はじめに

第 2～5 章では、代表的な行動展開表現 [依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出] のそれぞれに日本語・中国語・韓国語・英語ではどのような表現形式が用いられるかを見てきた。本章では、逆に、日本語・中国語・韓国語・英語の表現形式がどのような行動展開表現に用いられるかを見たい。これによって、表現意図から表現形式を見た第 2～5 章に表現形式から表現意図を見る本章という 2 つの方向から行動展開表現の全体像を解明したい。また、形式の観点から行動展開表現の相互関係を見るという視点も提供したい。

2. 各言語の表現形式のまとめ

1 つの表現形式がどのような表現意図に使われているかを見るために、ここで、第 2～5 章までの各章に挙げた [依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出] に使われる日本語の表現形式を表現タイプごとに次の(1)のようにまとめる。それぞれの表現タイプが表し得る表現意図を○印で示す。なお、形式に重複がある場合は合併させ、ほぼ言い換えができる場合は一つの形式で代表させる。

(1) 日本語の表現形式

	表現タイプ	形式	依	勧	誘	申
平 叙 文	依頼宣言	よろしくお願ひします	○			
	勧め宣言	お勧めします／お勧めです		○		
	意志表明	しましよ／する／してあげる／しよ／してあげよ		○	○	○
	能力主張	できる／してあげられる				○
	願望表出	してもらいたい／してほしい	○			
	感情表出	してもらえれば助かる	○			
	思考表出	してもらえればと思う	○			
	比較評価	したほうがいい		○		
	肯定評価	したらしい		○		
	許可	して (も) いい		○		
	義務	するべきだ／しないとイケない		○		
命	命令的要求	しろ／しなさい／お～ください		○		
	依頼的要求	して／してちょうだい／してくれ／してください	○	○		

令 文	許可依頼	さしてください				○
	直接勧め	どうぞ。		○		
	直接申し出	はい。／どうぞ。				○
疑 問 文	意志質問	してくれないか	○			
	行為質問	するか／しないか		○	○	
	意志確認質問	しょうか／してあげようか			○	○
	可能質問	できるか	○			
	依頼可能	してもらえないか／お願いできるか／してもらっていいか	○			
	要望質問	いるか				○
	意見質問	どう／したら／したらどう／一緒にどう		○	○	

日本語の表現形式から見て、次のようなことが分かる。

- (2) a. 平叙文と疑問文は [依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出] のいずれにも使われることがあるが、命令文は [誘い] に使われることはない。
- b. 表現タイプの数から言えば、平叙文>疑問文>命令文の順に多い。
- c. 《意志表明》タイプは [勧め・助言]、[誘い]、[申し出] の3つに共用される。《依頼的要求》タイプは [依頼] と [勧め・助言] の2つに用いられる。《行為質問》《意見質問》タイプは [勧め・助言] と [誘い] の2つに用いられる。《意志確認質問》タイプは [誘い] と [申し出] の2つに用いられる。そのほかは [依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出] のいずれか1つに使われている。

同じように中国語の表現形式を一覧に示すと、次の(3)になる。

(3) 中国語の表現形式

	表現タイプ	形式	依	勸	誘	申
平 叙 文	依頼宣言	麻烦你了 / 麻烦你做	○			
	勧め宣言	我推荐你做		○		
	意志表明	我做 / 我给你做 / 我们做吧			○	○
	能力	我可以做 / 我可以给你做				○
	願望	我想麻烦你做 / 我希望你做	○			
	比較評価	你最好做 / 你还是做好		○		
	肯定評価	你做好了		○		
	許可	你可以做		○		
	義務	你要 / 应该 / 得 / 必须做		○		
	仮定	我要是你的话, 我就做		○		
命 令 文	命令的要求	你做 / 你一起做吧 / 让我们做	○	○	○	
	依頼的要求	请做	○	○		
	許可依頼	让我做				○
	直接申し出	给。				○

疑問文	意志質問	你做好吗？ / 请做好吗？	○			
	行為質問	你做吗？ / 你一起做吗？		○	○	
	意志確認質問	我们做好吗？ / 我做，好吗？ / 我给你做，好吗？			○	○
	可能質問	你能做吗？	○			
	依頼可能質問	能麻烦你做吗？ / 麻烦你做好吗？	○			
	願望質問	你要不要做？ / 你要不要一起做？		○	○	
	要望質問	你要不要？				○
	要求願望質問	你要我做吗？				○
	意見質問	怎么样？ / 你做怎么样？ / 一起做怎么样？		○	○	

上の(3)から見て、中国語の表現形式において、次のようなことが言える。

- (4) a. 平叙文・命令文・疑問文は [依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出] のいずれにも使われている。
- b. 表現タイプの数から言えば、平叙文>疑問文>命令文の順に多い。
- c. 《命令的要求》タイプは [依頼]、[勧め・助言]、[誘い] の3つに用いられる。《依頼的要求》タイプは [依頼] と [勧め・助言] の2つに用いられる。《行為質問》、《願望質問》、《意見質問》タイプは [勧め・助言] と [誘い] の2つに用いられる。《意志表明》、《意志確認質問》タイプは [誘い] と [申し出] 2つに用いられる。そのほかは [依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出] のいずれか1つに使われている。

韓国語の表現形式の一覧は次の(5)のとおりである。

(5) 韓国語の表現形式

	表現タイプ	形式	依	勸	誘	申
平叙文	依頼宣言	잘 부탁드립니다	○			
	勧め宣言	추천합니다/권해 드립니다		○		
	意志表明	하자/합시다/해요/할게요/해줄게요		○	○	○
	能力主張	할 수 있어요/해 줄 수 있어요				○
	願望表出	해주기 바랍니다	○			
	感情表出	해주면 좋겠어요/해주면 감사하겠습니다	○			
	思考表出	해주셨으면 합니다	○			
	比較評価	하는게 좋아요/하는 편이 좋아요		○		
	肯定評価	하면 좋아요/하면 돼요		○		
	義務	해야 해요/해야 돼요/하지 않으면 안 돼요		○		
命令文	命令的要求	해라/해요/하세요	○	○		
	依頼的要求	해줘요/해주세요	○	○		
	許可依頼	하게 주세요				○
	直接申し出	자./여기 있어요.				○

疑問文	意志質問	해주겠어요? /해줄래요?	○			
	行為質問	할래요?/안 할래요?/하지 않을래요?		○	○	
	意志確認質問	할까요? /해줄까요?			○	○
	可能質問	해줄 수있어요?	○			
	依頼可能質問	부탁해도 될까요?	○			
	要望質問	필요해요?				○
	意見質問	어때요? /하는게 어때요?		○	○	

上の(5)から見て、韓国語の表現形式において、次のようなことが言える。

- (6) a. 平叙文と疑問文は [依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出] のいずれにも使われることがあるが、命令文は [誘い] に使われることはない。
- b. 表現タイプの数から言えば、平叙文 > 疑問文 > 命令文の順に多い。
- c. 《意志表明》タイプは [勧め・助言]、[誘い]、[申し出] の 3 つに用いられる。《命令的要求》、《依頼的要求》タイプは [依頼] と [勧め・助言] の 2 つに用いられる。《行為質問》、《意見質問》タイプは [勧め・助言] と [誘い] の 2 つに用いられる。《意志確認質問》タイプは [誘い] と [申し出] の 2 つに用いられる。そのほかは [依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出] のいずれか 1 つに使われている。

英語の表現形式を一覧に示すと、次の(7)になる⁴⁵。

(7) 英語の表現形式

	表現タイプ	形式	依	勸	誘	申
平叙文	勧め宣言	I would recommend you do/ My advice would be		○		
	意志表明	I'll do				○
	能力主張	I can do				○
	願望表出	I want you to do	○			
	感情表出	I'd appreciate it if you could do	○			
	思考表出	I wonder if you could do	○			
	比較評価	You had better do		○		
	肯定評価	It would be a good idea to do		○		
	許可	You could do		○		
	義務	You should/ must/ have to/ have got to/ ought to/ need to do		○		
	仮定	If I were you, I would do		○		
命令	命令的要求	Do/ Just do/ Let's do	○	○	○	
	依頼的要求	Please do	○	○		
	許可依頼	Let me do				○

⁴⁵ 第3章 [勧め・助言] では「Let's do」を日本語の「しましょう」及びその用例のほかの言語の訳と比較しやすいように、《命令的要求》に入れず《意志表明》に入れたが、ここでは形式通りに《命令的要求》に入れることにする。

文	直接依頼	Please.	○			
	直接申し出	Here you go./ Here you are.				○
疑問文	意志質問	Would you please do?/ Would you mind doing?	○			
	行為質問	Will you do?/ Will you do (with me)?/ Won't you do?		○	○	
	意志確認質問	Shall we do?/ Shall I do?			○	○
	可能質問	Could you do?/ Would it be possible for you to do?	○			
	依頼可能質問	Can I ask you to do?	○			
	願望質問	Would you like to do/ Would you like to do (with me)?		○	○	
	要望質問	Would you like/ Do you need?				○
	要求願望質問	Would you like me to do/ Do you want me to do?				○
	意見質問	How about?/ How about doing?/ Why not do?		○	○	

上の(7)から見て、英語の表現形式において、次のようなことが言える。

- (8) a. 命令文・疑問文は [依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出] のいずれにも使われることがあるが、平叙文は [誘い] に使われることはない。
- b. 表現タイプの数から言えば、平叙文 > 疑問文 > 命令文の順に多い。
- c. 《命令的要求》タイプは [依頼]、[勧め・助言]、[誘い] の3つに用いられる。《依頼的要求》タイプは [依頼] と [勧め・助言] の2つに用いられる。《行為質問》、《願望質問》、《意見質問》タイプは [勧め・助言] と [誘い] の2つに用いられる。《意志確認質問》タイプは [誘い] と [申し出] の2つに用いられる。そのほかは [依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出] のいずれか1つに使われている。

3. 考察

3.1. 平叙文・疑問文・命令文の使用

各言語の形式を比較すると、平叙文・疑問文・命令文の使用について、日本語・韓国語では命令文が [誘い] に使われず、英語では平叙文が [誘い] に使われていないが、中国語では平叙文・疑問文・命令文それぞれにおいて、[依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出] の表現意図をカバーしている。そして、どの言語においても、表現形式の数が平叙文 > 疑問文 > 命令文の順に多いことが分かる。

3.2. 行動展開表現の形式の汎用性

表現タイプの使用を見ると、どの言語においても同一の表現タイプが複数の行動展開表現に用いられる場合があることに気づく。この節では、まず、行動展開表現の形式の全体の傾向性を見ておく。次の3.3節では共通の表現タイプの分布について詳しく見る。

さて、日本語・中国語・韓国語・英語の表現形式の [依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申

し出]における使用の傾向性を比較しやすいように、意味的に近い表現タイプをグループ化し、(9)のようにまとめ直す。グループ化したタイプ名とそのグループ化の理由をあわせて示す。

- (9) ・《依頼宣言》《勧め宣言》……表現意図を宣言するものである
 ・《願望表出》《感情表出》《思考表出》……話し手の気持ちを表出するものである
 ・《比較評価》《肯定評価》《許可》《義務》……話し手の意見を述べるものである
 ・《依頼的要求》《許可依頼》……聞き手に依頼するものである
 ・《直接勧め》《直接申し出》《直接依頼》……直接行動に伴うものである
 ・《意志質問》《行為質問》……聞き手のこれからの行為を尋ねるものである
 ・《可能質問》《依頼可能》……聞き手に行為の可能性を尋ねるものである
 ・《願望質問》《要望質問》《要求願望質問》……聞き手の願望を尋ねるものである

以上のようにグループ化した上で、日本語・中国語・韓国語・英語の表現形式がどのような行動展開表現に用いられるかをまとめると、次の(10)のようになる。

(10) 日本語・中国語・韓国語・英語の表現形式の汎用性

	表現タイプ	日本語	中国語	韓国語	英語
平叙文	《依頼宣言》《勧め宣言》	依・勧め	依・勧め	依・勧め	勧め
	《意志表明》	勧め・誘・申	誘・申	勧め・誘・申	申
	《能力主張》	申	申	申	申
	《願望表出》《感情表出》《思考表出》	依	依	依	依
	《比較評価》《肯定評価》《許可》《義務》	勧め	勧め	勧め	勧め
	《仮定》	×	勧め	×	勧め
命令文	《命令的要求》	勧め	依・勧め・誘	依・勧め	依・勧め・誘
	《依頼的要求》《許可依頼》	依・勧め・申	依・勧め・申	依・勧め・申	依・勧め・申
	《直接勧め》《直接申し出》《直接依頼》	勧め・申	申	申	依・申
疑問文	《意志質問》《行為質問》	依・勧め・誘	依・勧め・誘	依・勧め・誘	依・勧め・誘
	《意志確認質問》	誘・申	誘・申	誘・申	誘・申
	《可能質問》《依頼可能》	依	依	依	依
	《願望質問》《要望質問》《要求願望質問》	申	勧め・誘・申	申	勧め・誘・申
	《意見質問》	勧め・誘	勧め・誘	勧め・誘	勧め・誘

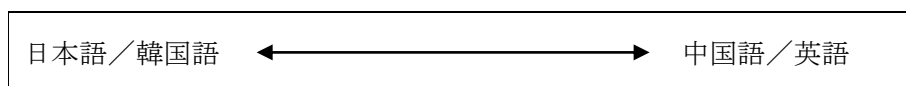
(※網かけは汎用性の高いものを示す。)

1つの表現タイプが複数の行動展開表現に用いられるほど、その表現タイプの汎用性が高いと言えるが、汎用性がもっとも高いものとして、《意志表明》、《命令的要求》、《依頼的要

求》《許可依頼》、《意志質問》《行為質問》、《願望質問》《要望質問》《要求願望質問》が挙げられる。とくに、《依頼的要求》《許可依頼》と《意志質問》《行為質問》は日本語・中国語・韓国語・英語のどの言語でも汎用性が高い。

言語間の差異に関して、《意志表明》は日本語・韓国語では同じく [勧め・助言]、[誘い]、[申し出] に使われ、中国語では [誘い] と [申し出] に使われ、英語では [申し出] のみに使われている。《命令的要求》は中国語・英語では同じく [依頼]、[勧め・助言]、[誘い] に使われ、韓国語では [依頼] と [勧め・助言] に使われ、日本語では [勧め・助言] のみに使われている。また、《願望質問》《要望質問》《要求願望質問》も中国語・英語では同じく [勧め・助言]、[誘い]、[申し出] に使われ、日本語・韓国語では [申し出] のみに使われている。これらのことから、すべての表現タイプが当てはまるわけではないが、全体的に行動展開表現の形式の汎用性は、日本語と韓国語の相似度が高く、中国語と英語の相似度が高い傾向にあると思われる。これを図で表すと、次の(11)のようになる。

(11) 行動展開表現の形式の汎用性における相似度



3.3. 形式から見る行動展開表現の連続性

このように1つの表現タイプが複数の行動展開表現に使われているのだが、逆に言えば、複数の行動展開表現がそのような同一の表現タイプによって連続しているとも言えよう。この節では、そのような観点から行動展開表現の連続性を見てみたい。

第2節の各言語の表現形式のまとめから分かるように、行動展開表現の [依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出] に限って見れば、[依頼] と [勧め・助言]、[勧め・助言] と [誘い]、[誘い] と [申し出] は共通の表現タイプを使用することで連続性を示している。

ただし、その連続性を示す表現タイプは言語ごとに違っている。[依頼] と [勧め・助言] の間の連続性を示すのは、日本語では《依頼的要求》のみであるが、中国語・韓国語・英語では《命令的要求》と《依頼的要求》の2つのタイプである。[勧め・助言] と [誘い] の間の連続性を示すのは、日本語・韓国語では《意志表明》《行為質問》《意見質問》タイプであるのに対して、中国語・英語では《命令的要求》《行為質問》《願望質問》《意見質問》タイプである。[誘い] と [申し出] の間の連続性を示すのは、日本語・中国語・韓国語では《意志表明》と《意志確認質問》の2つのタイプであるが、英語では《意志確認質問》タイプのみである。表でまとめると、次の(12)のようになる。

(12) [依頼] [勧め・助言] [誘い] [申し出] の連続性を示す表現タイプ

	日本語	中国語	韓国語	英語
[依頼] と [勧め・助言]	《依頼的要求》	《命令的要求》 《依頼的要求》	《命令的要求》 《依頼的要求》	《命令的要求》 《依頼的要求》
[勧め・助言] と [誘い]	《意志表明》 《行為質問》 《意見質問》	《命令的要求》 《行為質問》 《願望質問》 《意見質問》	《意志表明》 《行為質問》 《意見質問》	《命令的要求》 《行為質問》 《願望質問》 《意見質問》
[誘い] と [申し出]	《意志表明》 《意志確認質問》	《意志表明》 《意志確認質問》	《意志表明》 《意志確認質問》	《意志確認質問》

3.3.1. [依頼] と [勧め・助言]

まず、[依頼] と [勧め・助言] の連続性について述べる。例えば、日本語の「してください」という《依頼的要求》タイプの形式が [命令指示] にも [依頼] にも [勧め・助言] にも使われるゆえに、[命令指示] と [依頼] と [勧め・助言] が連続的であるということがしばしば先行研究で指摘されている（姫野 1997、高梨 2011 など）。日本語・中国語・韓国語・英語を比べると、《依頼的要求》タイプの形式はどの言語でも [依頼] と [勧め・助言] の両方に使われていることが分かる⁴⁶。また、中国語・韓国語・英語では《命令的要求》タイプの形式も両方に使われるが、日本語の《命令的要求》（例：「しなさい」）は [依頼] に使われない。つまり、《依頼的要求》タイプの形式が [依頼] にも [勧め・助言] にも使われることは日本語のみならず、4つの言語に共通して言えることである。日本語の《命令的要求》タイプが [依頼] に使われないことについては、むしろほかの言語と比べて特別であり、注目すべき特徴であろう。

[勧め・助言] の利益は相手側にあるが、[依頼] の利益は自分側にある。[勧め・助言] の場合、どの言語でも、丁寧・恩恵的な要素を含めて《依頼的要求》タイプを使っていい場合もあれば、丁寧・恩恵的な要素を含めず《命令的要求》タイプを使っていい場合もある。それに対して、[依頼] の場合、日本語では自分が利益を受けることを言語形式で表さないといけないため、《依頼的要求》は適格であるが、《命令的要求》タイプは使われないのである。一方、中国語・韓国語・英語では必ずしも利益を反映する必要はないようである。中国語・韓国語・英語の《命令的要求》タイプが [依頼] として使われる用例には(13)が、[勧め・助言] として使われる用例には(14)がある。

(13) “再 等 _____ 一会儿。接下来只要把这个捏捏圆，放到煎锅里煎煎就好了。”

また 待ちなさい 少し

(博士：p.29)

⁴⁶[命令指示]にも使われるだろうが、本稿の研究対象に入っていないので詳しく論じない。

"에게, 간단하네요. 금방 풀 수 있어요. 박사님도 숙제 냈으니까 제 부탁도 들어줘요. 라디오 좀 고쳐놓으세요." (博士 : p.56)

ラジオ ちょっと直しておきなさい

"Wait!" I called out to slow him down, but this only succeeded in drawing wary looks from the people nearby. (博士 : p.149)

(14) “明天早上我不在, 家里的东西随使用 啊。” (キッチン : p.18)

家のもの好きに使いなさいね

"내일 아침에는 나 없으니까, 있는 것 아무거나 써요" (p.23)

あるものなんでも使いなさい

"I'll be out of here early in the morning, so just help yourself to whatever you want." (p.15)

3.3.2. [勧め・助言] と [誘い]

次に、[勧め・助言] と [誘い] の連続性について見てみる。先行研究において、日本語では [勧め・助言] にも [誘い] にも使われる表現形式に「するか/しないか」「(したら) どう」(本稿で言う《行為質問》と《意見質問》タイプ) が挙げられる、と言及されている(姫野 1997, 1998 など)⁴⁷。日本語・中国語・韓国語・英語を比べると、《行為質問》と《意見質問》の2つのタイプが [勧め・助言] と [誘い] の両方に使われるということは、4つの言語で共通していることが分かった。異なるのは、以上の2つのタイプに加えて、日本語・韓国語では《意志表明》(例:「しましょう」) タイプも、中国語・英語では《命令的要求》(例:「你做/你一起做吧」、「Let's do」) と《願望質問》(例:「你要不要做?」、「Would you like to do?」) タイプも連続部分にあることである。この異なる点にも注目したい。

[誘い] の場合、行動と利益に自分と相手の両方を含めるものが典型的であるが、[勧め・助言] の場合、行動も利益も相手のみである。《行為質問》と《意見質問》タイプは相手に提案して相手個人の行動・個人行動に対する意見を尋ねる意味合いで使われれば [勧め・助言] として機能し、相手と自分の共同行動・共同行動に対する意見を尋ねる意味合いで使われれば [誘い] として機能することができる。同様に、中国語・英語では《願望質問》

⁴⁷ 姫野 (1997, 1998) は、「するか/しないか」や「(したら) どう」は「勧め」の「専用形式」であると考察している。「勧誘」にも使われるが、それは「勧め」に由来するものであると述べている。

を相手の個人行動に対する願望を尋ねる意味合いで使われれば「勧め・助言」として機能し、相手と自分の共同行動に対する願望を尋ねる意味合いで使われれば「誘い」として機能することができるが、日本語・韓国語では相手に願望を聞くことが個人の領域に侵入する恐れがあり、そもそも「勧め・助言」や「誘い」にあまり使わない。中国語・英語の《願望質問》タイプが「勧め・助言」として使われる用例には(15)、「誘い」として使われる用例には(16)がある。

(15) “我也记不清了。在我很小的时候，她就死了。有照片，要 看 吗?”
したい 見る か(キッチン:p.17)

"I don't remember her myself. She died when I was little. I have a picture, though.
Want to see it?" (p.13)

(16) 我 想 去 买东西， 你 要不要 一起 去? ⁴⁸
私 したい 行く 買い物する あたな したいか 一緒に 行く

"Want to see the shooting-star well?" asked Sakko-chan, and naturally Totto-chan agreed and ran after her. (トット: p.38)

また、日本語・韓国語では《意志表明》における意志が自分と相手を含めるものなら「誘い」として機能し、相手へ向けるものなら「勧め・助言」として機能することができる。それに対して、中国語・英語の《意志表明》は相手へ向ける意味にならないので「勧め・助言」には使われないのである。(17)は日本語・韓国語の《意志表明》が「誘い」として使われる用例で、(18)は「勧め・助言」として使われる用例である。

(17) 「ここが片付いたら、家に帰る途中、公園で屋台のラーメン食べような。」
(キッチン: p.56)

"여기 일 다 끝나면 집으로 돌아가는 길에, 포장마차에서 라면 먹자" (p.54)
屋台で ラーメン 食べよう

(18) 「今度博士に頼んで、ゆっくり見せてもらいましょう。順番を間違えてない? 厳密に分類してあるんだから……」(博士: p.241)

"다음에 박사님한테 보여달라고 부탁하자. 차례 안 틀렸어? 꼼꼼하게 분류돼

⁴⁸ (16)の中国語の例は筆者による作例である。

今度 博士に 見せるように お願いしよう
있으니까....." (p.221)

《意志表明》ではないが、英語の《命令的要求》の「Let's do」は自分と相手の共同行動を命令形で述べ [誘い] として機能するのが基本的でありながら、相手への [勧め・助言] として機能することもできる。ただし、それは子供相手など自分も手伝ったり関わったりする場合に限るようである。(19)は英語の《命令的要求》が [勧め・助言] として使われる用例で、(20)は [誘い] として使われる用例である。

(19) "You needn't worry about trying to be a good speaker," he said. "And you can talk about anything you like. You can talk about things you'd like to do. Anything. At any rate, let's give it a try." (トット : p.92)

(20) "Well, let's drink." Yukawa offered, ending his questions and pouring Ishigami a glass. (容疑者 : p.85)

中国語の《命令的要求》の「你做/你一起做吧」は相手個人の行動を命令形で提案すれば [勧め・助言] であるが、自分とともに行動することを命令形で提案すれば [誘い] になる。(21)は中国語の《命令的要求》が [勧め・助言] として使われる用例で、(22)は [誘い] として使われる用例である。

(21) “下回你 求 博士 给你 看个够 吧。没搞乱顺序吧?
今度 あなた 頼みなさい 博士 に あなた 好きなだけ見る ね
他分类分得很严密的……” (博士 : p.180)

(22) “你现在走吗?”
“是啊, 你 一起 走 吧。”⁴⁹
そう あなた 一緒に 行こう ね

3.3.3. [誘い] と [申し出]

最後に見たいのは [誘い] と [申し出] の連続性である。[申し出] は自分が行動し、利益が相手側にあるのに対して、[誘い] は典型的には行動も利益も自分と相手の両方が含まれる。一見かけ離れた 2つの行動展開表現ではあるが、日本語では「しよう」「しようか」という表現形式(本稿で言う《意志表明》と《意志確認質問》タイプ)がその両方に使われている(宮

⁴⁹ (22)の中国語の例は筆者による作例である。

崎ほか 2002) ので、連続性が認められよう。そこで、日本語・中国語・韓国語・英語を比べてみると、日本語と同様に、中国語・韓国語でも《意志表明》と《意志確認質問》の 2 つのタイプが [誘い] と [申し出] の両方に使われている。しかし、英語では《意志確認質問》(例:「Shall I do?/ Shall we do?」) タイプのみが両方に使われ、《意志表明》が [誘い] に使われないことが分かる。

日本語・中国語・韓国語では《意志表明》《意思確認質問》における意志が自分の意志なら [申し出] として機能し、自分と相手を含めるものなら [誘い] として機能することができる。英語の《意志表明》は自分の意志を表す場合 (例:「I'll do」) [申し出] の機能を果たすことができるが、自分と相手の意志を表す形式「We'll do」では [誘い] の意味にならないのである。(23)は日本語・中国語・韓国語・英語の《意志表明》が [申し出] として使われる用例で、(24)は日本語・中国語・韓国語の《意志表明》が [誘い] として使われる用例である。

(23) 「私がケーキ屋さんまで走って、もらってきましたよ。」(博士: p.262)

“我跑到蛋糕店去拿回来吧。” (p.196)

私 走る まで ケーキ屋 行く もらってくる ね

“내가 빵가게에 뛰어가서 받아올게요.” (p.241)

私が パン屋へ 走って行って もらってきます

“I'll run back to the bakery and get them.” (p.168)

(24) だから、帰り道に、「明日も、散歩しよう!」と、みんなに大きい声でいった。みんなは、とびはねながら、いった。

「そうしよう」 (トット: p.60)

所以, 在回去的路上, 小豆豆向大家大声提议说:“明天, 我们还来散步吧。”

あした 私たち また 来よう 散歩 ね

孩子们都兴奋地跳起来, 异口同声地说:“就这么说定啦!” (p. 47)

“내일도 산책하자!”

あしたも 散歩しよう

아이들은 꺽충꺽충 뛰며 화답했다.

“그래!!!” (p.58)

以上、なぜ一部の表現タイプが〔依頼〕と〔勧め・助言〕、〔勧め・助言〕と〔誘い〕、〔誘い〕と〔申し出〕の両方に使えるのかを詳しく述べたが、総じてそれは何を意味しているのか。〔依頼〕〔勧め・助言〕〔誘い〕〔申し出〕の意味的な関連性から論じたい。(25)は蒲谷ほか(2009)が定義した〔依頼〕〔勧め・助言〕〔誘い〕〔申し出〕の構造をまとめたものである。

(25) 蒲谷ほか(2009)による〔依頼〕〔勧め・助言〕〔誘い〕〔申し出〕の構造

	行動	決定権	利益・恩恵
依頼	相手	相手	自分
勧め・助言	相手	相手	相手
誘い	自分と相手	相手	自分と相手
申し出	自分	相手	相手

本稿の立場によって捉えなおすと、〔依頼〕〔勧め・助言〕〔誘い〕〔申し出〕の関係性は次の(26)のようになる。

(26) 〔依頼〕〔勧め・助言〕〔誘い〕〔申し出〕の関係性

	行動	聞き手の決定権 弱←————→強	利益・恩恵
依頼	相手	強	自分
勧め・助言	相手	強	相手
誘い	自分と相手	強	自分と相手、自分、相手
申し出	自分	強	相手

〔依頼〕〔勧め・助言〕〔誘い〕〔申し出〕は、みな全体的に「聞き手の決定権」が強いという点で共通していながら、「行動」と「利益・恩恵」に関しては異なっている。したがって、「行動者」と「利益・恩恵」を表すのに幅を持つ表現タイプこそ、異なるカテゴリーの行動展開表現に使われることが可能である。〔依頼〕と〔勧め・助言〕の場合は、「行動」も同じ聞き手であるため、「利益・恩恵」が自分か相手かの両方を表せるような表現タイプが〔依頼〕と〔勧め・助言〕の両方に使える。〔勧め・助言〕と〔誘い〕、〔誘い〕と〔申し出〕の場合は、それぞれの「行動」と「利益・恩恵」の条件を同時に満たせるような表現タイプが両方に使える。

4.本章のまとめ

本章では、日本語・中国語・韓国語・英語の表現形式がどのような行動展開表現に用いられるかをまとめた上で、表現形式の使用から各言語における行動展開表現の相互関係を検討した。

まず、平叙文・疑問文・命令文の使用については、日本語・韓国語では命令文が「誘い」に使われず、英語では平叙文が「誘い」に使われないことが分かった。一方、中国語では平叙文・疑問文・命令文それぞれにおいて、「依頼」、「勧め・助言」、「誘い」、「申し出」の表現意図をカバーしていることが分かった。

次に、表現タイプごとに詳しく見ていくと、どの言語でも、同一の表現タイプが複数の行動展開表現に用いられる場合があることが分かった。ただし、その共通の表現タイプの分布は言語ごとに違う。全体的に言えば、行動展開表現の形式の汎用性は日本語と韓国語の相似度が高く、中国語と英語の相似度が高い傾向にあると言える。

本稿で取り上げた「依頼」、「勧め・助言」、「誘い」、「申し出」に限って言えば、同一の表現タイプが複数の行動展開表現に用いられるのは、「依頼」と「勧め・助言」の両方、「勧め・助言」と「誘い」の両方、または「誘い」と「申し出」の両方に用いられる場合であった。このような共通の表現タイプはみな「行動者」と「利益・恩恵」を表すのに幅を持っていることが特徴的である。形式の観点から、「依頼」、「勧め・助言」、「誘い」、「申し出」はこのような共通の表現タイプを使用することで連続性を示している。

第7章 おわりに

1.本稿のまとめ

相手あるいは自分（またはその両者）が何らかの行動を起こすことを表現意図とする表現は、坂本ほか（1994）によって「行動展開表現」と呼ばれている。本稿は、[依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出]の4つの代表的な行動展開表現を取り上げて、日本語・中国語・韓国語・英語の表現形式を対照させることで、それぞれの言語の特徴を検討する。

まず、行動展開表現の分類の3要素について検討した。行動展開表現は「行動（だれが行動するのか）、決定権（だれがその行動の決定権を持っているのか）、利益（その行動の結果、だれが利益・恩恵を受けるのか）」という3つの要素で分類されている。行動に関して、[依頼]と[勧め・助言]の行動者は聞き手であり、[誘い]の行動者は話し手と聞き手であり、[申し出]の行動者は話し手である。決定権について、[依頼]、[勧め・助言]、[誘い]、[申し出]はみな全体として聞き手の決定権が強いカテゴリーである。しかし、実際使われる表現形式によって「聞き手の決定権／話し手の強制力」の強弱の幅があることを指摘した。利益に関して、[依頼]の利益は話し手側にあり、[勧め・助言]と[申し出]の利益は聞き手にある。[誘い]の利益は話し手と聞き手の両方にあるのは典型的であるが、話し手に傾く場合も聞き手に傾く場合もあることを指摘した。

それから、行動展開表現の全体像を解明するために、本稿は表現意図から表現形式を見ることと、表現形式から表現意図を見ることの2つの方向を提案した。こう見ることによって、表現意図と表現形式の多対多な関係、そして、形式から見る行動展開表現の相互関係を明らかにした。

また、日本語・中国語・韓国語・英語の違いについて、表現意図から表現形式を見た際も、表現形式から表現意図を見た際も、その違いは考察する要素ごとのものであり、それぞれの言語について一般的な傾向性のようなものは認められなかった。

各章の内容は次のとおりである。

第1章では、本稿の立場を述べた。まず、なぜこの研究テーマにしたかという研究背景を述べた。次に、先行研究を概観し、なぜ坂本ほか（1994）、蒲谷ほか（2009）の行動展開表現を理論的大枠として用いたかを述べた。最後に、本稿の目的と研究方法について述べた。

第2章では、行動展開表現の一つである[依頼]表現を取り上げ、日本語・中国語・韓国語・英語の表現形式のバリエーションをまとめたうえで、話し手の強制力の強弱と利益・

恩恵の角度から、比較考察を行った。

〔依頼〕の表現意図を表しうる表現形式は、《依頼宣言》、《願望表出》、《感情表出》、《思考表出》、《命令的要求》、《依頼的要求》、《直接依頼》、《可能質問》、《意志質問》、《依頼可能質問》という表現タイプに分けられる。

〔依頼〕表現は全体として話し手の強制力が弱く、聞き手の決定権が強いが、実際使われる表現形式は話し手の強制力の強弱の程度がさまざまある。《依頼宣言》、《命令的要求》、《依頼的要求》、《直接依頼》を話し手の強制力が強めな表現タイプとし、そのほかを話し手の強制力が弱めな表現タイプとすることができる。日本語の小説の用例とその中国語・韓国語・英語訳を比べると、英語では話し手の強制力が弱めな表現タイプが多く使われるのに対して、中国語と韓国語話し手の強制力が強めな表現タイプが多く使われ、日本語はその中間に位置するという傾向が分かった。

〔依頼〕の利益・恩恵が自分にあるので、自分が利益・恩恵を受けることを表す表現形式が使われる場合がある。ほかの言語と比べて、日本語は授受表現が含まれる表現形式を多用するということが大きな特徴である。一方、中国語・韓国語・英語は日本語ほど自分が利益・恩恵を受けることを表す表現形式が使われない。《命令的要求》タイプのような自分が利益・恩恵を受けることを表さない表現形式でも〔依頼〕の表現意図を表しうる、ということが特徴的である。

第3章では、行動展開表現の一つである〔勧め・助言〕表現を取り上げ、日本語・中国語・英語・韓国語の形式バリエーションをまとめたうえで、話し手の強制力の強弱の観点から、各言語においてどのような表現タイプがよく使われるかを考察した。

〔勧め・助言〕表現は《勧め宣言》、《仮定》、《比較評価》、《肯定評価》、《許可》、《義務》、《意志表明》、《命令的要求》、《依頼的要求》、《直接勧め》、《行為質問》、《願望質問》、《意見質問》という表現タイプに分けられる。

これらの表現タイプのうち、《義務》、《意志表明》、《命令的要求》、《依頼的要求》、《直接勧め》を話し手の強制力が強めな表現タイプとし、そのほかを話し手の強制力が弱めな表現タイプとすることができる。形式のバリエーションから見ると、日本語においては話し手の強制力が強めな表現タイプが多い。それにもかかわらず、日本語の小説における用例とその訳を比べると、実際には、日本語では話し手の強制力が弱めな表現タイプが比較的多く使われているのに対し、韓国語・英語・中国語は話し手の強制力が強めな表現タイプが比較的多く使われているという結果を得た。

第4章では、行動展開表現の一つである〔誘い〕表現を取り上げ、日本語・中国語・英語・韓国語における表現形式のバリエーションをまとめた。そして、それぞれの形式が「グループ型」あるいは「引き込み型」の〔誘い〕に使われるかどうか、各言語でよく使われるのは意志から拡張した形式か勧めから拡張した形式か、を考察した。また、典型的な〔誘い〕表現とそうでない表現、〔誘い〕表現が用いられる場合とそうでない場合があることを確認した。

同じ形式が「グループ型」の[誘い]にも「引き込み型」の[誘い]に使われることがあるが、日本語・中国語・韓国語・英語のうち、韓国語の表現形式はもっとも汎用的であり、英語の表現形式が一番使い分けている。

[誘い]表現は《意志表明》、《命令的要求》、《意志確認質問》、《行為質問》、《願望質問》、《意見質問》というタイプに分けられるが、《意志表明》、《命令的要求》、《意志確認質問》は意志表現から拡張した表現タイプで、《行為質問》、《願望質問》、《意見質問》は勧め表現から拡張した表現タイプであると考えられる。日本語の小説における用例とその中国語・韓国語・英語訳を比べると、日本語・中国語・韓国語では意志から拡張した表現タイプが比較的多く使われるのに対して、英語では勧めから拡張した表現タイプが比較的多く使われる。

典型的な[誘い]表現は、自分と相手が一緒に行動し、利益が両方にある場合、行動の決定権が相手にあるような場合であると考えられるが、それ以外に、「習慣的誘い」、「懇願的誘い」、「懇願的誘い」表現も存在する。

[誘い]表現が避けられる場合というのは、日本語では目上の人を誘う場合や司会者が会議を始めるときの慣用表現などが挙げられる。

第5章では、行動展開表現の一つである[申し出]表現を取り上げ、日本語・中国語・英語・韓国語の形式のバリエーションをまとめたうえで、決定権、焦点化、恩恵などの観点から比較考察を行った。

[申し出]の表現意図を表しうる表現形式は、《意志表明》、《能力主張》、《許可依頼》、《直接申し出》、《要望質問》、《意志確認質問》、《要求願望質問》という表現タイプに分けられる。

[申し出]表現は全体として、聞き手の決定権が強いが、実際使われる表現形式は決定権が自分側にある表現タイプと決定権が相手側にある表現タイプがある。日本語の小説における用例とその中国語・韓国語・英語訳を比べると、中国語では決定権が自分側にある表現タイプを比較的多く使い、英語では決定権が相手側にある表現タイプを比較的多く使うが、日本語と韓国語には大きな差がないという結果が分かった。

[申し出]表現の焦点化の観点から、聞き手の状況が焦点化される表現タイプと話し手の行為が焦点化される表現タイプがある。英語では聞き手の状況が焦点化される表現タイプが多く使われ、日本語と韓国語では話し手の行為が焦点化される表現タイプが多く使われるが、中国語では大きな差がないという傾向が見られた。

[申し出]は利益が相手にあるので、日本語・中国語・韓国語では自分から相手に恩恵を与えることを表す表現形式が使われる場合がある。中国語と韓国語は行為自体が恩恵を与えることであるかどうかによって、恩恵形式の有無を使い分ける傾向があるが、日本語の場合、行為自体より相手との人間関係が優先されるようである。

第6章では、日本語・中国語・韓国語・英語の表現形式がどのような行動展開表現に用いられるかをまとめた上で、表現形式の使用から各言語における行動展開表現の相互関係を検討した。

まず、平叙文・疑問文・命令文の使用については、日本語・韓国語では命令文が「誘い」に使われず、英語では平叙文が「誘い」に使われないことが分かった。一方、中国語では平叙文・疑問文・命令文それぞれにおいて、「依頼」、「勧め・助言」、「誘い」、「申し出」の表現意図をカバーしていることが分かった。

次に、表現タイプごとに詳しく見ていくと、どの言語でも、同一の表現タイプが複数の行動展開表現に用いられる場合があることが分かった。ただし、その共通の表現タイプの分布は言語ごとに違う。全体的に言えば、行動展開表現の形式の汎用性は日本語と韓国語の相似度が高く、中国語と英語の相似度が高い傾向にあると言える。

本稿で取り上げた「依頼」、「勧め・助言」、「誘い」、「申し出」に限って言えば、同一の表現タイプが複数の行動展開表現に用いられるのは、「依頼」と「勧め・助言」の両方、「勧め・助言」と「誘い」の両方、または「誘い」と「申し出」の両方に用いられる場合であった。このような共通の表現タイプはみな「行動者」と「利益」を表すのに幅を持っていることが特徴的である。形式の観点から、「依頼」、「勧め・助言」、「誘い」、「申し出」はこのような共通の表現タイプを使用することで連続性を示している。

2. 今後の課題

本稿では、「依頼」、「勧め・助言」、「誘い」、「申し出」の4つの行動展開表現を取り上げ、主に形式の観点から日本語・中国語・韓国語・英語の対照を行ったが、人間関係や場面や文化的な要素などを十分に考慮に入れなかった。今後、用例調査だけでなく、母語話者に対するアンケート調査を行うことなどで、行動展開表現の使用事態をより綿密に考察したいと考えている。

本稿は日本語原文の現代小説とその中国語・韓国語・英語の対訳を用例として用いたが、日本語の原文の影響を受けて中国語・韓国語・英語の用例に偏りが出ている恐れもある。今後、中国語・韓国語・英語原文の小説とその日本語訳についても用例を集める必要があると考える。用例を充実させることによって、この研究をより深めることができるであろう。

また、「指示・命令」や「許可」などほかの行動展開表現について考察する余裕がなかった。これらの行動展開表現は互いに緊密な関係を有することは言うまでもない。たとえば、本稿の一つの観点、表現形式から表現意図を見ると、「しなさい」「していい」という形式がそれぞれ「指示・命令」「許可」に使われるとともに、「勧め・助言」にも使われることは、やはり「指示・命令」「許可」と「勧め・助言」の関係性を示しているであろう。これらの行動展開表現について考察を加えることによって、行動展開表現の全体像の解明により近づくであろう。

行動展開表現は日常コミュニケーションで極めて重要であるが、その表現意図と表現形式の複雑さに、学習者はよく挫折したり、母語を直訳してしまうような誤用を起こしたり

する。本研究は言語教育に役立つことを念頭においたが、この研究の成果をどのように生かせば、学習者の誤用を減らすことができるだろうかをさらに研究する必要がある。たとえば、教科書の編集に導入するなどのことが考えられよう。

このような問題を今後の課題としたい。

用例出典

- (一) 小川洋子 (2005) 『博士の愛した数式』 新潮文庫 (「博士」と省略)
小川洋子著, 李建云译 (2005) 《博士的爱情算式》, 人民文学出版社
오가와 요코 지음, 김난주 옮김(2004) <박사가 사랑하는 수식> 이레
Yoko Ogawa. Translated by Stephen Snyder (2009) *The Housekeeper and the Professor*. New York: Picador.
- (二) 黒柳徹子 (1984) 『窓ぎわのトットちゃん』 講談社文庫 (「トット」と省略)
黒柳彻子著, 赵玉皎译 (2003) 《窗边的小豆豆》, 南海出版公司
구로야나기 테츠크 지음, 김난주 옮김(2000) <창가의 토토> 프로메테우스출판사
Tetsuko Kuroyanagi. Translated by Dorothy Britton (1996) *Totto-chan: The Little Girl at the Window*. Tokyo: Kodansha International.
- (三) 東野圭吾 (2005) 『容疑者 X の献身』 文藝春秋 (「容疑者」と省略)
东野圭吾著, 刘子倩译 (2008) 《嫌疑人 X 的献身》, 南海出版社
Keigo Higashino. Translated by Alexander O. Smith & Elye J. Alexander (2001) *The Devotion of Suspect X*. New York: Minotaur Books.
히가시노 게이고 지음, 양역관 옮김(2006) <용의자 X 의 헌신> 현대문학
- (四) 村上春樹 (2009) 『1Q84 BOOK1』 新潮社 (「1Q84」と省略)
村上春樹著, 施小炜译 (2005) 《1Q84 BOOK1》, 南海出版社
무라카미 하루키 지음, 양윤옥 옮김 (2009) <1Q84 BOOK1> 문학동네
Haruki Murakami. Translated by Jay Rubin & Philip Gabriel (2011) *1Q84*. New York: Alfred A. Knopf.
- (五) 吉田修一 (2009) 『悪人』 (上) 朝日文庫 (「悪人」と省略)
吉田修一著, 王华懋译 (2010) 《恶人》, 文化艺术出版社.
요시다 슈이치 지음, 이영미 옮김 (2008) <악인> 은행나무.
Shuichi Yoshida. Translated by Philip Gabriel (2010) *Villain*. New York: Pantheon Books.
- (六) 吉本ばなな (1998) 『キッチン』 角川文庫 (「キッチン」と省略)
吉本芭娜娜著, 李萍译 (2009) 《厨房》, 上海译文出版社.
요시모토 마나나 지음, 김난주 옮김 (1999) <키친> 민음사.
Banana Yoshimoto. Translated by Megan Backus (1994) *Kitchen*. New York: Washington Square Press.

参考文献

- 安達太郎 (1995) 「勧誘文—シナイカとシヨウとシヨウカー」 宮島達夫・仁田義雄 (編) 『日本語類義表現の文法 (上) 単文編』 くろしお出版
- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』 スリーエーネットワーク
- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』 スリーエーネットワーク
- 石綿敏雄・高田誠 (1990) 『対照言語学』 おうふう
- 井出祥子・荻野綱男・川崎晶子・生田少子 (1986) 『日本人とアメリカ人の敬語行動—大学生の場合—』 南雲堂
- 宇佐美まゆみ (2001) 「談話のポライトネス—ポライトネスの談話構造構想」 第7回国立国語研究所国際シンポジウム報告書、国語国立研究所
- 梅田博之 (1991) 『スタンダードハンゲル講座 2 文法・語彙』 大修館書店
- 王志英 (2005) 『命令・依頼の表現：日本語・中国語の対照研究』 勉誠出版
- 沖裕子 (1995) 「勧めの依頼表現について」 『日本語学』 14・11 : pp.42-49
- 沖裕子 (2006) 『日本語談話論』 和泉書院
- 奥津敬一郎 (1983) 「授受表現の対照研究—日・朝・中・英の比較—」 『日本語学』 2・4 : pp.22-30
- 生越まり子 (1995) 「依頼表現の対照研究—朝鮮語の依頼表現—」 『日本語学』 14・11
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵 (1998) 『敬語表現』 大修館書店
- 蒲谷宏・金東奎・高木美嘉 (2009) 『敬語表現ハンドブック』 大修館書店
- キィ・ティダー (2002) 「ビルマ語と日本語における申し出表現—申し出の仕方を中心に—」 『世界の日本語教育』 12 : pp.145-162 国際交流基金日本語国際センター
- 菊地康人 (1994) 『敬語』 角川書店
- 木村英樹 (1987) 「依頼表現の日中対照」 『日本語学』 6・10 : pp.58-66
- 元智恩 (2008) 『『白い巨塔』における日韓の勧誘の言語行動』 『日本文化研究』 第 25 輯, pp.91-107
- グループ・ジャマシイ (編) (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』 くろしお出版
- 黄明淑 (2011) 「「誘い」表現における中日対照研究—「誘導発話」に着目して—」 『人間文化創成科学論叢』 14 : pp.67-75
- 黄丽敏・陈加松 (2009) 「简析现代汉语“给”字句中的“给”」 『安徽文学』 8 安徽省文学艺术界联合会
- 坂本恵・川口義一・蒲谷宏 (1994) 「「行動展開表現」について—待遇表現教育のための基礎的考察—」 『日本語教育』 82 : pp.47-58 日本語教育学会

- 坂本恵・蒲谷宏（1995）「「申し出」表現について」『国語学研究と資料』19：pp.25-35 国語学研究と資料の会
- 鹿嶋恵（2000）「『助言』における表現選択と意図の伝達：相互作用過程とコンテキストからみた談話分析」三重大学日本語学文学 11：pp. 106-94.
- 島弘子（1993）「助詞の表現「～たらどうですか」「～すれば？」を巡って：ポライトネスの観点から」金沢大学留学生教育センター紀要2：pp.13-23
- 周紅（2010）「現代汉语“给”字句研究综述」『玉林师范学院学报』31-3 玉林师范学院
- 申鉉竣（2004）「「～てもいい」に対応する韓国語の表現」『人文』3：pp.147-157, 学習院大学
- 関山健治・山田敏弘（2011）『日本語から考える英語の表現』白水社
- 高梨信乃（1995a）「スルトイイとスレバイイとシタライイ—条件接続形式による評価的複語表現①—」『日本語類義表現の文法（上）単文編』くろしお出版
- 高梨信乃（1995b）「シテモイイとシテイイ—条件接続形式による評価的複語表現②—」『日本語類義表現の文法（上）単文編』くろしお出版
- 高梨信乃（1996）「条件接続形式を用いた〈勧め〉表現 - シタライイ、シタラ、シタラドウ - 」『現代日本語研究』3,pp.1-15 大阪大学現代日本語学講座
- 高梨信乃（2007）「評価のモダリティと実行のモダリティ」『神戸大学留学生センター紀要』13：pp.35-64
- 高梨信乃（2010）『評価のモダリティ—現代日本語における記述的研究—』くろしお出版
- 高梨信乃（2011）「行為要求について：日本語教育における問題」『神戸大学留学生センター紀要』17：pp.1-17
- 寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 友松悦子・宮本淳・和栗雅子（2010）『新装版 どうなときどう使う日本語表現文型辞典』アルク
- 永倉百合子・山田敏弘（2011）『日本語から考える中国語の表現』白水社
- 西光義弘（1993）「依頼表現の日英語対照」『英語青年』第139巻／第5号
- 西光義弘（編）（1997）『日英対照による英語学概論』くろしお出版
- 仁田義雄（1990）「働きかけの表現をめぐって」『国語論究 2』明治書院
- 仁田義雄（1991）『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 日本語記述文法研究会（編）（2003）『現代日本語文法 4 モダリティ』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会（編）（2009）『現代日本語文法 7』くろしお出版
- 浜田麻里（1995）「依頼表現の対照研究—中国語における命令依頼の方略—」『日本語学』14-11：pp.69-75
- 姫野伴子（1991）「依頼と勧誘—受益者表現の日英対照を中心に—」『世界の日本語教育 日本語教育論集』1：pp. 69-81 国際交流基金日本語国際センター
- 姫野伴子（1997）「行為指示型発話行為の機能と形式」『埼玉大学紀要教養学部』33-1

- 姫野伴子（1998）「勧誘表現の位置—「しよう」「しようか」「しないか」—」『日本語教育』
96 : pp. 132-142 日本語教育学会
- 姫野伴子（2000）「勧めの表現形式」『留学生教育』3 : pp.1-11 埼玉大学留学生センター
- 彭飛（2005）『日本語の「配慮表現」に関する研究—中国語との比較研究における諸問題—』和泉書院
- 前田真彦・山田敏弘（2011）『日本語から考える韓国語の表現』白水社
- 益岡隆志（1991）『モダリティの文法』くろしお出版
- 益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法—改訂版—』くろしお出版
- 水島梨紗（2012）「日本人 EFL 学習者による発話行為「招待・勧誘（Invitation）」の習得
について：大学英語クラスにおける協同学習の取り組みと効果の検証」『札幌学院大学人
文学会紀要』91 : pp.85-98
- 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃（2002）『モダリティ』くろしお出版
- 宮地裕（1995）「依頼表現の位置」『日本語学』14-10、明治書院
- 森山卓郎・安達太郎（1996）『日本語文法セルフマスターシリーズ 6 文の述べ方』くろし
お出版
- 山岡政紀・李奇楠（2004）「依頼表現の日中対照研究」, 北京大学日本文化研究所、日本語
言文化系編, 《日本語言文化研究 第五輯》, 学苑出版社
- 山岡政紀（2004）「日本における配慮表現研究の現状」『日本語日本文学』14、創価大学日
本語日本文学会
- 山岡政紀（2008）『発話機能論』くろしお出版
- 山下由美子（2011）「「しよう」「しようか」の意味・用法：日本語教育への提案」『創価大
学大学院紀要』33 : pp.299-327
- 山田敏弘（2004）『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらう」—』明
治書院
- 山梨正明（1986）『発話行為』（新英文法選書 12）大修館書店
- 楊吟（2013）「申し出表現の形式—日本語・中国語・英語・韓国語の対照研究—」『国文論
叢』46 : pp.48-64 神戸大学文学部国語国文学会
- 吉成祐子（2008）「間接的なく申し出表現に関する語用論的研究」博士学位論文（神戸大
学文化科学研究科）
- 李鳳姫（1990）「上級の日本語教育—韓国人学習者の場合—」『日本語教育』71 : pp.33-43
- 劉月華・潘文娉・故イ著、相原茂監訳（1996）『現代中国語文法総覧』くろしお出版
- 林淑珠（1982）「日本語と中国語の命令・依頼表現の比較—丁寧度の観点から—」『国語
学研究』22、東北大学文学部
- 林炫情・玉岡賀津雄（2010）「韓国語の行為要求表現とその否定表現の丁寧度に関する研究」
『山口県立大学学術情報』3 : pp.11-23

- Austin, J.L. (1962) *How to Do Things with Words*. Oxford: Oxford University Press. (坂本百大訳 (1978) 『言語と行為』 大修館書店)
- Blum-Kulka, S., House, J., & Kasper, G. (1989) *Cross-Cultural Pragmatics: Requests and Apologies*. Norwood, NJ: Ablex Pub.
- Brown, P. & Levinson, S.C. (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Fujioka, M. (2004) "Promoting Pragmatic Competence in the Japanese EFL Classroom: The Speech Act of Advice." 『近畿大学語学教育部紀要』 4-1, pp.1-17
- Goffman, E. (1967) *Interaction Ritual: Essays on Face Behavior*. New York: Pantheon Books. (広瀬英彦・安江孝司訳 (1986) 『儀礼としての相互行為 — 対面行動の社会学』 法政大学出版局)
- Greenbaum, S. & Quirk, R. (1990) *A Student's Grammar of the English Language*. London: Longman.
- Grice, H. P. (1975) "Logic and Conversation." In Cole, P. & Morgan, J. (eds.). *Syntax and Semantics 3 Speech Acts*. New York: Academic Press.
- Halliday, M. A. K. (1985) *An Introduction to Functional Grammar*. London: Edward Arnold
- Leech, G. & Svartvik, J. (1975) *A Communicative Grammar of English*, London: Longman.
- Leech, G. N. (1983) *Principles of Pragmatics*. London: Longman. (池上嘉彦・河上誓作訳 (1987) 『語用論』 紀伊国屋書店)
- Searle, J.R. (1969) *Speech Acts*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Searle, J.R. (1975) "A Taxonomy of Illocutionary Acts." In Gunderson, K. (ed.). *Language, Mind, and Knowledge*, Minneapolis Studies in the Philosophy of Science, vol. 7
- Searle, J.R. (1979) *Expression and Meaning: Studies in the Theory of Speech act*. Cambridge: Cambridge University Press.